

科目名	文芸文化入門		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の専門科目を学ぶ導入として、どのようなトピックや学問世界があるのかを知るための科目です。

科目の概要

文学や芸術を主な題材としながら、文化研究に関するさまざまなトピックを学び興味の幅を広げ、問題意識を育みます。

授業の方法 (ALを含む)

毎回パワーポイントを使いながらトピックについて解説し、リアクションペーパーでコメント・質問を募集、次の回の前半においてそのリアクションペーパーへの回答を行います。都合により授業の順序が入れ替わる場合もあります。

到達目標

1. 文化学に関する基礎知識を修得する。
2. 学問的な考え方を修得する。
3. 自分で博物館や美術館などを訪れ、積極的に文化に触れることを習慣づける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2 「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3 「多様性の理解、協働の技法」
- 1 「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2 「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3 「比較文化的考察」
- 2 「課題発見・考察」
- 3 「価値観の創造、発信」

内容

1	ノートテイキング講座
2	芸術とは何か

3	芸術で世界を支配できるか
4	価値基準
5	風景と内面の発見
6	小説の言葉
7	待つ
8	流れか凝縮か
9	物語と情報
10	象徴主義
11	負けない戦い方
12	小説
13	日本近代小説
14	心理小説
15	総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分が興味・関心のある芸術作品について、自分なりの考察をノートに書きとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】予習ノートに記載した自分の考察に対して、授業で取り上げたトピックを参考にしながら、再考察を書きとめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー50点、学期末レポート50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーのいくつかは毎回の授業でとりあげ回答する。提出されたレポートにはコメントを付し、後期（新学期）に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『新総合図説国語』東京書籍 ISBN978-4-487-36125-0

【推薦書】特に指定しませんが、授業時に紹介されることがあります。

【参考図書】特に指定しませんが、授業時に紹介されることがあります。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文芸文化概論		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGa102		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は1年次の「専門必修科目」の「基礎科目」であり、「文化関連の基礎知識を身につけ読書に取り組む」、「文化関連の基礎知識を自ら収集する」、「文化関連の基礎知識を活用して考察を深める」ことが求められている。『文芸文化入門』を踏まえて文化・文芸に関する理解をさらに深め表現することが必要であり、「専門科目」の学びの基盤となる。

科目の概要

『文芸文化入門』を土台とし、人間の豊かな想像力が生み出した多様な言語芸術、文化事象を概説するとともに、世界の文学、芸術を幅広く現代的な観点から研究・読解するための様々なアプローチを考えていく。国の枠を超えて、文学、芸術を、歴史学的、社会的、哲学的、思想的に研究し、読解を試みるための枠組みを提供し、個々の研究への応用を考え、専門分野に対する理解の深化を促す。

授業の方法

本科目では、講義による解説を中心として、グループによるディスカッションやペアワークを織り交ぜながら授業を進める。【グループワーク】【討議・討論】【レポート(知識)】【リアクションペーパー】【レポート(表現)】

到達目標

- (1) 芸術文化に関して幅広い知識を身につけて文章で説明できる。
- (2) 文化や社会の歴史的な背景に対する理解を深め、具体的に述べ表現できる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 芸術・文化に関する知識
- 3 芸術・文化の特性と歴史に関する知識

内容

1	ガイダンス
2	文学作品、芸術作品を読み解くとは。【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
3	作品論、作家論について【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
4	研究のアプローチ 1ー児童文学の場合グループワーク【討議・討論】【リアクションペーパー】
5	研究のアプローチ 2ー小説の場合グループワーク【討議・討論】【リアクションペーパー】
6	研究のアプローチ 3ー大衆小説の典型グループワーク【討議・討論】【リアクションペーパー】
7	研究のアプローチ 4ー演劇、詩の場合【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】

8	研究のアプローチ 5－メルヘン、ファンタジーの場合【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
9	研究のアプローチ 6－絵画と文学作品の場合【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
10	歴史的・社会的背景からのアプローチ【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
11	原作と映像の比較によるアプローチ【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
12	文学・芸術作品研究の実践 1【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
13	文学・芸術作品研究の実践 2【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
14	伝統芸能・芸術鑑賞【リアクションペーパー】
15	まとめ【レポート（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回

【事前準備】シラバスの内容を確認 [60分]

【事後学修】授業内で課題を提示 [60分]

2回～14回

【事前学修】各授業回で取り上げる作家や作品、キーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。 [60分]

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容をのみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点について調べまとめる。 [60分]

15回

【事前学修】すべての授業のふりかえりと復習。 [90分]

【事後学修】授業の総まとめの内容をA4用紙1-2枚にまとめる。 [90分]

評価方法および評価の基準

各授業回の指示する課題への取り組み（30%）とレポート課題（70%）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1．各授業回で指示する課題への取り組み（15% / 30%）、レポート課題（35% / 70%）

到達目標2．各授業回で指示する課題への取り組み（15% / 30%）、レポート課題（35% / 70%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し学習理解を深められるようにする。レポート課題は返却の上、解説をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので、欠席した場合は各自でプリントアウトして確認すること。

科目名	日本文学概論		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGa103		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年次必修科目の「文芸文化入門」「文芸文化概論」の学びを受け、学科の専門的な学修へ導く科目として位置づけられる。2年次後期開講の「芸術文化概論」に対応し、日本文学を学ぶために必要な基礎知識を習得するための科目である。

科目の概要

日本文学が生み出された歴史とその特性を理解したうえで、文学研究のための様々なアプローチ方法について、具体的な作品と先行研究を取り上げながら考察する。講師の専門分野が古代日本文学のため、主に古典作品を取り上げるが、現代語訳付きで分かりやすく解説する。

授業の方法（ALを含む）

講義による解説を中心とし、毎回の授業においてリアクションペーパーによるフィードバックを取り入れる。

到達目標

- (1)日本文学に関する幅広い知識を習得し、説明できる。
- (2)文学や芸術を読み解くための研究方法を理解し、評価できる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3芸術・文化の特性と歴史に関する知識

内容

1	ガイダンス
2	日本文学の歴史と特性【リアクションペーパー】
3	作家論的アプローチ：藤原道綱母 ～女流作家の誕生【リアクションペーパー】
4	作家論的アプローチ：藤原道綱母 ～貴族の妻の真実【リアクションペーパー】
5	作家論的アプローチ：和泉式部 ～社会に対抗する恋【リアクションペーパー】
6	作歌論的アプローチ：和泉式部 ～2人だけの和歌【リアクションペーパー】
7	文化論的アプローチ：夢と文学 ～夢信仰と和歌【リアクションペーパー】
8	文化論的アプローチ：夢と文学 ～夢と物語・日記【リアクションペーパー】
9	表現論的アプローチ：近代メディアと文学 【リアクションペーパー】
10	文化論的アプローチ：文学に描かれた植物【リアクションペーパー】

11	文化論的アプローチ：文学に描かれた動物【リアクションペーパー】
12	作品論的アプローチ：枕草子～素材と源泉【リアクションペーパー】
13	作品論的アプローチ：源氏物語～典拠と準拠【リアクションペーパー】
14	表現論的アプローチ：現代メディアと文学 【リアクションペーパー】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 1回・2回 【事前準備】日本文学の歴史と特性、それを学ぶことの意義について考察する。〔60分〕
 【事後学習】日本文学の歴史と特性、それを学ぶことの意義についてまとめる。〔60分〕
- 3回～14回【事前準備】授業に関連する文学作品や参考文献を読み、テーマについて知識を深める。〔60分〕
 【事後学習】授業内容を復習し疑問点等を解決する。授業に関わる論文を読んでみる。〔60分〕
- 15回 【事前準備】授業の全体を総復習する〔60分以上〕
 【事後学習】理解が不十分なテーマについて補習する〔60分〕

評価方法および評価の基準

筆記試験70%、リアクションペーパーを含めた平常点30%で、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)筆記試験(40/70)、平常点(20/30)

到達目標(2)筆記試験(30/70)、平常点(10/30)

【フィードバック】毎回の授業でリアクションペーパーの質問等に対して回答し、内容の理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。授業で配布するプリントを使用する。

【推薦書】【参考図書】開講後に適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

筆記試験はすべて記述式の問題です。授業で学んだ内容を自分の言葉と正しい日本語で文章化できるようにしてください。また、興味を持ったテーマについて自発的に調べるといいでしょう。

科目名	芸術文化概論		
担当教員名	岡野 宏		
ナンバリング	KGa104		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格： 文芸文化学科の学位授与方針に該当し、ディプロマポリシー、1 - 1、1 - 2 - 1 に関係する。文芸文化学科における広範囲な学際領域にかかわる、<人間にとって芸術とは何か？>という本質的テーマについて考える。日本と世界の美術および芸術全般について、古代から近代まで、また東洋と西洋とその他の地域の芸術について、比較芸術学的な視野をもって考究する。多くの学科科目と連携する。特に、学芸員過程と関係がある。

科目の概要：○まず西欧のアリストテレスの芸術論を確認したあと、西洋美術史を[古代・中世・ルネサンス・現代]の作品とともにその概要を学ぶ。○次に、日本の中世・近世の文学論・芸術論を確認した後、江戸時代の浮世絵作品にその美意識を探る。○最後に、現代のファッションや建築における美意識をながめ、さらに世界と日本の美術館を紹介する。

授業の方法 (ALを含む)

ル - プル美術館についてDVDの映像で学ぶ。図書館2Fでリサーチをする。ディベートを学ぶ。レポートは優秀なものについて、例年パワポ発表会で、プレゼンの練習と司会・質疑応答の練習を行う。

到達目標：西洋の芸術論はアリストテレスの『詩学』をその始祖とし、以後の芸術学や美学は哲学的方法と科学的方法等があるが、それらは体系的である。日本の芸術論はより実作に即していて、片言隻語的であるが、そこになお珠玉のように光る芸術の真理を伝えていて、興味深いものがある。比較芸術論の方法を学びながら、作品と理論の現在も学ぶ。学生は、東洋・西洋・その他の芸術を学ぶ。また学生は、芸術性の真理を見出す。さらに学生は、近未来の芸術を夢想する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシー - 2 世界と日本の古代から現代までの芸術の理論と作品について考える。 - 3 時空を超えて芸術の多様性を理解し、自他の可能性を追究する。 - 3 比較文化的な柔軟な理解力や共働力を持つ。

内容

紙媒体資料の他、パワポと画像を導入し、図書館でのワークショップ、教室でのディベート・ディスカッション等を通して、個人の創造的思考力を高めたい。毎回、リアクション・ペーパーを提出する。

- 1 序 <藝術>の字義
- 2 西洋の芸術観 アリストテレス『詩学』から
- 3 西洋美術史 古代・中世 ワークショップ
- 4 ルネサンス・近代 同
- 5 *世界の美術館 = DVD <ルーブル美術館> (図書館にて)
- 6 日本の芸術論 『風姿花伝』 『花鏡』
- 7 歌論書・連歌論書・俳論書
- 8 華道論・茶道論
- 9 浮世絵の歴史(江戸時代) ワークショップ
- 10 同 同
- 11 20世紀のデザイナーや建築家
- 12 ココ・シャネル・その他
- 13 視覚障害の芸術家 ヘレンケラーと辻井伸行
- 14 日本と世界の美術館 コレクションの意味
- 15 跋 芸術の未来像とは
《パワポ・発表会 発表会とディスカッション

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】西洋美術史や日本美術史、その他芸術学の参考図書を自由に読んでゆく。

【事後学修】それぞれの芸術家について、図書館の図録や全集などでさらに作品や解説を学んでゆく
前後の学習：合計60分。

評価方法および評価の基準

平常点30点、レポート(または創作)70点などの評価を参照し、総合評価60点以上を合格とする。課題は、レポートあるいは 創作作品(自由選択)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】毎回、プリントを配布する。教科書は使用しない。

【推薦書】今道友信著『美について』(講談社現代新書324)

川勝平太著『美の文明をつくる』(ちくま新書・2002年)

九鬼周造著『「いき」の構造』(岩波文庫・1979年)

【参考図書】それぞれの領域について、授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

コロンビア大学はニューヨークの美術館を学ぶ場としていると聞いた。本講義も首都圏の多くの美術館を訪れて、その企画のオリジナリティや醍醐味を感じていただきたい。ご自分のオリジナルな感性や鑑賞眼をたのしく養っていただきたい。

科目名	文芸文化特講		
担当教員名	武田 比呂男、樋口 一貴、落合 真裕、小林 実		
ナンバリング	KGa305		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

なし

実務経験および科目との関連性

なし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

専門必修科目領域の基礎科目になります。1年次の「文芸文化入門」「文芸文化概論」、2年次の「日本文学概論」「芸術文化概論」を踏まえて、文学や芸術に関するやや専門的な内容をオムニバス形式で行う講義型授業です。

科目の概要

「国際的環境における日本文化の歴史」をテーマに、4名の専任教員とゲスト講師がそれぞれの専門分野に即してレクチャーします。日本における異文化受容、海外での日本イメージの形成と影響、異文化交流の現場で生じる問題、中国冊封体制から西洋中心主義への移行など、文学、美術、芸能の各分野を通じてみえてくる文化の国際性について考えていきます。

授業の方法 (ALを含む)

講義形式で行います。

到達目標

日本文化について国際的な視点から理解することを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2芸術・文化に関する知識

-3芸術・文化の特性と歴史に関する知識

内容

- 1 イントロダクション 鬼ヶ島としての外国 (武田)
- 2 辺境国家「日本」 日本文化の複合的形成 (武田)
- 3 金銀島ジパング探検 世界に 発見 された日本 (武田)
- 4 足利将軍家の「唐物」崇拝 東山御物の宋元絵画から室町水墨画へ (樋口)
- 5 透視遠近法 "西洋の眼" で風景を見る/描く (樋口)
- 6 浮世絵の青い空 輸入顔料プルシアンブルーに込められた異国への憧憬 (樋口)
- 7 まとめ1 (樋口)

- 8 「喜歌劇 ミカド」 架空の国としての日本とビクトリア朝社会 (落合)
- 9 「喜歌劇 ゲイシャ」 19世紀末イギリスと日本の女性像 (落合)
- 10 「歌劇 蝶々夫人」 悲劇性の強化と武士道精神 (落合)
- 11 まとめ2 (落合)
- 12 ジャポニズムを演じる日本人 明治期大衆芸能の欧米公演 (小林)
- 13 西洋文化の大衆化 松井須磨子と「カチューチャの唄」 (小林)
- 14 ディアスポラと異文化受容 ロシア歌劇団からバレエ団まで (小林)
- 15 まとめ3 (小林)

授業内容は都合により変更する場合があります。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることから調べておいてください(各授業に対して60分)。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことから調べましょう(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

毎回授業時のリアクションペーパー(50%) + 振り返り試験(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定はしません。毎回授業時にプリントを配布します。

【推薦書】授業時に紹介することがあります。

【参考図書】授業時に紹介することがあります。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語基礎		
担当教員名	新嶋 良恵		
ナンバリング	Kgb006		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の導入にあたる。敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域の内容をテキストを用いて学習する。1年次後期科目「日本語表現」を学ぶにあたっての基盤となる科目である。

科目の概要

日本語検定3級相当の知識を得ることを目標に、敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域について幅広く学ぶ。単に日本語の知識を得るだけでなく、正答である理由、誤答である理由を考え、説明できるようにする。

授業の方法 (ALを含む)

テキストに掲載されている問題を解き、より正確な日本語力を身につける。問題を解く際には、ペアワーク、グループワークを行い、当該問題の正答、誤答について相互に説明しあう。また、随時、確認テストを行い、知識の定着をはかる。授業の最終週では総合問題に取り組み、定着の程度を確認する。さらに、リアクションペーパーを活用し、授業内容について共有すべき記述については、翌週取り上げる。

【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

学修目標 (到達目標)

- (1) 基礎的な日本語の知識を身につけ、テキストで出題された問題の正誤を解説することができる。
- (2) 日本語検定3級に合格する力を身につけることができる。
- (3) 日本語の運用に関心を持ち、実生活で学びを活かすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

内容

ペアワークやグループワークを行い、普段意識することのない日本語の正誤について確認する。なぜ正解なのか、なぜ間違いなのかをペアあるいはグループで議論し、正しい日本語運用能力を身につける。

1	オリエンテーション 日本語を学ぶ意義を考える【リアクションペーパー】
---	------------------------------------

2	敬語 1 (尊敬語・謙讓語・丁寧語) 【グループワーク】
3	敬語 2 (場面や状況に応じたことばの使い分け) 【グループワーク】
4	敬語 3 (間違いやすい敬語) 【グループワーク】
5	敬語の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
6	文法 1 (活用・可能動詞・受身・使役・文のねじれ) 【グループワーク】
7	文法 2 (接続語・助動詞・助詞) 【グループワーク】
8	文法の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
9	語彙 1 (言葉と言葉の関係) 【グループワーク】
10	語彙 2 (類義語・対義語) 【グループワーク】
11	言葉の意味 1 (多義語・言葉の使い方) 【グループワーク】
12	言葉の意味 2 (慣用句) 【グループワーク】
13	表記 (漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り) 【グループワーク】
14	漢字 (語構成・形の似た漢字・同音異義語・同音異字・同訓異字・四字熟語) 【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】それぞれの分野の解説部分に目を通す。また、知らない表現や関連表現について辞書で調べ、文法力や語彙力を身に付ける。(各授業に対して60分)

【事後学修】間違った問題、理解が浅い内容について、再度問題を解いてみる。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

「敬語」と「文法」の学習後に行う確認テスト(20%)、授業中に課す課題への取り組み(解答ならびに導いた解答に対する解説)(20%)、期末テスト(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】日本語検定委員会編(2010)『ステップアップ日本語講座 中級』東京書籍

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

知識の定着を確認するために、任意ではあるが、日本語検定3級(毎年6月、11月に実施)の受検を推奨する。

総合評価60点以下の場合は再試験を行う。該当者には個別に連絡をする。

科目名	日本語基礎		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	Kgb006		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の導入にあたる。敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域の内容をテキストを用いて学習する。1年次後期科目「日本語表現」を学ぶにあたっての基盤となる科目である。

科目の概要

日本語検定3級相当の知識を得ることを目標に、敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域について幅広く学ぶ。単に日本語の知識を得るだけでなく、正答である理由、誤答である理由を考え、説明できるようにする。

授業の方法 (ALを含む)

テキストに掲載されている問題を解き、より正確な日本語力を身につける。問題を解く際には、ペアワーク、グループワークを行い、当該問題の正答、誤答について相互に説明しあう。また、随時、確認テストを行い、知識の定着をはかる。授業の最終週では総合問題に取り組み、定着の程度を確認する。さらに、リアクションペーパーを活用し、授業内容について共有すべき記述については、翌週取り上げる。

【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

学修目標 (到達目標)

- (1) 基礎的な日本語の知識を身につけ、テキストで出題された問題の正誤を解説することができる。
- (2) 日本語検定3級に合格する力を身につけることができる。
- (3) 日本語の運用に関心を持ち、実生活で学びを活かすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

内容

ペアワークやグループワークを行い、普段意識することのない日本語の正誤について確認する。

なぜ正解なのか、なぜ間違いなのかをペアあるいはグループで議論し、正しい日本語運用能力を身につける。

1	オリエンテーション 日本語を学ぶ意義を考える【リアクションペーパー】
---	------------------------------------

2	敬語 1 (尊敬語・謙讓語・丁寧語)【グループワーク】
3	敬語 2 (場面や状況に応じたことばの使い分け)【グループワーク】
4	敬語 3 (間違いやすい敬語)【グループワーク】
5	敬語の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
6	文法 1 (活用・可能動詞・受身・使役・文のねじれ)【グループワーク】
7	文法 2 (接続語・助動詞・助詞)【グループワーク】
8	文法の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
9	語彙 1 (言葉と言葉の関係)【グループワーク】
10	語彙 2 (類義語・対義語)【グループワーク】
11	言葉の意味 1 (多義語・言葉の使い方)【グループワーク】
12	言葉の意味 2 (慣用句)【グループワーク】
13	表記 (漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り)【グループワーク】
14	漢字 (語構成・形の似た漢字・同音異義語・同音異字・同訓異字・四字熟語)【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】それぞれの分野の解説部分に目を通す。また、知らない表現や関連表現について辞書で調べ、文法力や語彙力を身に付ける。(各授業に対して60分)

【事後学修】間違った問題、理解が浅い内容について、再度問題を解いてみる。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

「敬語」と「文法」の学習後に行う確認テスト(20%)、授業中に課す課題への取り組み(解答ならびに導いた解答に対する解説)(20%)、期末テスト(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】日本語検定委員会編(2010)『ステップアップ日本語講座 中級』東京書籍

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

知識の定着を確認するために、任意ではあるが、日本語検定3級(毎年6月、11月に実施)の受検を推奨する。

総合評価60点以下の場合は再試験を行う。該当者には個別に連絡をする。

科目名	日本語基礎		
担当教員名	宇野 和		
ナンバリング	Kgb006		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の導入にあたる。敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域の内容をテキストを用いて学習する。1年次後期科目「日本語表現」を学ぶにあたっての基盤となる科目である。

科目の概要

日本語検定3級相当の知識を得ることを目標に、敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域について幅広く学ぶ。単に日本語の知識を得るだけでなく、正答である理由、誤答である理由を考え、説明できるようにする。

授業の方法（ALを含む）

テキストに掲載されている問題を解き、より正確な日本語力を身につける。問題を解く際には、ペアワーク、グループワークを行い、当該問題の正答、誤答について相互に説明しあう。また、随時、確認テストを行い、知識の定着をはかる。授業の最終週では総合問題に取り組み、定着の程度を確認する。さらに、リアクションペーパーを活用し、授業内容について共有すべき記述については、翌週取り上げる。

【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

学修目標（到達目標）

- (1) 基礎的な日本語の知識を身につけ、テキストで出題された問題の正誤を解説することができる。
- (2) 日本語検定3級に合格する力を身につけることができる。
- (3) 日本語の運用に関心を持ち、実生活で学びを活かすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

内容

ペアワークやグループワークを行い、普段意識することのない日本語の正誤について確認する。
なぜ正解なのか、なぜ間違いなのかをペアあるいはグループで議論し、正しい日本語運用能力を身につける。

1	オリエンテーション 日本語を学ぶ意義を考える【リアクションペーパー】
---	------------------------------------

2	敬語 1 (尊敬語・謙讓語・丁寧語) 【グループワーク】
3	敬語 2 (場面や状況に応じたことばの使い分け) 【グループワーク】
4	敬語 3 (間違いやすい敬語) 【グループワーク】
5	敬語の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
6	文法 1 (活用・可能動詞・受身・使役・文のねじれ) 【グループワーク】
7	文法 2 (接続語・助動詞・助詞) 【グループワーク】
8	文法の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
9	語彙 1 (言葉と言葉の関係) 【グループワーク】
10	語彙 2 (類義語・対義語) 【グループワーク】
11	言葉の意味 1 (多義語・言葉の使い方) 【グループワーク】
12	言葉の意味 2 (慣用句) 【グループワーク】
13	表記 (漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り) 【グループワーク】
14	漢字 (語構成・形の似た漢字・同音異義語・同音異字・同訓異字・四字熟語) 【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】それぞれの分野の解説部分に目を通す。また、知らない表現や関連表現について辞書で調べ、文法力や語彙力を身に付ける。(各授業に対して60分)

【事後学修】間違った問題、理解が浅い内容について、再度問題を解いてみる。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

「敬語」と「文法」の学習後に行う確認テスト(20%)、授業中に課す課題への取り組み(解答ならびに導いた解答に対する解説)(20%)、期末テスト(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】日本語検定委員会編(2010)『ステップアップ日本語講座 中級』東京書籍

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

知識の定着を確認するために、任意ではあるが、日本語検定3級(毎年6月、11月に実施)の受検を推奨する。

総合評価60点以下の場合は再試験を行う。該当者には個別に連絡をする。

科目名	日本語表現		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGb007		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の基本にあたる。前期「日本語基礎」で修得した語レベルの日本語知識を活かし、文章レベルで目的や相手に合わせたわかりやすい日本語を書けるようにする。日本語表現（2年次）、日本語表現（3年次）の基盤となる科目である。

科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題（自己PR文、意見文、報告文など）に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

授業の方法（ALを含む）

テキストの課題をペアあるいはグループで取り組み、相手や目的に合わせた文章を作成する。作成した文章については、ペアあるいはグループ毎に発表し、相互の工夫を共有、自らの表現の改善を目指す。あわせて、授業外学修として作文・小論文（400字～800字）に取り組み、添削を受け、推敲を重ねる。また、リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】

学修目標（到達目標）

- (1) 自己PR文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成する文章を書くことができる。
- (2) 自ら書いた文章を点検・推敲することができる。
- (3) 推敲した文章について、なぜそのように推敲したかを説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

内容

相手や目的に合わせた文章の書き方について、ペアワークやグループワークを通して学びを深める。

宿題として作成してきた文章については、受講生相互に添削を行い、良かった点、改善が必要な点について共有する。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	論理的な文章とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	目的のある文章 メールの書き方 【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	文の長さを読みやすさ 「一文一義」で書く 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
5	語句の選択・正確な表記【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
6	事実と意見の書き分け【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
7	ブレインストーミング、パラグラフを作る【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
8	目的のある文章？ お知らせの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
9	意見文を書く 主張と根拠 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
10	資料を引用する・要約をする【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	目的のある文章 マニュアルの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
13	レポートを書く【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
14	推敲する【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組む。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業中に課す課題やグループワークへの取り組みなど（40％）

最終課題ならびに最終レポート（60％）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野田尚史・森口稔（2014）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	KGb007		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の基本にあたる。前期「日本語基礎」で修得した語レベルの日本語知識を活かし、文章レベルで目的や相手に合わせたわかりやすい日本語を書けるようにする。日本語表現（2年次）、日本語表現（3年次）の基盤となる科目である。

科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題（自己PR文、意見文、報告文など）に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

授業の方法（ALを含む）

テキストの課題をペアあるいはグループで取り組み、相手や目的に合わせた文章を作成する。作成した文章については、ペアあるいはグループ毎に発表し、相互の工夫を共有、自らの表現の改善を目指す。あわせて、授業外学修として作文・小論文（400字～800字）に取り組み、添削を受け、推敲を重ねる。また、リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】

学修目標（到達目標）

- (1) 自己PR文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成する文章を書くことができる。
- (2) 自ら書いた文章を点検・推敲することができる。
- (3) 推敲した文章について、なぜそのように推敲したかを説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

内容

相手や目的に合わせた文章の書き方について、ペアワークやグループワークを通して学びを深める。

宿題として作成してきた文章については、受講生相互に添削を行い、良かった点、改善が必要な点について共有する。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	論理的な文章とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	目的のある文章 メールの書き方 【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	文の長さを読みやすさ 「一文一義」で書く 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
5	語句の選択・正確な表記【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
6	事実と意見の書き分け【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
7	ブレインストーミング、パラグラフを作る【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
8	目的のある文章？ お知らせの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
9	意見文を書く 主張と根拠 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
10	資料を引用する・要約をする【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	目的のある文章 マニュアルの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
13	レポートを書く【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
14	推敲する【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組む。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業中に課す課題やグループワークへの取り組みなど（40％）

最終課題ならびに最終レポート（60％）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野田尚史・森口稔（2014）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現		
担当教員名	稲葉 美樹		
ナンバリング	KGb007		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の基本にあたる。前期「日本語基礎」で修得した語レベルの日本語知識を活かし、文章レベルで目的や相手に合わせたわかりやすい日本語を書けるようにする。日本語表現（2年次）、日本語表現（3年次）の基盤となる科目である。

科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題（自己PR文、意見文、報告文など）に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

授業の方法（ALを含む）

テキストの課題をペアあるいはグループで取り組み、相手や目的に合わせた文章を作成する。作成した文章については、ペアあるいはグループ毎に発表し、相互の工夫を共有、自らの表現の改善を目指す。あわせて、授業外学修として作文・小論文（400字～800字）に取り組み、添削を受け、推敲を重ねる。また、リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】

学修目標（到達目標）

- (1) 自己PR文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成する文章を書くことができる。
- (2) 自ら書いた文章を点検・推敲することができる。
- (3) 推敲した文章について、なぜそのように推敲したかを説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

内容

相手や目的に合わせた文章の書き方について、ペアワークやグループワークを通して学びを深める。

宿題として作成してきた文章については、受講生相互に添削を行い、良かった点、改善が必要な点について共有する。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	論理的な文章とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	目的のある文章 メールの書き方 【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	文の長さを読みやすさ 「一文一義」で書く 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
5	語句の選択・正確な表記【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
6	事実と意見の書き分け【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
7	ブレインストーミング、パラグラフを作る【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
8	目的のある文章？ お知らせの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
9	意見文を書く 主張と根拠 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
10	資料を引用する・要約をする【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	目的のある文章 マニュアルの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
13	レポートを書く【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
14	推敲する【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組む。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業中に課す課題やグループワークへの取り組みなど（40％）

最終課題ならびに最終レポート（60％）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野田尚史・森口稔（2014）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現		
担当教員名	新嶋 良恵		
ナンバリング	KGb007		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の基本にあたる。前期「日本語基礎」で修得した語レベルの日本語知識を活かし、文章レベルで目的や相手に合わせたわかりやすい日本語を書けるようにする。日本語表現（2年次）、日本語表現（3年次）の基盤となる科目である。

科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題（自己PR文、意見文、報告文など）に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

授業の方法（ALを含む）

テキストの課題をペアあるいはグループで取り組み、相手や目的に合わせた文章を作成する。作成した文章については、ペアあるいはグループ毎に発表し、相互の工夫を共有、自らの表現の改善を目指す。あわせて、授業外学修として作文・小論文（400字～800字）に取り組み、添削を受け、推敲を重ねる。また、リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】

学修目標（到達目標）

- (1) 自己PR文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成する文章を書くことができる。
- (2) 自ら書いた文章を点検・推敲することができる。
- (3) 推敲した文章について、なぜそのように推敲したかを説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

内容

相手や目的に合わせた文章の書き方について、ペアワークやグループワークを通して学びを深める。

宿題として作成してきた文章については、受講生相互に添削を行い、良かった点、改善が必要な点について共有する。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	論理的な文章とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	目的のある文章 メールの書き方 【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	文の長さを読みやすさ 「一文一義」で書く 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
5	語句の選択・正確な表記【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
6	事実と意見の書き分け【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
7	ブレインストーミング、パラグラフを作る【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
8	目的のある文章？ お知らせの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
9	意見文を書く 主張と根拠 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
10	資料を引用する・要約をする【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	目的のある文章 マニュアルの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
13	レポートを書く【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
14	推敲する【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組み。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業中に課す課題やグループワークへの取り組みなど（40％）

最終課題ならびに最終レポート（60％）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野田尚史・森口稔（2014）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGb107		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の応用にあたる。ゼミに所属すると本格的なレポート・論文の執筆が求められるため、その基本的な執筆スキルを本科目で養成する。

科目の概要

本格的なレポート・論文を執筆するための方法を学ぶ。研究分野の異なりによらず、執筆の基本を学んだ後、各自の関心にそって研究課題を設定、実際にレポート・論文を作成してみる。

授業の方法

テキストに沿って、レポート・論文の執筆方法を理解する。事前に執筆した文章を受講者相互に読み合ったり、教員から添削を受けたりする。最終的には、自身が興味・関心を持っている領域、あるいは教員から指示があった領域に関して、レポート・論文を仕上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(表現)】

学修目標 (到達目標)

- (1) 本格的なレポート・論文の執筆方法を修得する。
- (2) 論理的で説得力のある構成、表現の工夫について理解する。
- (3) 日頃の授業で学んだことを活かし、自ら興味・関心のあることについてレポートを作成する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識
- 1 情報収集・分析力

内容

レポート・論文を実際に執筆することで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実に行うことが求められる。

また、ペアワークやグループワークを通して、受講生相互に添削を行い、表現力のスキルを高めていく。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	レポート・論文とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	説得力のあるレポート・論文を書くために【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	研究課題の設定【グループワーク】【レポート（表現）】
5	先行研究の収集【グループワーク】【レポート（表現）】
6	先行研究のまとめ方【グループワーク】【レポート（表現）】
7	適切な引用【グループワーク】【レポート（表現）】
8	レポート・論文を執筆する【レポート（表現）】
9	レポート・論文を推敲する【レポート（表現）】
10	わかりやすい文章を書くために（基礎）【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	わかりやすい文章を書くために（応用）【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	レポート・論文を仕上げる【レポート（表現）】
13	プレゼンテーション（グループ）【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	プレゼンテーション（全体）【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし、レポート・論文の作成に取り組む。論理的かつ客観的な文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

グループワークや学生相互の添削など授業への参加度（30%）

事前準備や事後学修として、課題への取り組み（30%）

学期末に提出する課題（40%）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	KGb107		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の応用にあたる。ゼミに所属すると本格的なレポート・論文の執筆が求められるため、その基本的な執筆スキルを本科目で養成する。

科目の概要

本格的なレポート・論文を執筆するための方法を学ぶ。研究分野の異なりによらず、執筆の基本を学んだ後、各自の関心にそって研究課題を設定、実際にレポート・論文を作成してみる。

授業の方法

テキストに沿って、レポート・論文の執筆方法を理解する。事前に執筆した文章を受講者相互に読み合ったり、教員から添削を受けたりする。最終的には、自身が興味・関心を持っている領域、あるいは教員から指示があった領域に関して、レポート・論文を仕上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(表現)】

学修目標 (到達目標)

- (1) 本格的なレポート・論文の執筆方法を修得する。
- (2) 論理的で説得力のある構成、表現の工夫について理解する。
- (3) 日頃の授業で学んだことを活かし、自ら興味・関心のあることについてレポートを作成する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識
- 1 情報収集・分析力

内容

レポート・論文を実際に執筆することで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実に行うことが求められる。

また、ペアワークやグループワークを通して、受講生相互に添削を行い、表現力のスキルを高めていく。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	レポート・論文とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	説得力のあるレポート・論文を書くために【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	研究課題の設定【グループワーク】【レポート（表現）】
5	先行研究の収集【グループワーク】【レポート（表現）】
6	先行研究のまとめ方【グループワーク】【レポート（表現）】
7	適切な引用【グループワーク】【レポート（表現）】
8	レポート・論文を執筆する【レポート（表現）】
9	レポート・論文を推敲する【レポート（表現）】
10	わかりやすい文章を書くために（基礎）【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	わかりやすい文章を書くために（応用）【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	レポート・論文を仕上げる【レポート（表現）】
13	プレゼンテーション（グループ）【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	プレゼンテーション（全体）【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし、レポート・論文の作成に取り組む。論理的かつ客観的な文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

グループワークや学生相互の添削など授業への参加度（30%）

事前準備や事後学修として、課題への取り組み（30%）

学期末に提出する課題（40%）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現		
担当教員名	宇野 和		
ナンバリング	KGb107		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の応用にあたる。ゼミに所属すると本格的なレポート・論文の執筆が求められるため、その基本的な執筆スキルを本科目で養成する。

科目の概要

本格的なレポート・論文を執筆するための方法を学ぶ。研究分野の異なりによらず、執筆の基本を学んだ後、各自の関心にそって研究課題を設定、実際にレポート・論文を作成してみる。

授業の方法

テキストに沿って、レポート・論文の執筆方法を理解する。事前に執筆した文章を受講者相互に読み合ったり、教員から添削を受けたりする。最終的には、自身が興味・関心を持っている領域、あるいは教員から指示があった領域に関して、レポート・論文を仕上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(表現)】

学修目標 (到達目標)

- (1) 本格的なレポート・論文の執筆方法を修得する。
- (2) 論理的で説得力のある構成、表現の工夫について理解する。
- (3) 日頃の授業で学んだことを活かし、自ら興味・関心のあることについてレポートを作成する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識
- 1 情報収集・分析力

内容

レポート・論文を実際に執筆することで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実に行うことが求められる。

また、ペアワークやグループワークを通して、受講生相互に添削を行い、表現力のスキルを高めていく。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	レポート・論文とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	説得力のあるレポート・論文を書くために【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	研究課題の設定【グループワーク】【レポート（表現）】
5	先行研究の収集【グループワーク】【レポート（表現）】
6	先行研究のまとめ方【グループワーク】【レポート（表現）】
7	適切な引用【グループワーク】【レポート（表現）】
8	レポート・論文を執筆する【レポート（表現）】
9	レポート・論文を推敲する【レポート（表現）】
10	わかりやすい文章を書くために（基礎）【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	わかりやすい文章を書くために（応用）【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	レポート・論文を仕上げる【レポート（表現）】
13	プレゼンテーション（グループ）【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	プレゼンテーション（全体）【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし、レポート・論文の作成に取り組む。論理的かつ客観的な文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

グループワークや学生相互の添削など授業への参加度（30%）

事前準備や事後学修として、課題への取り組み（30%）

学期末に提出する課題（40%）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現		
担当教員名	稲葉 美樹		
ナンバリング	KGb107		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の応用にあたる。ゼミに所属すると本格的なレポート・論文の執筆が求められるため、その基本的な執筆スキルを本科目で養成する。

科目の概要

本格的なレポート・論文を執筆するための方法を学ぶ。研究分野の異なりによらず、執筆の基本を学んだ後、各自の関心にそって研究課題を設定、実際にレポート・論文を作成してみる。

授業の方法

テキストに沿って、レポート・論文の執筆方法を理解する。事前に執筆した文章を受講者相互に読み合ったり、教員から添削を受けたりする。最終的には、自身が興味・関心を持っている領域、あるいは教員から指示があった領域に関して、レポート・論文を仕上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】

学修目標（到達目標）

- (1) 本格的なレポート・論文の執筆方法を修得する。
- (2) 論理的で説得力のある構成、表現の工夫について理解する。
- (3) 日頃の授業で学んだことを活かし、自ら興味・関心のあることについてレポートを作成する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識
- 1 情報収集・分析力

内容

レポート・論文を実際に執筆することで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実に行うことが求められる。

また、ペアワークやグループワークを通して、受講生相互に添削を行い、表現力のスキルを高めていく。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	レポート・論文とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	説得力のあるレポート・論文を書くために【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	研究課題の設定【グループワーク】【レポート（表現）】
5	先行研究の収集【グループワーク】【レポート（表現）】
6	先行研究のまとめ方【グループワーク】【レポート（表現）】
7	適切な引用【グループワーク】【レポート（表現）】
8	レポート・論文を執筆する【レポート（表現）】
9	レポート・論文を推敲する【レポート（表現）】
10	わかりやすい文章を書くために（基礎）【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	わかりやすい文章を書くために（応用）【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	レポート・論文を仕上げる【レポート（表現）】
13	プレゼンテーション（グループ）【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	プレゼンテーション（全体）【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし、レポート・論文の作成に取り組む。論理的かつ客観的な文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

グループワークや学生相互の添削など授業への参加度（30%）

事前準備や事後学修として、課題への取り組み（30%）

学期末に提出する課題（40%）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現		
担当教員名	深澤 瞳		
ナンバリング	KGb107		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の応用にあたる。ゼミに所属すると本格的なレポート・論文の執筆が求められるため、その基本的な執筆スキルを本科目で養成する。

科目の概要

本格的なレポート・論文を執筆するための方法を学ぶ。研究分野の異なりによらず、執筆の基本を学んだ後、各自の関心にそって研究課題を設定、実際にレポート・論文を作成してみる。

授業の方法

テキストに沿って、レポート・論文の執筆方法を理解する。事前に執筆した文章を受講者相互に読み合ったり、教員から添削を受けたりする。最終的には、自身が興味・関心を持っている領域、あるいは教員から指示があった領域に関して、レポート・論文を仕上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(表現)】

学修目標 (到達目標)

- (1) 本格的なレポート・論文の執筆方法を修得する。
- (2) 論理的で説得力のある構成、表現の工夫について理解する。
- (3) 日頃の授業で学んだことを活かし、自ら興味・関心のあることについてレポートを作成する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識
- 1 情報収集・分析力

内容

レポート・論文を実際に執筆することで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実に行うことが求められる。

また、ペアワークやグループワークを通して、受講生相互に添削を行い、表現力のスキルを高めていく。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	レポート・論文とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	説得力のあるレポート・論文を書くために【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	研究課題の設定【グループワーク】【レポート（表現）】
5	先行研究の収集【グループワーク】【レポート（表現）】
6	先行研究のまとめ方【グループワーク】【レポート（表現）】
7	適切な引用【グループワーク】【レポート（表現）】
8	レポート・論文を執筆する【レポート（表現）】
9	レポート・論文を推敲する【レポート（表現）】
10	わかりやすい文章を書くために（基礎）【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	わかりやすい文章を書くために（応用）【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	レポート・論文を仕上げる【レポート（表現）】
13	プレゼンテーション（グループ）【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	プレゼンテーション（全体）【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし、レポート・論文の作成に取り組む。論理的かつ客観的な文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

グループワークや学生相互の添削など授業への参加度（30%）

事前準備や事後学修として、課題への取り組み（30%）

学期末に提出する課題（40%）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGb207		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

卒業研究に従事するにあたって求められるアカデミックスキルを修得する科目である。2年次後期科目「日本語表現」の発展に相当する。また、就職活動を円滑に進めるため、就活生として、社会人として身につけておきたい日本語表現スキルを修得する。

科目の概要

卒業論文のような大部の論文を作成するための方法を学ぶ。テーマの立て方、調査方法、執筆・推敲の方法などを実践によって身につける。また、就職活動を意識した日本語学習においては、自己PR文・履歴書・エントリーシートの作成に役立つ文章表現法、面接・ディスカッションに役立つ口頭表現法を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

執筆した内容について、受講生相互に読み合い、よりよい表現に推敲する。また、後半は就職活動に直結した学びを行い、グループワークや実践を多く取り入れる。提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】

学修目標（到達目標）

- (1) 卒業研究に求められるアカデミックスキルを修得する。
- (2) 就職活動に求められる社会人としての日本語表現法を修得し、就職活動に臨む。
- (3) 社会人に求められる口頭表現のスキルを高め、日常生活で実践する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識
- 1 情報収集・分析力

内容

実際に課題に取り組むことで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実にこなす

ことが求められる。持ち寄った課題については相互批評を行い、学びのポイントを共有する。

また、口頭表現の学習においては、授業内で模擬活動を行い、学生相互の評価により、振り返りを共有していく。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	卒業研究に取り組むということ【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	テーマの見つけ方【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
4	構成を意識する【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
5	引用のルール【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
6	説得力のある書き方とは【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
7	卒業研究の計画をしてみよう 構成・研究課題の立て方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
8	就職活動で求められる日本語とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
9	自己PR文【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
10	履歴書を書く【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	エントリーシートを書く【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	履歴書・エントリーシートを推敲する【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
13	面接の日本語【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	ディスカッションの日本語【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各時間で扱うトピックについて事前に検討し、自分なりの考えや意見を持つ。また、自分が何ができて、何ができていないかを把握する。（各授業に対して60分）

【事後学修】各時間で扱われたトピックに関して、宿題や課題に取り組み、知識やスキルの定着を図る。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（30％）

課題への取り組み（30％）

学期末に課す課題（40％）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGb207		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

卒業研究に従事するにあたって求められるアカデミックスキルを修得する科目である。2年次後期科目「日本語表現」の発展に相当する。また、就職活動を円滑に進めるため、就活生として、社会人として身につけておきたい日本語表現スキルを修得する。

科目の概要

卒業論文のような大部の論文を作成するための方法を学ぶ。テーマの立て方、調査方法、執筆・推敲の方法などを実践によって身につける。また、就職活動を意識した日本語学習においては、自己PR文・履歴書・エントリーシートの作成に役立つ文章表現法、面接・ディスカッションに役立つ口頭表現法を学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

執筆した内容について、受講生相互に読み合い、よりよい表現に推敲する。また、後半は就職活動に直結した学びを行い、グループワークや実践を多く取り入れる。提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(表現)】

学修目標 (到達目標)

- (1) 卒業研究に求められるアカデミックスキルを修得する。
- (2) 就職活動に求められる社会人としての日本語表現法を修得し、就職活動に臨む。
- (3) 社会人に求められる口頭表現のスキルを高め、日常生活で実践する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識
- 1 情報収集・分析力

内容

実際に課題に取り組むことで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実にこなす

ことが求められる。持ち寄った課題については相互批評を行い、学びのポイントを共有する。

また、口頭表現の学習においては、授業内で模擬活動を行い、学生相互の評価により、振り返りを共有していく。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	卒業研究に取り組むということ【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	テーマの見つけ方【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
4	構成を意識する【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
5	引用のルール【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
6	説得力のある書き方とは【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
7	卒業研究の計画をしてみよう 構成・研究課題の立て方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
8	就職活動で求められる日本語とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
9	自己PR文【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
10	履歴書を書く【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	エントリーシートを書く【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	履歴書・エントリーシートを推敲する【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
13	面接の日本語【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	ディスカッションの日本語【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各時間で扱うトピックについて事前に検討し、自分なりの考えや意見を持つ。また、自分が何ができて、何ができていないかを把握する。（各授業に対して60分）

【事後学修】各時間で扱われたトピックに関して、宿題や課題に取り組み、知識やスキルの定着を図る。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（30％）

課題への取り組み（30％）

学期末に課す課題（40％）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGb207		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

卒業研究に従事するにあたって求められるアカデミックスキルを修得する科目である。2年次後期科目「日本語表現」の発展に相当する。また、就職活動を円滑に進めるため、就活生として、社会人として身につけておきたい日本語表現スキルを修得する。

科目の概要

卒業論文のような大部の論文を作成するための方法を学ぶ。テーマの立て方、調査方法、執筆・推敲の方法などを実践によって身につける。また、就職活動を意識した日本語学習においては、自己PR文・履歴書・エントリーシートの作成に役立つ文章表現法、面接・ディスカッションに役立つ口頭表現法を学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

執筆した内容について、受講生相互に読み合い、よりよい表現に推敲する。また、後半は就職活動に直結した学びを行い、グループワークや実践を多く取り入れる。提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(表現)】

学修目標 (到達目標)

- (1) 卒業研究に求められるアカデミックスキルを修得する。
- (2) 就職活動に求められる社会人としての日本語表現法を修得し、就職活動に臨む。
- (3) 社会人に求められる口頭表現のスキルを高め、日常生活で実践する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識
- 1 情報収集・分析力

内容

実際に課題に取り組むことで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実にこなす

ことが求められる。持ち寄った課題については相互批評を行い、学びのポイントを共有する。

また、口頭表現の学習においては、授業内で模擬活動を行い、学生相互の評価により、振り返りを共有していく。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	卒業研究に取り組むということ【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	テーマの見つけ方【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
4	構成を意識する【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
5	引用のルール【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
6	説得力のある書き方とは【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
7	卒業研究の計画をしてみよう 構成・研究課題の立て方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
8	就職活動で求められる日本語とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
9	自己PR文【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
10	履歴書を書く【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	エントリーシートを書く【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	履歴書・エントリーシートを推敲する【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
13	面接の日本語【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	ディスカッションの日本語【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各時間で扱うトピックについて事前に検討し、自分なりの考えや意見を持つ。また、自分が何ができて、何ができていないかを把握する。（各授業に対して60分）

【事後学修】各時間で扱われたトピックに関して、宿題や課題に取り組み、知識やスキルの定着を図る。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（30％）

課題への取り組み（30％）

学期末に課す課題（40％）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	基礎演習		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年生で履修する「卒業研究」に向けて、専門科目におけるゼミナールの基本を学ぶ科目です。

科目の概要

各クラス毎に異なるテーマが設けられ、受講生は自分が所属するクラスにおいて、担当教員から研究方法について解説をうけながら、自分たちで調査・分析・発表・討論の練習を行います。

授業の方法 (ALを含む)

各担当教員の計画にしたがって、データ・資料収集、資料分析、発表、討議・討論などの基礎訓練を行います。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【サービスマーケティング】【PBL】【フィールドワーク】

到達目標

1. テーマに沿った情報収集、資料収集ができるようになる。
2. 資料やテキストの簡単な分析ができるようになる。
3. 収集した情報にもとづいたレジюме作成、発表、表現活動等ができるようになる。
4. テーマにそった討議・討論ができるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

内容

担当教員により多少の違いはありますが、概ね以下のいずれかのようなスケジュール・パターンを基本として行うこととします。

パターン 1

1. ガイダンス

2~6. テーマや課題に関する解説講義。

7~12. 調査・資料収集

13~14. 発表・討論

15. まとめ

パターン 2

1. ガイダンス

2~3. テーマや課題に関する解説講義。

4~14. 発表担当者による発表とグループ討議。

15. まとめ

パターン 3

1. ガイダンス

2~7. テーマAにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

8~14. テーマBにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

15. まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の担当する課題に関する情報収集、調査準備。(1.5時間)

【事後学修】授業のふりかえりと、調査等の補足。(1.5時間)

評価方法および評価の基準

毎回の授業における取り組み姿勢と貢献度(50%)、最終発表もしくは成果物作成の出来(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

発表については授業内でコメントする。成果物の場合は、コメントを付して次年度初頭に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特になし。

【推薦書】必要に応じて授業内で紹介する。

【参考図書】筆ようんに応じて授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	基礎演習		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年生で履修する「卒業研究」に向けて、専門科目におけるゼミナールの基本を学ぶ科目です。

科目の概要

各クラス毎に異なるテーマが設けられ、受講生は自分が所属するクラスにおいて、担当教員から研究方法について解説をうけながら、自分たちで調査・分析・発表・討論の練習を行います。

授業の方法（ALを含む）

各担当教員の計画にしたがって、データ・資料収集、資料分析、発表、討議・討論などの基礎訓練を行います。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【サービスマーケティング】【PBL】【フィールドワーク】

到達目標

1. テーマに沿った情報収集、資料収集ができるようになる。
2. 資料やテキストの簡単な分析ができるようになる。
3. 収集した情報にもとづいたレジュメ作成、発表、表現活動等ができるようになる。
4. テーマにそった討議・討論ができるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

内容

担当教員により多少の違いはありますが、概ね以下のいずれかのようなスケジュール・パターンを基本として行うこととします。

パターン 1

1. ガイダンス

2~6. テーマや課題に関する解説講義。

7~12. 調査・資料収集

13~14. 発表・討論

15. まとめ

パターン 2

1. ガイダンス

2~3. テーマや課題に関する解説講義。

4~14. 発表担当者による発表とグループ討議。

15. まとめ

パターン 3

1. ガイダンス

2~7. テーマAにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

8~14. テーマBにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

15. まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の担当する課題に関する情報収集、調査準備。(1.5時間)

【事後学修】授業のふりかえりと、調査等の補足。(1.5時間)

評価方法および評価の基準

毎回の授業における取り組み姿勢と貢献度(50%)、最終発表もしくは成果物作成の出来(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

発表については授業内でコメントする。成果物の場合は、コメントを付して次年度初頭に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特になし。

【推薦書】必要に応じて授業内で紹介する。

【参考図書】筆ようんに応じて授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	基礎演習		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年生で履修する「卒業研究」に向けて、専門科目におけるゼミナールの基本を学ぶ科目です。

科目の概要

各クラス毎に異なるテーマが設けられ、受講生は自分が所属するクラスにおいて、担当教員から研究方法について解説をうけながら、自分たちで調査・分析・発表・討論の練習を行います。

授業の方法 (ALを含む)

各担当教員の計画にしたがって、データ・資料収集、資料分析、発表、討議・討論などの基礎訓練を行います。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【サービスマーケティング】【PBL】【フィールドワーク】

到達目標

1. テーマに沿った情報収集、資料収集ができるようになる。
2. 資料やテキストの簡単な分析ができるようになる。
3. 収集した情報にもとづいたレジюме作成、発表、表現活動等ができるようになる。
4. テーマにそった討議・討論ができるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2 「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3 「多様性の理解、協働の技法」
- 1 「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2 「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3 「比較文化的考察」
- 4 「芸術・文化に関する表現技法」
- 1 「情報収集・分析」
- 2 「課題発見・考察」
- 3 「価値観の創造、発信」

内容

担当教員により多少の違いはありますが、概ね以下のいずれかのようなスケジュール・パターンを基本として行うこととします。

パターン 1

1. ガイダンス

2~6. テーマや課題に関する解説講義。

7~12. 調査・資料収集

13~14. 発表・討論

15. まとめ

パターン 2

1. ガイダンス

2~3. テーマや課題に関する解説講義。

4~14. 発表担当者による発表とグループ討議。

15. まとめ

パターン 3

1. ガイダンス

2~7. テーマAにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

8~14. テーマBにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

15. まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の担当する課題に関する情報収集、調査準備。(1.5時間)

【事後学修】授業のふりかえりと、調査等の補足。(1.5時間)

評価方法および評価の基準

毎回の授業における取り組み姿勢と貢献度(50%)、最終発表もしくは成果物作成の出来(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

発表については授業内でコメントする。成果物の場合は、コメントを付して次年度初頭に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特になし。

【推薦書】必要に応じて授業内で紹介する。

【参考図書】筆ようんに応じて授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	基礎演習		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年生で履修する「卒業研究」に向けて、専門科目におけるゼミナールの基本を学ぶ科目です。

科目の概要

各クラス毎に異なるテーマが設けられ、受講生は自分が所属するクラスにおいて、担当教員から研究方法について解説をうけながら、自分たちで調査・分析・発表・討論の練習を行います。

授業の方法（ALを含む）

各担当教員の計画にしたがって、データ・資料収集、資料分析、発表、討議・討論などの基礎訓練を行います。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【サービスマーケティング】【PBL】【フィールドワーク】

到達目標

1. テーマに沿った情報収集、資料収集ができるようになる。
2. 資料やテキストの簡単な分析ができるようになる。
3. 収集した情報にもとづいたレジюме作成、発表、表現活動等ができるようになる。
4. テーマにそった討議・討論ができるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

内容

担当教員により多少の違いはありますが、概ね以下のいずれかのようなスケジュール・パターンを基本として行うこととします。

パターン 1

1. ガイダンス

2~6. テーマや課題に関する解説講義。

7~12. 調査・資料収集

13~14. 発表・討論

15. まとめ

パターン 2

1. ガイダンス

2~3. テーマや課題に関する解説講義。

4~14. 発表担当者による発表とグループ討議。

15. まとめ

パターン 3

1. ガイダンス

2~7. テーマAにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

8~14. テーマBにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

15. まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の担当する課題に関する情報収集、調査準備。(1.5時間)

【事後学修】授業のふりかえりと、調査等の補足。(1.5時間)

評価方法および評価の基準

毎回の授業における取り組み姿勢と貢献度(50%)、最終発表もしくは成果物作成の出来(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

発表については授業内でコメントする。成果物の場合は、コメントを付して次年度初頭に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特になし。

【推薦書】必要に応じて授業内で紹介する。

【参考図書】筆ようんに応じて授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	基礎演習		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年生で履修する「卒業研究」に向けて、専門科目におけるゼミナールの基本を学ぶ科目です。

科目の概要

各クラス毎に異なるテーマが設けられ、受講生は自分が所属するクラスにおいて、担当教員から研究方法について解説をうけながら、自分たちで調査・分析・発表・討論の練習を行います。

授業の方法（ALを含む）

各担当教員の計画にしたがって、データ・資料収集、資料分析、発表、討議・討論などの基礎訓練を行います。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【サービスマーケティング】【PBL】【フィールドワーク】

到達目標

1. テーマに沿った情報収集、資料収集ができるようになる。
2. 資料やテキストの簡単な分析ができるようになる。
3. 収集した情報にもとづいたレジюме作成、発表、表現活動等ができるようになる。
4. テーマにそった討議・討論ができるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

内容

担当教員により多少の違いはありますが、概ね以下のいずれかのようなスケジュール・パターンを基本として行うこととします。

パターン 1

1. ガイダンス

2~6. テーマや課題に関する解説講義。

7~12. 調査・資料収集

13~14. 発表・討論

15. まとめ

パターン 2

1. ガイダンス

2~3. テーマや課題に関する解説講義。

4~14. 発表担当者による発表とグループ討議。

15. まとめ

パターン 3

1. ガイダンス

2~7. テーマAにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

8~14. テーマBにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

15. まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の担当する課題に関する情報収集、調査準備。(1.5時間)

【事後学修】授業のふりかえりと、調査等の補足。(1.5時間)

評価方法および評価の基準

毎回の授業における取り組み姿勢と貢献度(50%)、最終発表もしくは成果物作成の出来(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

発表については授業内でコメントする。成果物の場合は、コメントを付して次年度初頭に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特になし。

【推薦書】必要に応じて授業内で紹介する。

【参考図書】筆ようんに応じて授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGc209		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科学位授与方針1、2、3に該当する。

特に思考・判断、関心・意欲・態度の向上を目指す。

科目の概要

Glocalな言語研究と課題解決技法を体感する

地域言語（方言）の研究の最前線を、論文講読や実際の調査を体験する中で、問題解決の手法とともに学ぶ。

授業の方法（ALを含む）大人の学び方、自律的学びの確立を目指す

学び合い、リフレクションのルーティン化

到達目標

- 単なる知識の伝授だけでなく、ことばを通して考えるプロセスを訓練する。
- 身近なものの中に問いを立てることの習慣化を目指す。
- 文献調査と調査を行うためのプロセスを体験し、基本的な統計的手法を学びながら「何で？」を解く楽しみを体感する。
- 個々の関心事を研究にシフトさせる練習を重ねることで知の楽しみを実感してもらう。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識
- 1 自己・自文化理解、客観的分析
- 1 情報収集・分析

内容

ICTを用いた反転授業、アクティブラーニングをベースとした学び合いのスタイルを重視します。毎回のルーティンワーク有。

1	ガイダンス・インストラクション（「文芸文化ゼミ」で学びの構え、型を学ぶ）
2	Glocalとは何か
3	方言とサブカルチャー（擬人化の手法）

4	論文の読み方、書き方の型を知る
5	個々の知的好奇心を知る（ワークショップ1）
6	プロジェクト作り
7	データの収集と分析
8	プレゼンの手法を学ぶ
9	デザインとしてのグラフィック
10	フィールドトリップ1
11	発見のまとめ
12	発表の映像化
13	地域の中にある知的好奇心
14	プレゼン
15	振り返り（まとめ）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次の授業の前日までに事前課題を確認し指示に従うこと。

【事後学修】授業後48時間以内に指定のURLからリフレクションシートにアクセスし登録すること。

（事前・事後ともに各回60分）

評価方法および評価の基準

Googleフォームでのリフレクションをポイント化（60%）、適宜行う課題の評価（30%）、最終テストの評価（10%）。振り返り・・・1~7ポイントポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation 1~3ポイント） 課題・・・3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

多様な学習スタイル、多文化的学びの場で「自由の相互承認」を目指す

自ら問いを立てることの熟達者を目指す

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGc209		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年次に履修する「卒業研究」に向けて、専門的な研究の基礎的な方法を学修する科目です。

科目の概要

一つのテーマについて、受講者各自が資料を収集し、それにもとづいて議論と分析を共有します。

【討議・討論】【プレゼンテーション】【情報収集】【フィールドワーク】

授業の方法（ALを含む）

前半は芥川龍之介に関する作家情報をグループで調べ発表します。後半は文壇事件に関する一次資料の収集と先行研究収集の訓練を行います。

到達目標

1. 先行研究の収集と整理ができるようになる。
2. 一次資料の探索と収集ができるようになる。
3. 情報や資料収集において他のメンバーと協力し合えるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

内容

芥川龍之介が引き起こした「れげんだ・おうれあ事件」について操作します。本ゼミでは、この騒動の全容を確認したうえで、関連する資料をメンバーで手分けしながら集め、事件をどのように評価するか分析・検討していきます。資料収集にあたっては、国立国会図書館や、他大学の図書館等にも出かけてきてもらいます（費用は原則自己負担）。

1	オリエンテーション
2	芥川龍之介の作家情報収集
3	芥川龍之介の作家情報収集
4	芥川龍之介の作家情報収集
5	発表準備（グループ討議）
6	発表準備（グループ討議）
7	発表準備（グループ討議）
8	グループ発表
9	「れげんだおれあ事件」資料収集
10	「れげんだおれあ事件」資料収集
11	「れげんだおれあ事件」資料収集／先行研究収集
12	「れげんだおれあ事件」資料収集／先行研究収集
13	「れげんだおれあ事件」資料収集／先行研究整理
14	先行研究整理
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】芥川龍之介に関する資料収集。国立国会図書館の利用者登録必須。（毎月240分）

【事後学修】授業時に配布された資料の個人データベースをノートに作成する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

資料収集（50点）及び授業への貢献度（50点）を総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません。

【推薦書】特に指定しません。

【参考図書】特に指定しません。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング	KGc209		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

博物館（美術館）で学芸員として勤務経験を有する教員が学生の美術作品研究を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1年次後期の「基礎演習」をふまえ、3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」と4年次の「卒業研究」に向けて専門分野を研究する方法論と態度を学ぶ。

科目の概要

一つの作品について、先行研究をふまえて分析し、その成果をプレゼンテーションして、全員で議論する。

授業の方法（ALを含む）

授業の前半回では学生に対して美術史学における研究方法を紹介し実践させ、後半回では各学生のテーマに沿って個別に研究を指導する。

到達目標

各自が研究対象として定めた作品に対する自分なりの見解を持ち、その内容を他者に理解できるように発表する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-3多種多彩な文化を読み解くことができる。 -2自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる。

内容

美術作品を鑑賞する・分析する・理解する

「美術なんてそれぞれが好きのように見て感じればいいんだよ??? 芸術は感性でわかるもの、知識で理解するものじゃない」しかし、本当にそうだろうか？美術作品の見方を学ぶことによって、作品が何を表現しているのかが分かるようになり、より深く理解することができる。美術鑑賞がよりおもしろくなるのである。

このゼミは、作品の見方を学び、そして自ら作品の特徴を考察することの入門編である。学内で文献を講読するとともに、実際の作品を見るために美術館等へも出かける。各自が関心のある作品を決めて、その作品へどのような切り口でアプローチするかを考え、分析を進めてゆく。学期末にはプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションを行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各自の研究テーマについて自分なりの問題意識を持ち、画集・専門書を読んでノートをまとめておく（各授業に対して60分）。

【事後学修】発表・討議の内容を振り返ってノートにまとめ、最終発表に向けてより研究を深める（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

調査研究・意見交換などの平常の活動を20%、演習の担当部分の発表を40%、最終レポート・作成物などを40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の冒頭で、前回授業の質疑を取りあげて全員で共有し、議論を通じて理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】・【参考図書】 授業内で適宜指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGc209		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は「専門必修科目」の「演習科目」のひとつである。「人文科学の実践的研究を体験し、学びに関心を持つ」、「人文科学の基本的な研究方法を学ぶ」、「自らの課題を設定し探求する」ことが求められている。『基礎演習』を踏まえ、3年次の『文芸文化テーマ研究ゼミ』及び4年次の『卒業研究』につなげるための土台を形成する科目である。

科目の概要

1年次の『基礎演習』を基盤に、自ら興味を持って取り組めるテーマ(課題)を探求するとともに、与えられた課題に対して共同で取り組むスキルや問題解決能力、プレゼンテーション力なども養う。

演劇は我々人間とその社会を巧みに映しとり描いていると言われている。本ゼミではイギリスの演劇を通じて国民性、宗教、制度、ジェンダーなど多彩な角度から考察し、イギリスの歴史や文化への理解を深めていく。更に、鑑賞した演劇を通じてその問題点や特徴的な文化事象を取り上げて、共同で資料収集、分析、更にディスカッション、プレゼンテーションを行う。

演劇(または映画化された演劇作品)を鑑賞し、表現された文化事象とその問題点について考えていく。対象に応じて学内または学外の図書館や資料館を利用しながら資料を収集し、それらに基づいてディスカッションや発表を行う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は演習科目であり、ディスカッション、発表が中心である。必要に応じて研究対象に関連する場所を訪れ情報収集などを行う。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【レポート(知識)】【フィールドワーク】

到達目標

- (1) 自己の研究課題を発見することができる
- (2) 卒業研究に必要な資料調査力、文献分析力、思考力を身につけ活用できる
- (3) 与えられた課題に対して共同で取り組むために必要なスキルや問題解決能力を身につけプレゼンテーションを行うことができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 文化比較
- 2 課題発見、考察

内容

1	ガイダンス
2	クリティカルシンキング【グループワーク】【討議・討論】
3	テーマの探し方【グループワーク】【討議・討論】
4	情報収集の基本【グループワーク】【討議・討論】
5	情報収集と文献検索【フィールドワーク】
6	研究関連の情報整理【グループワーク】【討議・討論】
7	作品の読み解き方 戯曲『ピーター・パン』第1幕【グループワーク】【討議・討論】
8	作品の読み解き方 戯曲『ピーター・パン』第2幕【グループワーク】【討議・討論】
9	作品の読み解き方 戯曲『ピーター・パン』第3幕【グループワーク】【討議・討論】
10	作品の読み解き方 戯曲『ピーター・パン』第4幕【グループワーク】【討議・討論】
11	作品の読み解き方 戯曲『ピーター・パン』第5幕【グループワーク】【討議・討論】
12	学術的文章の特徴と読み方【グループワーク】【討議・討論】
13	よいプレゼンテーションとは【グループワーク】【討議・討論】
14	発表【プレゼンテーション】
15	総まとめ【レポート（表現）】【レポート（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回

【事前準備】シラバスの内容を確認 [60分]

【事後学修】授業内で課題を提示 [60分]

2回～14回

【事前学修】各授業回で取り上げる作家や作品、キーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。 [60分]

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容をのみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点について調べA41枚にまとめる。 [60分]

15回

【事前学修】すべての授業のふりかえり。 [90分]

【事後学修】授業の総まとめの内容をA4用紙1-2枚にまとめる。 [90分]

評価方法および評価の基準

発表40%、レポートや作成物など40%、質疑応答及び授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．レポートや作成物の提出（20% / 40%）、質疑応答及び授業への参加度（10% / 20%）

到達目標2．レポートや作成物の提出（20% / 40%）、質疑応答及び授業への参加度（10% / 20%）

到達目標3．発表（40% / 40%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、プリントを配布する。推薦図書及び参考図書については授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	KGc209		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は「専門必修科目」の「演習科目」のひとつである。「人文科学の実践的研究を体験し、学びに関心を持つ」、「人文科学の基本的な研究方法を学ぶ」、「自らの課題を設定し探求する」ことが求められている。1年次の『基礎演習』を踏まえ、3年次の『文芸文化テーマ研究ゼミ』及び4年次の『卒業研究』につなげるための土台を形成する科目である。

科目の概要

1年次の『基礎演習』を基盤に、自ら興味を持って取り組めるテーマ（課題）を探求するとともに、与えられた課題に対して共同で取り組むスキルや問題解決能力、プレゼンテーション力なども養う。

授業の方法（ALを含む）

前半は講義による解説を中心に、グループでのディスカッションなどを行う。後半は受講者が各自テーマを設定し、調査、分析、発表、ディスカッションを行う。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】

到達目標

- （1）日本語、日本語教育領域の研究手法を修得する。
- （2）身の回りの日本語に目を向け、問いを立てることができる。
- （3）他者と協働しながら課題に取り組み、課題を解決することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3文化比較、 -2課題発見、考察

内容

本ゼミでは、他者と伝え合い、分かり合えるための日本語について、「やさしい日本語」を軸に考えていく。「やさしい日本語」とは、普段使われている言葉を外国人にもわかるように配慮した、簡単な日本語のことで、阪神淡路大震災をきっかけに災害時の日本語として広まり、今では外国人に対してだけでなく、子どもや高齢者などの情報弱者に向けてのものとしても発展している。

前半は、「やさしい日本語」の基礎的な知識を実践例をもとに学ぶ。（災害時／子ども向けの新聞／小学校の教科書／公共表示の日本語）それを踏まえ、地方自治体の防災パンフレットなどを共同で「やさしい日本語」に書き換える作業なども行う。

後半は、それぞれの関心に従ってテーマを決め、「やさしい日本語」の観点から分析し、発表、ディスカッションを行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回の内容に関するキーワードについて調べ、ノートにまとめておくこと。（60分程度）

【事後学修】授業で扱ったトピックについて復習することを必須とし、意見交換を通じて浮かび上がった疑問点や問題点についても調べてまとめておくこと。（60分程度）

評価方法および評価の基準

発表40%、レポートや作成物など40%、質疑応答及び授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、プリントを配布する。推薦図書及び参考図書については授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGc309		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

なし

実務経験および科目との関連性

なし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本文学・日本文化に関する専門選択必修科目になります。

科目の概要

『遠野物語』を演習形式で読みます。

日本の民俗学の父・柳田国男と岩手県遠野出身の佐々木喜善との出会いから生まれた『遠野物語』（明治43年刊行）は日本民俗学の始発にかかわる記念碑的作品とされます。それは、山男や山女、神隠し、ザシキワラシ、河童、姥捨て、……と不思議な物語で満ちています。しかしながら、このテキストを民俗学的資料としてだけ読むことは単純過ぎるでしょう。柳田国男は若き日には新体詩人・松岡国男として活躍し、田山花袋・島崎藤村らと交流する文学者でもあります。また、当時は、文壇を中心として「怪談」がはやった時代でもあります。井上円了、岡本綺堂、泉鏡花、三遊亭円朝といった怪談に関わる人物たちや、文学における自然主義の運動を一方に置くことで『遠野物語』は違った姿を見せるはずです。『遠野物語』は多様な角度からの読み解きを待っているテキストなのです。

参加者のテーマや方法によってさまざまな『遠野物語』が現れてくるでしょう。

授業の方法 (ALを含む)

演習形式で行います。

到達目標

対象となるテキストを理解し、自ら課題を発見し、情報を集め、分析できる力を身に着けます。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-3文化比較

-1情報収集・分析力

-2課題発見、考察

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

『遠野物語』を演習形式で読んでいきます。

『遠野物語』という、文学性豊かな、民俗学の記念碑的作品を通して、文学と民俗とのかかわりや、民俗的世界のあり方、伝承の諸相、テキストの生成過程など、各自のテーマによる発表をもとに参加者全員で考えていきます。

(1) 最初の数回の授業では、『遠野物語』というテキストの特性、柳田国男と『遠野物語』の生まれた背景等についてと、民俗学の研究法について講義を行います。

(2) 発表者は『遠野物語』・『遠野物語拾遺』に載せられた物語を丁寧に読み、各自が興味を持った事柄・テーマについて調査・考察したうえで、作成した資料に基づいて発表します。

テーマ設定の例としては、以下のようなものが考えられるでしょう。

山の神・山男・山女・天狗・山の霊異 (村落社会の空間構造、山と里という空間の相違について考察し、その背景にある信仰・生業等について分析する)

オシラサマ・ザシキワラシ・河童 (村落共同体の内部と外部について分析し、そのズレから生まれる幻想の問題について考える)

魂の行方・まぼろし・前兆 (日本人の死生観・他界観について考察し、そうした死生観・他界観が文学の表現とどのように関わっているかを考える)

伝承文学と書承文学の相違について (『遠野物語』を通して口承文学の文学的な意味について考える)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回のテーマにかかわる『遠野物語』の該当する話を読み、自分なりに理解するようにし、必要であれば参考文献に目を通しておく(各回60分)。

【事後学修】発表および討議内容を反芻し、整理しなおし、疑問点などを調べ、さらに関心に応じて参考文献に目を通す(各回60分)。

評価方法および評価の基準

演習の担当部分の発表4割、最終レポート・作成物など4割、質疑応答などの平常の活動を2割とし、総合評価60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】柳田国男『遠野物語 付・遠野物語拾遺』角川ソフィア文庫

【推薦書】石井正巳『遠野物語を読み解く』平凡社新書、赤坂憲雄・三浦佑之『遠野物語への招待』ちくまぷりまー新書

【参考図書】『柳田国男全集』全36巻+別巻2(筑摩書房、刊行中)、『定本 柳田国男集』全31巻別巻5(筑摩書房)、野村純一他編『柳田国男事典』(勉誠出版)、後藤総一郎・遠野常民大学『注釈 遠野物語』(筑摩書房)、石内徹編『「遠野物語」作品論集成』(大空社)、など。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGc309		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

一年次後期の「基礎演習」を受け、3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」につなげる2年次の必修科目である。また4年次の「卒業研究」を視野に入れ、研究方法の基礎を習得するための演習科目でもある。

科目の概要

『源氏物語』の登場人物をテーマとし、各自が担当した人物について、先行研究や一次資料を収集・分析して資料を作成する。担当者の発表に基づく討議によって『源氏物語』に対する理解を深め、最後に研究レポートを完成させる。

授業の方法（ALを含む）

各自が作成した資料を用いて発表し、それに対してグループ内で質疑応答しながらテーマへの理解を深めていく。【プレゼンテーション】【討議・討論】【レポート】

到達目標

- (1)日本文学に対する理解を深め、比較文化的に述べることができる。
- (2)正しい情報収集と客観的分析を行い、的確に説明することができる。
- (3)テーマから課題を発見し、考察する討論に参加することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3文化比較、
- 2課題発見、考察

内容

『源氏物語』を登場人物中心に読んでいく。

各自が担当した人物について調査し、資料を作成して発表する。毎時間のディスカッションの中で物語の読みを深めていく。【プレゼンテーション】【討論・討議】

なお最初の数時間は調査方法や基本的知識の修得とし、最後に発表した内容をもとにレポートを提出する。【レポート】
受講生が取り上げる人物の例は以下になる。

- | | |
|------|------|
| （女性） | （男性） |
| ・藤壺 | ・夕霧 |
| ・葵の上 | ・柏木 |
| ・夕顔 | ・薫 |

- ・空蝉
- ・六条御息所
- ・紫の上
- ・未摘花
- ・朧月夜
- ・明石の君
- ・女三宮
- ・大君
- ・中君
- ・浮舟

なお受講人数や希望によって、取り上げる人物は変わる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1～4回 【事前準備】『源氏物語』に関する参考文献を探して読む。また粗筋をまとめる。〔60分〕

【事後学習】授業で扱った資料を読み返し、疑問点を解決する。〔60分〕

5回～13回 【事前準備】先行研究を収集し、資料を作成して語句の意味や読み方についても調べる。当日発表する人物に関する物語内容について、現代語訳等を理解しておく〔発表者は1週間以上〕〔担当者以外は60分〕

【事後学習】発表の振返りをし、不十分だった箇所について補充調査する。授業内で生じた疑問点や興味を持った事柄について参考文献を読んで調べる。〔60分〕

14～15回 【事前準備】各自のテーマと課題発見のための資料収集をして熟読する。〔60分以上〕

【事後学習】各自の課題について考察し、レポート執筆にとりかかる。〔1週間以上〕

評価方法および評価の基準

平常点（授業への貢献度）30%、最終レポート70%を総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)平常点(0/30)、レポート(30/70)

到達目標(2)平常点(10/30)、レポート(20/70)

到達目標(3)平常点(20/30)、レポート(20/70)

【フィードバック】発表内容について質疑応答やコメントをし、また、レポート着手から完成への道筋をアドバイスする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

1人で読むのは難しい『源氏物語』も、皆で協力して読むことで楽しく読め、理解も深まります。担当部分はしっかり調べて発表しましょう。

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGc309		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

長年放送番組の制作に関わってきた知識や情報を、文化や芸術についての演習での指導に活かしていく。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科 専門必修科目 演習の一科目である。

1年次後期の「基礎演習」、2年次前期の「文芸文化ゼミ」での学習を発展させ、3年次につなげる授業である。

科目の概要

テーマは「文学・映像作品の中の敬語表現」である。文化庁の「敬語の指針」では、敬語は「相互尊重を基盤とした自己表現」として使うべきだとしている。自分は自己表現としてどんな敬語をどのように使うのか。日々の生活の中で迷うことも多いであろう。その手がかりを、明治以降の文学や映像作品の中に見つけてみようという試みである。前半はテキストを読み敬語研究のポイントをおさえる。後半は文学作品や映像作品を丹念に調べ、敬語に着目しながらその歴史や背景を読み取る。毎回担当者を決め、その発表内容を中心に議論する。最初の授業の日にテキストを指示する。

授業の方法 (ALを含む)

演習形式で行われる。担当者は資料を読み込んでレジュメを作り、発表する。それぞれの関心のあるテーマを見つけ、プレゼンテーションを行う。

到達目標

日本語への関心を持ち、課題を分析する能力を身につけることができる。

レジュメを作成して発表することや討論を通じて自分の考えをまとめあげる能力が身につく。

課題を見つけ、調査研究することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 「文化比較」
- 2 「課題発見・考察」

内容

1	ガイダンス
2	テキスト購読で敬語の研究方法について学ぶ
3	購読発表
4	購読発表
5	購読発表
6	購読発表
7	近代文学作品における敬語表現について考える
8	映画や放送番組における敬語の調査方法について考える
9	研究テーマを考える
10	資料・文献収集の方法
11	受講生の課題発表
12	受講生の課題発表
13	受講生の課題発表
14	最終プレゼンテーション
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】発表担当者は資料を作成する。担当でない時はテキストを調べ疑問点をあげておく。約60分。

【事後学修】発表後、討議した内容を再検討する。自分の課題を見つけるために調査をする。約60分。

評価方法および評価の基準

毎回の授業への参加姿勢から、自分の考えをまとめ議論する能力や発表する能力がついているかどうかを評価する（50%）最終レポートにより、課題発見と分析する能力が身についているかを判断する（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】最初の授業で指示する。

【推薦書】授業の中で紹介する。

【参考図書】授業の中で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

演習の授業はそれぞれが、積極的に発言し、討論に参加することがとても大切である。生き生きとした授業になるよう、意欲的な参加を希望する。

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング	KGc309		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

司書としての実務経験のある者が、出版流通等の近年の傾向をふまえながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：本科目は、文芸文化学科・2年次生の専門必修科目（演習科目）である。1年次「入門ゼミナール」、「基礎演習」、2年次前期「文芸文化ゼミ」における学びの積み重ねを踏まえ、調査・研究（分析、考察）・発表（表現）の基礎を修得し、3年次の演習（文芸文化テーマ研究ゼミ）と4年次の「卒業研究」につなぐ科目として位置されている。

科目の概要 【テーマ：読書空間の空気を読む】

近年、「本屋×」が注目されています。本屋×雑貨、本屋×カフェ、本屋×古民家、本屋×ホテル、本屋×温泉、本屋×居酒屋、本屋×山小屋、本屋×猫、本屋×植物 実に魅力的で多彩な本屋が各地で誕生しています。個性的な店内空間、セレクトされた本、数々のイベント企画など、多くの本屋は本と人を確実につないでいます。このゼミでは、モノに囲まれた本屋という読書空間の魅力を体感しながら、各地で誕生する本屋の意味と価値を考察します。具体的には、ゼミの前半では文献購読（教科書）により本屋や出版流通に関する基礎知識を共有し、受講生自身の意見や考えを整理していきます。毎週の課題提出は必須とし、受講生の発表から討議を重ねていきます。後半は、受講生の皆さんと分担して各地の本屋を対象に実地調査を行います。空間という単に目の前の流行を表面的に追うのではなく、自らの生活の一部として本屋を背負う人々の鼓動と「意志」を含め、本屋を丸ごと読み解くことによって、現在の出版文化の課題を共に考えます。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、文献購読に基づきながら、グループワーク、フィールドワーク、口頭発表などを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート】【フィールドワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

- ・多様な視角から問いをつくり、多様な調査方法（定性・定量）の長短を説明できる。
- ・分析し考察する方法を取得し、本屋の実地調査を踏まえ、口頭発表を行うことができる。
- ・読書空間から単に流行を追うのではなく、現代社会に生きる「ヒト」（書店主）の意志と哲学を読み解く（説明する）ことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 3 文化比較，
- 2 課題発見・考察

内容

「読書空間の空気を読む」をテーマに、受講生とともに「読書空間」の場（現在，歴史）をはじめとする調査先を検討し、分担する予定である。そのため、調査先、調査方法によっては以下の各回の予定が変更になる場合がある。なお、本科目は毎回演習形式にてすすめていく。基本的に、毎授業回にリアクションペーパーを使用する。

1	オリエンテーション：自己紹介，演習の概要
2	近年のユニークな「読書空間づくり」の再発見（1）：書店，雑貨，カフェ【グループワーク】
3	近年のユニークな「読書空間づくり」の再発見（2）：図書館，絵本【グループワーク】
4	テーマ設定：問題意識，興味関心領域の共有と分担【グループワーク】
5	調査の技法と種類【グループワーク】
6	情報・資料収集（1）【グループワーク】
7	情報・資料収集（2）【グループワーク】
8	発表・表現（1）：中間報告【プレゼンテーション】
9	フィールドワークの技法（書店，カフェ，図書館等を予定）【フィールドワーク】
10	インタビューの技法（書店主，編集者，図書館員を予定）【フィールドワーク】
11	研究の技法：分析・考察へ
12	発表・表現の技法
13	発表・表現（2）：最終発表，討議【プレゼンテーション】
14	発表・表現（3）：最終発表，討議【プレゼンテーション】
15	まとめ【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回の演習内容の振り返りとともに，図書，書店，図書館についての報道（ニュース，新聞，雑誌等）を確認する。（各授業に対して60分）

【事後学修】ユニークなセレクト型書店の情報をWebや参考図書などで収集し，興味深い点などを整理すること。推薦書の該当箇所を通読すること。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業中後の課題（40%），授業の参画・発表（20%），最終レポート（40%）とし，総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】本科目は演習のため，他の受講生による発表の評価や意見交換（議論）を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】内沼晋太郎『これからの本屋読本』NHK出版，2018

【推薦書】下記以外は演習中に提示する。

- ・磯井純充『まちライブラリーのつくりかた：本で人をつなぐ』学芸出版社，2015
- ・内沼晋太郎『本の逆襲』朝日出版社，2013（ideaink，10）
- ・田口幹人『まちの本屋』ポプラ社，2015
- ・福島聡『劇場としての書店』新評論，2002
- ・近森高明ほか『無印都市の社会学』法律文化社，2013

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業に積極的に参加する学生を歓迎します！

教科書は必ず購入してください。文献購読にて使用します。

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGc309		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

講義科目で修得した日本語の知識を活用し、実生活にみられる「日本語らしさ」を体験的に理解する科目である。身近な言語である「日本語」を客観的にとらえ、日本語を学問として分析・研究する手法を身につける。文芸文化テーマ研究ゼミ、卒業研究につながる科目である。

科目の概要

商品のパッケージや広告などを収集し、購買意欲を促す魅力的なことばについて、日本語学的な関心から分析を行う。学外活動やグループワークなどを取り入れながら、受講生自らが主体的に考え、発信する機会を多く取り入れる。

授業の方法 (ALを含む)

前半は共通テーマ「お菓子の言語学」にグループで取り組む。後半は各自の興味・関心に応じて、テーマを設定し、調査を進める。進捗状況を適宜行い、受講生相互で学びを深める。提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。また、リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート (表現)】

学修目標 (到達目標)

- (1) 日本語学の研究手法を修得する。
- (2) 表現の多様性や意図性について興味・関心を持つ。
- (3) 日本語学領域におけるレポート・論文の執筆手順を修得し、日本語学のレポート・論文を正しく書くことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 文化比較
- 2 課題発見、考察

内容

前半は、日本語学の分析観点や研究手法について、グループワークやディスカッションを取り入れながら体験的に学び、後半は、受講生の発表を中心とする。

学外活動を積極的に実施し、私たちの言語生活の実態に触れる機会を多く設ける。

1	オリエンテーション（ゼミの進め方）【リアクションペーパー】
2	身近な日本語について考える【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	日本語学とは 日本語を客観的にとらえること 【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	日本語学とは 分析の観点を理解する 【リアクションペーパー】【グループワーク】
5	「お菓子の言語学」 分析対象を絞り、資料をデータ化する【リアクションペーパー】
6	「お菓子の言語学」?発表【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
7	興味・関心のあることについて研究課題を立てる【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	先行研究を調べ、まとめる【リアクションペーパー】【グループワーク】
9	研究計画の発表【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
10	街でことばを収集しよう【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	受講生の発表（1）【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	受講生の発表（2）【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	受講生の発表（3）【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	レポートの作成【レポート（表現）】【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次時に扱う内容やテーマについて、前時の学びを振り返りながら予習を行う。課題が課された際は、当該課題について取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】本時の振り返りをし、今後の調査・分析に必要な作業に取り組む。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

毎回の授業における取り組みと貢献度（40%）

資料収集と調査の報告（30%）

最終レポート（30%）

を単位認定の基準とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

なし

実務経験および科目との関連性

なし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

神話・伝承の世界 物語る欲望を読み解く

科目の性格

3年生の専門必修科目です。学生各自の調査にもとづく発表と討議による演習形式により主体的な学習態度を身につけます。

科目の概要

本ゼミでは日本の神話や昔話、伝説などの伝承、説話などを取り上げます。神話といえば、神々が活躍する荒唐無稽なお話というイメージでとらえる人も多いと思いますが、レヴィ・ストロースが「人類最古の哲学」と呼んだように、神話は私たち人間の精神活動の根源で働く、世界認識の方法であり、その表現といってよいものです。神話に限らず、伝説や昔話、説話などのモノガタリ（口伝えの活動）には人間の精神活動がさまざまに刻印されています。人間は「物語る」動物、あるいは「物語る欲望」に取り憑かれた動物、なのです。

本演習では、そうした「物語る欲望」の産物である、神話、昔話、伝説、説話などの具体的な表現を読み解いていきたいと思えます。なぜこんなモノガタリが生まれたのだろうか、そうした疑問を少しでも解明できたらと思えます。具体的には、前期は基本的な文献を分担してレポートしてみんなで討議し、後期は個別発表と討議を中心にする予定です（対象とするテキストは、古事記の神話や今昔物語集巻27霊鬼、各地に伝わる民話などですが、出席者と相談のうえで決定します。はじめて見るテキストもみんなで読めば怖くありません）。希望者が多ければ伝承とかかわる場所を実際に訪れるフィールドワークも行います（例えば平将門の首塚など。費用は自己負担になります）。

授業の方法 (ALを含む)

演習形式で行います。

到達目標

さまざまな神話・伝承を読み解き、モノガタリを生む人間の精神活動について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3文化比較
- 2課題発見、考察
- 3価値観創造

内容

学生の発表と討議による演習形式を中心とします。発表者は担当部分について資料・参考文献を調べ、発表用資料を作成し

、それにもとづいて発表を行い。その後、参加者全員で討議していきます。前期の最初の数回は、講義形式で資料・参考文献の調査の方法、伝統社会や民俗学の概要について説明を行ったうえで担当を決定します。

年間のスケジュールは以下の通り。

(1) 授業計画説明

演習担当の決定・調査の手順・発表資料の作成手順・参考文献の解題

(2) 前期演習

出席者と相談の上で対象を決定します。

伝承文化のなかから各自の興味・関心のある分野について概説的な発表を行う。

例としては、[通過儀礼（誕生・出産、葬制・墓制、祖先崇拜など）、年中行事（正月、農耕儀礼など）、まつり・民俗芸能、口承文芸（昔話、伝説、民謡、童謡、世間話、都市伝説など）、民間信仰（俗信、妖怪、まじない、のろいなど）、衣食住、民具など]。

『古事記』『今昔物語集』『現代の民話』などに描かれた伝承世界を分担して発表する。

『古事記』『日本書紀』などのなかの神話テキストを分担して発表する。

(3) 後期演習

前期の発表からさらに各自のテーマを絞り込み、レポートでの文章化を前提に発表する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前期：講読する書籍を毎回該当部分を読み自分なりに問題点を把握する。後期：発表者のテーマについて自分の問題意識で調べておく（各回60分）。

【事後学修】前期：授業内で解決しえなかったことなどを調べる。後期：発表・討議の内容から自分の関心・興味に関わることを調べる（各回60分）。

評価方法および評価の基準

演習の担当部分の発表4割、レポート4割、質疑応答などの平常点2割とし、総合評価60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は指定しません。授業中、講読することが決まったテキストは購入して下さい。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

2年次の「文芸文化ゼミ」での学修成果を踏まえ、4年次の「卒業研究」を見据えたPBL型授業の科目である。「卒業研究」の準備科目としての性格を持つ。

科目の概要

受講生の興味関心に応じて学修し、学び得た知見を基に自らのテーマを見つけて調査を進める。また、討論をとおして課題に対する考察を深める。このゼミの中心領域は平安文学であるが、その周辺にある王朝文化や古典文学全般も研究対象とする。

授業の方法（ALを含む）

研究テーマについて課題を見つけて調査・分析し、考察した内容をプレゼンテーションする。ゼミグループ内で討論しながら研究を進めていく。【プレゼンテーション】【討議・討論】【PBL】

到達目標

- (1)研究テーマに基づいた確かな課題を発見し、客観的に調査・分析することができる。
- (2)適切な発表資料や研究レポートを作成し、効果的に説明することができる。
- (3)グループディスカッションにおいて、他の意見を批判・評価することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3文化比較、
- 2課題発見・考察
- 3価値観創造

内容

『源氏物語』を研究対象の手始めとして王朝文化全般について学び、卒業研究のテーマにつなげていくことを目指す。各自の卒業研究につながるテーマを探し、資料収集と分析から始める。テーマとしては、前期のゼミで取り上げる内容以外にも、平安時代の他の文学作品、たとえば、和歌や日記、物語など、各自が興味を持った幅広い分野の中から選ぶことが可能である。文献調査をしっかりと、途中経過を発表し、最後に研究レポートを完成させる。

（前期）

- 1 ガイダンス
- 2 作品概説：『源氏物語』と他の平安文学作品について
- 3 時代概説：『源氏物語』の時代・王朝文化について

4～13 発表：平安文学の中で各自の関心のあるテーマについて【プレゼンテーション】【討論・討議】

14 前期総括：まとめ

15 後期準備：各自の研究テーマを決定する【PBL】

(夏季休暇)後期発表にむけての資料収集と調査

(後期)

16 後期ガイダンス

17～26 中間発表：研究テーマについて【プレゼンテーション】【討論・討議】

27 レポート準備：研究レポートの論題を決める【PBL】

28・29 最終発表：研究レポート報告【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

30 全体のまとめ

例年、前期に五島美術館、後期に国文学研究資料館に出かけます。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】発表担当者は文献を調査して資料を作成し、語句の意味や読みについても調べておく。担当者以外は発表範囲に関連する参考文献等を読んでみる。〔担当者は1週間以上、担当以外は60分〕

【事後学修】発表者は、授業で討議した内容を再検討し、調査不足分について調べる。担当者以外は興味関心を持った項目について調べてみる。〔各授業に対して60分〕

評価方法および評価の基準

各授業における発表と討論への参加状況を平常点として50点、最終レポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)レポート(20/50)

到達目標(2)平常点(30/50)、レポート(30/50)

到達目標(3)平常点(20/50)、

【フィードバック】発表内容へのコメント、研究テーマ決定と研究方法のアドバイスを適宜行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】なし。講師が準備したプリントまたは受講生が作成した資料をもとに進める。

【参考図書】開講後、指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

論文作成に必要な基本的な文章表現方法について、「日本語表現」の授業を復習しておいてください。

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

長年放送番組などの制作に携わってきた経験をゼミでの指導に活かしていく。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科 専門必修科目 演習科目の1科目である。

1・2年次で学んだことを発展させ、4年次の「卒業研究」につながる準備をする。少人数の演習形式で行われる通年科目である。

科目の概要

自分の関心のあるテーマを見つけ出し、調査や研究をする。的確な資料を作成してプレゼンテーションを行ない、最終的に研究レポートとして作成する。前半は文献購読を中心に行う予定である。

授業の方法 (ALを含む) 前半は、毎回担当者はレジュメを作り発表する。司会者が進行するという形で、文献研究をする。後半は自分の関心のある課題を絞り、卒業研究につなげていくための調査・考察の方法論を学ぶ。

到達目標

ゼミでの討論や協力の中で、課題に取り組み問題を解決していく能力を身につけることができる。

自分なりの研究テーマを見つけ出し、情報を取捨選択し、深めることができる。

日本語の文章と音声で自分の考えを人に伝える能力を身につけることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3「文化比較」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造」

内容

現代黙読されることの多い文学の中には、かつては声に出して読まれていたものが多い。朗読を前提に書かれた作品や、口述筆記によって書かれた作品もある。当ゼミでは、暮らしの中の様々な声の文化について考え議論する。具体的には、童話や絵本、日本や世界の昔話、近代や現代の文学作品などを実証的に調べると同時に、どう語られてきたのかにも着目する。そして、舞台朗読、演劇、テレビドラマや映画の台詞、番組やコマーシャルなどメディアで使われてきた日本語につい

て調べ分析する。古典芸能などから学ぶことも必要になってくる。前半は文献購読を中心に行う。最初の授業でテキストを指示する。後半は各自が興味のあるテーマを研究する。国会図書館、国立国語研究所や国文学研究資料館などへの資料収集や取材、舞台鑑賞に行くこともある。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の該当箇所や、参考文献を読む。プレゼンテーションの資料を作る。(約60分)

【事後学修】発表や討議の内容を振り返り、研究を深める。(毎回60分程度)

評価方法および評価の基準

日頃の授業への参加姿勢から問題解決能力を評価する(30%)、課題の提出・発表から情報の取捨選択、考察能力を評価する(30%)、最終レポートにより、日本語で自分の考えを人に伝える能力が身についているかを評価する(40%)それらを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業中に指示する。

【推薦書】【参考図書】授業中に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

お互いに協力して調査・研究が行えるような環境を作り、それぞれのテーマを深めていきたい。

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本語に関する興味関心を深め、様々な問いを元に文献調査だけでなく、更に自ら調査研究へのステップを体験的に学ぶ。

科目の概要

方言調査旅行研修や新語流行語の収集分析など実際にフィールドワークを行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ（就活での自己PRの内容）を作ります。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得！」です。

授業の方法（ALを含む）大人の学び方、自律的学びの確立を目指す

学び合い、リフレクションのルーティン化

到達目標

1. Mind-Map思考法、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化のできるようにする。
2. 日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 自己・自文化理解、客観的分析
- 1 情報収集・分析

内容

参加型プロアクティブ人材育成のためのゼミスタイル。

- 第1回 自己分析と現状分析 第2回 言語研究とは何か
- 第3回 プレゼンテーション、レジメ、論文作成法 第4回 自己分析の実際
- 第5回 プレゼンテーション1 第6回 プレゼンテーション2
- 第7回 フィールドワーク方法論1 第8回 フィールドワーク計画
- 第9回 ライフビジョンとキャリアビジョン 第10回 調査データ分析法
- 第11回 目標設定と達成のための方法 第12回 研究計画作成1

第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成 1 第14回 研究計画作成2

第15回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成2

第16回～第30回 ルーティン ・自己の振り返りの言語化 ・グループワーク ・卒業研究プレリサーチ進捗報告

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次の授業の前日までに事前課題を確認し指示に従うこと。

【事後学修】授業後48時間以内に指定のURLからリフレッシュシートにアクセスし登録すること。

(事前・事後ともに各回60分)

評価方法および評価の基準

課題を基に総合的に評価します。 授業への参加意欲25%、授業ごとに提出する振り返りシート35%、提出物40%で総合して評価する。 以下、提出物等の評価は、振り返り・・・1～7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1～3ポイント、Self-evaluation1～3ポイント) レポート・課題・・・3～8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度課す) 最終課題or試験・・・5～10ポイント
総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】Google formでインターラクティブに適宜フィードバックを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内で指示します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

多様な学習スタイル、多文化的学びの場で「自由の相互承認」を目指す

自ら問いを立てることの熟達者を目指す

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年次の卒業論文制作を見据えた、日本近代文学研究の基礎的訓練を演習形式で行います。

科目の概要

日本近代の文学史および文化史にテーマをしばり、各メンバーが関連事項を分担しながら、事象分析を行います。各自の研究対象については、全員で相談しながら決めます。

授業の方法 (ALを含む)

毎回担当者が調べてまとめたことを発表、それについて全員で議論します。また教員が面談形式で問題点を掘り下げることもあります。

【討議・討論】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 卒業研究のテーマをしばりこむ。
2. 資料収集から発表までの流れを一人でこなせるようになる。
3. 卒業論文の原型になるようなレポートを年度内に書き上げる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

内容

年間30回のスケジュールは次の通りです。

- オリエンテーション（1）
- 日本近代文学史の復習（2～5）
- テーマ設定および発表分担決定（6, 7）
- 資料紹介発表（8～10）
- 研究発表（11～25）
- レポート作成（26～30）

基本的には日本近代文学とその周辺領域を研究してもらいますが、すでに卒業論文のテーマが明確に決まっている場合は、日本近代文学およびその周辺領域に関するテーマについてのみ、相談の上、その研究に関する発表を行ってもよいことにします。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】各自の担当に関する調査、資料収集、レジュメ作成・印刷。（毎月240分）
- 【事後学修】授業での発表の際に出た課題に沿って、まとめノートを作成し、次年度の卒業研究に備えておく。（毎月240分）

評価方法および評価の基準

討論による授業への貢献度（50%）+ 自分の発表に係る準備と発表（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

- 【フィードバック】
- 毎授業の発表時にコメントをたくさん出します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】特にありません。
- 【推薦書】授業時に紹介することがあります。
- 【参考図書】特にありません。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

美術館で学芸員として勤務経験を有する教員が、美術研究を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1・2年次でつちかった関心事や問題意識を発展させ、4年次の「卒業研究」に向けて専門分野を研究する方法論と態度を学ぶ。

科目の概要

美術史の研究方法を学んだ上で、各自がテーマを定め研究を進める。その成果を発表して、全員で議論する。

授業の方法 (ALを含む)

美術史学の専門的な書籍や論文を講読すると同時に、各学生と卒業研究テーマを策定して指導する。

到達目標

これまで学修したことから、自分が卒業研究として掘り下げたいテーマを定める。作品や文献を調査して研究テーマの骨子を作成し、学年末に発表ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-3多種多彩な文化を読み解くことができる。 -2自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる。 -3文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造することができる。

内容

造形芸術研究 作品批評を通じた理解

造形芸術とは形ある芸術、つまり美術を意味している。本ゼミでは、この美術作品や美術家を研究対象として、その研究方法の基礎を学ぶ。美術史学の方法論としては、作品の造形的特徴を分析する様式論が基本となる。その上で、作品に表現されている内容について、文学史や社会史的なアプローチも援用しながら批評する解釈論といったものもある。

このように美術作品を分析するにあたってはさまざまな切り口が存在するが、まず第一歩として、非言語芸術である美術作品を、ことばを使って記述することから始めねばならない。前期には、作品をどのようにことばで描写するのかという点を学び、実践、そして相互に読んで意見交換を行う。また、同時に様々な方法論による研究の事例も学修する。後期には、学生各自が関心のある領域を設定し、卒業研究に向けてテーマを絞り込んでゆく。なお、担当教員が専門とするジャンルは江

戸時代絵画だが、学生の研究対象はこれに限るものではなく、美術全般を対象とする。

造形芸術研究においては、作品を実際に見ることが何より重要なのは言うまでもない。本ゼミではしばしば学外で見学会を実施し、関西方面などへ研修旅行も行う予定である。積極的に参加する意欲のある学生を歓迎する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 教科書の該当部分を予習しておく。各自の研究テーマについて自分なりの問題意識を持って調べておく（各授業に対して60分）。

【事後学修】 発表・討議の内容を振り返り、報告しよう研究に向けてより研究を深める（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

出席および質疑応答などの平常の活動を20%、演習の担当部分の発表を40%、最終レポート・作成物などを40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 提出されたレポートについてのコメントや、レポート内での質問に対する回答は、翌週以降の授業で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書】・【参考図書】 授業内で適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

これまでの学習を活かし、卒業論文作成につながる研究手法を身につける。また、専門的な文献の講読を通し、卒業論文作成に向けての基礎力を高める。

科目の概要

各種文献を読み進めながら、文章談話研究や役割語についての理解を深めていく。あわせて卒業論文を執筆するにあたっての研究計画を立案していく。学外活動やグループワークなどを取り入れながら、受講生自らが主体的に考え、発信する機会を多く取り入れる。

授業の方法 (ALを含む)

前期はグループでテーマを決め、日本語学の基礎的な分析方法を身につける。後期は、卒業研究につながる卒業研究計画を立案し、発表、春季休業中に具体的な研究に着手する。提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。また、リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

到達目標

- (1) 卒業論文作成につながる日本語学の研究手法を修得する。
- (2) 先行研究を収集し、書かれている内容を整理する。
- (3) 表現の多様性や意図性について興味・関心を持ち自ら分析・考察することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 文化比較
- 2 課題発見、考察
- 3 価値観創造

内容

前期は、共通のテーマを設定しグループ研究に取り組む。後期は各自の研究を進め、発表を行う。

学外活動も積極的に実施し、私たちの言語生活の実態に触れる機会を多くとる。

- 第1回目.....オリエンテーション、ゼミの進め方【リアクションペーパー】
- 第2回目.....日本語学の論文を書くということ【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 第3回目.....文章・談話研究とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 第4回目.....グループに分かれて分析対象を決めよう【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 第5回目.....文献検索をしてみよう 日本語学の文献の調べ方 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 第6回目.....文献を読んでみよう【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 第7, 8回目.....読んだ文献を報告してみよう【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
- 第9回目.....先行研究の書き方 自分の研究の価値を高めるために 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 第10~14回目.....グループ研究の成果を発表してみよう【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
- 第15回目.....前期のまとめ【リアクションペーパー】【レポート【表現】】

夏季休業中は後期から扱う自身の研究について、計画を立て文献を収集する

また、国立国語研究所や国文学研究資料館など、当該分野に関わる専門的な図書館を訪れる

- 第16, 17回目.....夏季休業中の成果発表【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
- 第18回目.....研究計画の精度を高める【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
- 第19, 20回目.....中間発表【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
- 第21回目.....中間発表を経ての課題に取り組む【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 第22~26回目.....各自の発表【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
- 第27, 28回目.....発表の講評・総括、卒業論文執筆に向けて【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
- 第29回目.....最終レポート提出に向けて【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
- 第30回目.....まとめ【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次時に扱う内容やテーマについて、前時の学びを振り返りながら予習を行う。課題が課された際は、当該課題について取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】本時の振り返りをし、今後の調査・分析に必要な作業に取り組む。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

毎回の授業における取り組みと貢献度（40%）

資料収集と調査の報告（30%）

最終レポート（30%）

を単位認定の基準とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は「専門必修科目」の「演習科目」のひとつである。「人文科学的実践的研究を体験し、学びに関心を持つ」、「人文科学的な研究方法を学ぶ」、「自らの課題を設定し探求する」ことが求められている。『基礎演習』、『文芸文化テーマ研究ゼミ』を踏まえ、4年次の『卒業研究』につなげるために専門分野への考究を深めるための科目である。

科目の概要

1年次の『基礎演習』、2年次の『文芸文化テーマ研究ゼミ』を基盤に、自ら興味を持って取り組めるテーマ(課題)を探求するとともに、専門研究に本格的に取り組む。1、2年次までに修得した言語文化の知識を、更に発展・深化させるとともに、与えられた課題に対して共同で取り組むスキルや問題解決能力、プレゼンテーション力なども養う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は演習科目であり、授業ではグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心とし、研究対象に関連する場所を訪れる調査活動も含まれる。

到達目標

(1) 英米文学作品を通して英語圏文化に関する基礎的知識と作品研究の方法を身につけ、研究対象について説明することができる

(2) 分析とプレゼンテーション及び論文執筆の方法を修得し、自らの考えや意見を表現することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 文化比較 - 2 課題発見、考察 - 3 価値観創造

内容

本ゼミではイギリスの演劇を読み解いていく。文学性の高い演劇からミュージカルまで、イギリスは数々のドラマで観客を楽しませ、人間や人生について考えてくれる機会を与えてくれる。

まずは作品を丁寧に読み、時代背景やキャラクターの特徴や心情などについて理解を深め考察する。その上で、作品に登場する役を自身で演じるという体験も試みる。演劇作品はあくまで舞台上で上演されることを前提として書かれているため、観客の反応やドラマツルギーにも留意しながら、登場人物の人格や彼らが抱えている葛藤、問題への理解をより一層深めることが狙いである。

演劇の鑑賞眼を更に養うために実際に劇場に足を運び、本物の舞台にも触れる予定である。

グループワークやディスカッションを中心に学びを深めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回

【事前準備】シラバスの内容を確認 [60分]

【事後学修】授業内で課題を提示 [60分]

2回～14回、16回～29回

【事前学修】各授業回で取り上げる作家や作品、キーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。 [60分]

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容をのみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点について調べまとめる。 [60分]

15回、30回

【事前学修】すべての授業のふりかえりと復習。 [90分]

【事後学修】授業の総まとめの内容をA4用紙1-2枚にまとめる。 [90分]

評価方法および評価の基準

発表40%、レポートや作成物など40%、質疑応答及び授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．発表（20% / 40%）、レポートや作成物の提出（20% / 40%）、授業への参加度（10% / 20%）

到達目標2．発表（20% / 40%）、レポートや作成物の提出（20% / 40%）、授業への参加度（10% / 20%）

【フィードバック】提出されたレポートや課題はコメントを記載し翌週以降の授業で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、プリントを配布する。推薦図書及び参考図書については授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

司書としての実務経験のある者が、近年の図書館活動や出版流通の傾向を踏まえながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、これまでに文芸文化学科専門科目等で学んだ内容から、さらにテーマを明確にして専門分野への考究を深めることを目的とし、4年次における卒業論文の提出を目標に、調査・研究を少人数で深め積み重ねる演習科目（文芸文化学科3年次必修科目）である。

科目の概要

図書館とは単なる「館（やかた）」ではなく、社会を創るシステムの一部である。本ゼミでは「図書館史」を中心に、サービス・文庫・読書・司書・書店など、メンバーの興味・関心に応じつつ、幅広い「現場」を研究対象とする。各地の実践や活動の場を調査（文献・現地調査）し、メンバーとともに社会教育の視角から意義を考察する。本ゼミでは図書館や読書をテーマとしているが、司書課程を履修していなくても本科目の履修は可能である。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、主に演習を中心とする。具体的には、前半は文献購読とともに、産学連携プロジェクトを通して、調査研究の視角を習得する（夏期のインターンシップも奨励）。後半は、文献購読や各自の研究テーマを調査し、その結果について口頭発表を重ねていく。【グループワーク】【プレゼンテーション】【インターンシップ】【フィールドワーク】【サービスラーニング】

到達目標

- ・自身の興味関心から今後調査研究するテーマ（問い）を構築することができる。
- ・自身のテーマに沿った調査方法の基礎を修得・理解し、説明することができる。
- ・ゼミメンバー内で積極的に議論し、自分の考えを相対化することができる。
- ・卒業論文の執筆に向けて、基礎知識、調査の方向性（スケジュール）を整理・作成することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 3 文化比較，
- 2 課題発見・考察， - 3 価値観創造

内容

本科目は演習のため、受講者の興味関心に沿って進める。概ねの計画は以下の通りである。

テーマ

図書館史研究序説

キーワード

図書館 図書館史 読書 司書 社会教育 学習論 地域

前期

- ・日本の図書館史（もしくは出版文化など）を読み解くため教科書を指定し、当該図書を分担して通読する。そのため、ほぼ毎回の課題がある。
- ・教科書の通読を通して、図書館サービスや出版文化の積み重ねを理解する。
- ・企業との産学連携プロジェクトを通して、プロジェクト進行の意味や口頭発表の技法を学ぶ。【サービスラーニング】
- ・公共図書館や図書館系企業へのインターンシップを奨励する。公共図書館や図書館関連企業等の経験を通して、生涯にわたるキャリア形成を省察する。【インターンシップ】
- ・社会教育機関としての公共図書館の意義と価値を議論・考察する。【グループワーク】

後期

- ・インターンシップ経験の成果や課題を受講生とともに共有する。【インターンシップ】
- ・図書館の戦後史を発掘する作業（資料調査、聞き取り調査）を予定している。【フィールドワーク】
- ・こうした調査は、卒業論文執筆への問題意識、テーマの決定、研究方法に活かされる。
- ・調査先は、受講生各自で分担して進め、授業中に発表・議論する予定。
- ・前期とともに、産学連携プロジェクトの成果を発表する。これらを通して、図書館のサービスを創るプロセスを企業の方とともに経験する。【サービスラーニング】【プレゼンテーション】
- ・図書館の意義や社会的役割を議論・考察する。【グループワーク】

こうした「学問」と「実践」の両面の活動を通して、地域と伴走する「成長する有機体」をメンバーと共同して読み解きます。学期末に報告書を作成する予定である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の該当箇所や、授業時に示した参考文献を読む。（各授業に対して60分）

【事後学修】配布資料や教科書の該当箇所を読み、図書館の歴史的背景について読み解き、自分の考えを整理する。同時に、卒業研究のテーマの検討に結びつける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参画（10%）、課題の提出・発表（40%）、最終レポート（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】演習形式のため、毎回意見交換（議論）を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】受講生と話し合いながら決める。

【参考図書】以下以外は、随時授業時に提示する。

- ・奥泉和久『図書館史の書き方・学び方』日本図書館協会、2014
- ・菅谷明子『未来をつくる図書館』岩波書店、2003（岩波新書837）
- ・小川徹ほか『公共図書館サービス・運動の歴史2』日本図書館協会、2006
- ・東京社会教育史編集委員会『大都市・東京の社会教育』エイデル研究所、2016
- ・前川恒雄、石井敦『新版図書館の発見』日本放送出版協会、2006
- ・上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房、2018（ちくま新書、1352）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本演習では、ゼミ生同士で協力しあい、共に学びあうという積極的な姿勢を重視します。

科目名	文化を考える		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGd111		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

なし

実務経験および科目との関連性

なし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

芸術文化に関する基礎的な科目です。芸術文化コースの必修科目になります。

科目の概要

洗練された高級なもの、教養として身に着けるべきもの、というようなイメージを持たれたり、振る舞いや信念を基礎づけるものとされたりもする「文化」について考察し、文学・芸術などの文化事象にかかわる自らの姿勢を検証し、そうした文化事象を理解するための基盤を作ることを目的とします。翻訳語として誕生した「文化」という語の考察からはじめ、「文化」の定義や範疇、概念の変遷、担い手や主体性の問題、文化の融合・衝突、政治・社会とのかかわり、物質的なものと精神的なものとの関係など、多方面から「文化」についてアプローチしていきます。

授業の方法 (ALを含む)

講義と学生同士のディスカッション、プレゼンテーションで行います。

到達目標

「文化」について根源的に考えることを通じて、各自の「文化」の概念を獲得し、「考える」技術を身に着けます。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1他者・多文化の理解と受容
- 2自己・自文化の理解
- 3文化比較

内容

- (1) 「文化」という言葉
- (2) 人間と動物
- (3) 環境世界と情報
- (4) 工作する人間
- (5) 遊戯する人間
- (6) 言葉と文化
- (7) 物語する人間

- (8) 記録する人間
- (9) 文化と記号
- (10) 文化を記述する
- (11) 植民地主義と文化
- (12) 文化の接触と複合
- (13) グローバリズムとローカリズム
- (14) 文化の衝突
- (15) まとめ

講義の内容・順序は必要に応じて変更することがあります。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることから調べておいてください（各授業に対して60分）。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことから調べましょう（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

筆記試験 7 割、レポート・提出物など 3 割とし、総合評価 6 0 点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合、「再試験」を実施する予定です。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は指定しません。読書レポートの対象はできるだけ購入して下さい。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。

参考文献：

そのほか参考文献は授業中随時紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本と異文化		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGd212		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本の文学と美術を学ぶための専門基礎科目です。学芸員課程の専門必修科目にもなります。

科目の概要

古代から近世までの日本の歴史を、海外文化移入の観点から論じていきます。

日本の文学史や美術史を学ぶ上で必要となる、歴史の基礎知識を学びます。

概説的な内容なので、高校で日本史を選択しなかった人でも大丈夫です。

2回のミニテストを通じて、理解の定着をはかります。

授業の方法（ALを含む）

プリントとを使いながら講義をおこないます。学期途中で2回のミニテストをおこないます。

到達目標

1. 東アジアを中心とする日本史について、基礎的な知識を修得する。
2. 美術や文学を史的な観点から考察できるようになる。
3. 日本文化について多文化共生の観点からとらえられるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

内容

1	「日本」「日本人」を相対化する
---	-----------------

2	漢字からみる古代日本1
3	漢字からみる古代日本1
4	仏教口伝1
5	仏教口伝1
6	空海1
7	空海2
8	ふりかえり【ミニテスト】
9	日宋貿易1
10	日宋貿易2
11	日明貿易1
12	日明貿易2
13	南蛮貿易1
14	南蛮貿易2
15	ふりかえり【ミニテスト】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で取り上げる日本史の内容について、インターネットなどを利用しながら、自分でノートにまとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業中に書きとめたノートを、読みやすい内容にまとめ直す。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

ミニテスト2回(100%)、その合計で60%以上を合格とします。

ミニテスト1(50/100)

ミニテスト2(50/100)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定はありません。毎回プリントを配布します。

【推薦書】特にありませんが、授業内で紹介することがあります。

【参考図書】高校までに使用した日本史の教科書や参考書があれば、それを読み直してください。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

やむを得ない事情によりミニテストによるふりかえりを受けられなかった場合は、該当者のみ別日程で補講を行います。

科目名	世界の演劇		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGd213		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は「専門基幹科目」の「芸術文化基礎科目」に属する選択必修科目となる。「芸術・文化関連の専門知識を身につけ読書に取り組む」、「芸術・文化関連の専門知識を自ら収集する」、「芸術・文化関連の専門知識を活用して考察を深める」ことが求められている。3年次のコース選択に備えて興味関心のあり方を見定めつつ本科目を理解する必要がある。『芸術とことば』や「専門選択科目」の「芸術文化領域」、「総合文化領域」の科目と関連性がある。

科目の概要

視覚文化である多様な舞台芸術の実例に多く触れ、自分の関心のある分野に自覚的、積極的にアプローチすることを目的とする。西洋を中心に、古代ギリシアから始まって現代に至る緩やかな時代順に、舞台芸術の基本的な概念、特性、意義、現在の課題、可能性を考察していく。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、グループによるディカッションやペアワーク、プレゼンテーションなどを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【討議・討論】【理化シヨンペーパー】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

到達目標

- （１）演劇と人間生活との関わりを理解することができる
- （２）多種多様な演劇文化をより深く理解するとともに他者、他文化をを理解し口頭で表現することができる
- （３）舞台芸術に関する基礎的な知識を養い文章で説明し表現することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 芸術・文化に関する知識

内容

1	ガイダンス
2	ギリシャとローマの演劇（神々が絶対の演劇、命がけの舞台） 【リアクションペーパー】
3	中世の演劇（笑いのない演劇）【リアクションペーパー】
4	イタリア・ルネッサンス期の演劇（笑劇、パントマイム、仮面即興劇など）【リアクションペーパー】
5	フランス・ルネッサンス期の演劇（モリエールの風刺喜劇、風習喜劇）【リアクションペーパー】

6	スペイン・ルネッサンス期の演劇（大衆文化としての演劇）【リアクションペーパー】
7	イギリス・エリザベス朝の演劇（シェイクスピア全盛期）【リアクションペーパー】
8	18世紀の演劇（俳優中心の演劇、娯楽としての演劇）【リアクションペーパー】
9	19世紀の演劇（客間劇、メロドラマ、リアリズム演劇など）【リアクションペーパー】
10	20世紀以降の演劇（不条理と矛盾の演劇）【リアクションペーパー】
11	20世紀以降の演劇（ミュージカルの誕生と展開）【リアクションペーパー】
12	理解度の確認【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
13	発表1【プレゼンテーション】
14	発表2【プレゼンテーション】
15	総まとめ【レポート（知識）】【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回

【事前準備】シラバスの内容を確認 [60分]

【事後学修】授業内で課題を提示 [60分]

2回～14回

【事前学修】各授業回で取り上げる作品、キーワード、トピックについて事前に調べA41枚にまとめる。 [60分]

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容をのみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点について調べまとめる。 [60分]

15回

【事前学修】すべての授業のふりかえりと復習。 [90分]

【事後学修】授業の総まとめの内容をA4用紙1-2枚にまとめる。 [90分]

評価方法および評価の基準

毎回のリアクションペーパー20%、確認レポート40%、発表40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．リアクションペーパー（10% / 20%）、確認レポート（20% / 40%）

到達目標2．発表（40%）

到達目標3．リアクションペーパー（10% / 20%）、確認レポート（20% / 40%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントすること。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	芸術とことば		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGd214		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

放送などで経験したアナウンサーとしての技術を生かし、朗読やナレーションの技術を指導する。また、声に出して朗読することによって、文学作品をより深く解釈・鑑賞し、古典芸能など声の文化に触れる姿勢を伝える。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間生活学部 文芸文化学科 専門基幹科目 芸術文化基礎科目 の一科目である。

科目の概要

朗読は単に声に出して読むだけの行為ではなく、声で作品の世界を聞き手に届ける表現行為である。朗読を通してさまざまな作品を深く読み、解釈し、鑑賞する。散文や韻文をことばによる芸術作品と捉え、選ばれたことばの響きや調べ、その表現技法及び表現効果を探る。ブックレポートの提出と発表があり、事前学習も必要である。意欲のある学生の参加を希望する。

授業の方法

どう朗読したら作品の世界を聞き手に届けられるか。現代の散文・韻文や古典作品を読み込み朗読する。個人で行うとともに、グループ学習なども生かす。また、作品のブックレポートを書き、朗読とともに発表し、クラスメートと評価し合う。そのことによって「読む」「話す」「書く」「聞く」という、日本語運用能力や語彙力を高め、芸術・文化に関する知識も身につけていく。

到達目標

作品を深く読み、自分の観点で作品を解釈する力が身につく。正しい日本語の発声発音で作品の魅力を伝える能力、朗読の技術が修得できる。古典芸能を含め、日本の声の文化に親しむ姿勢や日本語に対する豊かな感性が身につく。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2 「芸術・文化に関する知識」

内容

1	「朗読」の基礎と魅力
---	------------

2	伝わる読みのポイント
3	画面にあわせたナレーション
4	画面にあわせたナレーション
5	現代の小説を朗読する
6	現代の小説を朗読する
7	ブックレポートの発表
8	古典作品の朗読
9	古典作品の朗読
10	詩の朗読
11	短歌の朗読
12	俳句の朗読
13	現代の朗読活動について
14	ブックレポートの発表
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】作品の背景や内容について調べ、熟読し、下読みをして授業に臨む。

【事後学修】学んだことを発展させ、課題に取りくむ。

それらの、所要時間は1時間以上。準備すればするほど、能力は高まり、知識は身につく。

評価方法および評価の基準

ブックレポートで、自分の観点で作品を解釈し論理的に述べる事が出来るか評価する(40%)

朗読の発表と最終テストで、正しい発音発声や朗読の基本が身についているか判断する(40%)

日頃の授業や課外学習への参加意欲から、声の文化に親しむ姿勢を持つ事が出来ているか評価する(20%)

これらを総合して評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】ラフカディオ・ハーン著、池田雅之訳『新編日本の面影』(角川ソフィア文庫、2000年)、三浦しをん著『愛なき世界』(中央公論新社、2018年)などを使用する。

(参考図書)授業中に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

声に出して読むだけでは朗読とは言えない。作品に真摯に向き合い、作者や作品の生まれた時代や背景についても調べ、作品を深く解釈することが必要である。授業中も積極的に声を出し、グループワークにも参加することのできる、意欲のある学生の受講を希望する。

科目名	日本語学入門		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGe115		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本語・日本文学コースに所属を希望する学生は、必修科目となる。日本語学に関して包括的な内容を学ぶ。私たちにとって身近な日本語を、客観的に観察・分析することで、普段は意識していない日本語の規則や表現工夫を探っていく。加えて、言語を研究する基本的な手法を身につける。

科目の概要

講義では、日本語についての具体的かつ身近な事例を取り上げながら、日本語学の基礎的事項を解説する。また、それぞれのトピックに関連したミニレポートを課し、知識と理解の定着をはかる。

授業の方法 (ALを含む)

テキストで提示されているトピックに関連して、身近な事例を取り上げながら授業を行う。マンガや歌詞、映画などを資料にし、ペアワークやグループワークを通じて日本語の表現効果を理解する。また、リアクションペーパーに対するコメントは翌週に行い、共有すべき内容については別途プリント等を配布する。

【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

学修目標 (到達目標)

- (1) 身近な日本語に興味・関心を持ち、その表現効果を説明することができる。
- (2) 日本語の持つ規則性と体系性を理解し「日本語らしさ」を具体的に指摘することができる。
- (3) 日本語の特質を理解し、日常生活の中での「日本語らしさ」を客観的に言及することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

内容

日本語学の基本について、身近な言語事象 (アニメやマンガ、歌謡曲) を例にしながら学習を進める。ペアワークやグループ活動を取り入れながら、日頃、無意識に使用している日本語の特徴や法則について、討議を手がかりに主体的に考えてみる。

授業で取り上げた言語現象が、実際の生活においてどのように運用されているのか、自らの言語生活を振り返ることで、理解を深めてもらいたい。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	日本語の音と形1（発音のしくみ・特殊拍）【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	日本語の音と形2（五十音図・音素と異音）【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	日本語の音と形3（アクセント・漢字かな交じり文・短縮語）【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（知識）】
5	日本語の文法1（活用・格助詞）【リアクションペーパー】【グループワーク】
6	日本語の文法2（使役・受身）【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	日本語の文法3（テンス・モダリティ・条件）【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	日本語らしい表現1（省略・「は」と「が」）【リアクションペーパー】【グループワーク】
9	日本語らしい表現2（とりたて助詞・「のだ」）【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	日本語らしい表現3（授受表現・敬語・日本語学習者の日本語）【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	日本語の変化と多様性1（ら抜きことば・現代語に残る古典語）【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	日本語の変化と多様性2（日本語の地域差・方言の周圏分布）【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	日本語の変化と多様性3（ことばの位相差・現代敬語の特徴・ことばに潜む差別）【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	日本語の世界とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】学習内容に関連して、自らの日本語使用や身近な日本語を振り返る。専門用語や術語については、事前に辞書等で調べる。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容に関連して、規範的な日本語使用と実際の日本語使用の相違に関心を持ち、その理由や背景について考えてみる。（各授業対して60分）

評価方法および評価の基準

グループワークなどの授業への参加度（20%）、授業終了後、ならびに授業中に課す小テスト（20%）、期末テスト（60%）とし、総合評価 60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】庵功雄他（2003）『やさしい日本語のしくみ』くろしお出版

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	言語学入門		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGe116		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の学びの基盤となる「ことば」に関心を持つと共に、社会に出てからも役立つ技術の基礎を学ぶ科目でもある。

科目の概要

特に気づくこともなく使っている身の回りのことばやコミュニケーションを、何で？ どうして？ を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけとする。

授業の方法 (ALを含む)

講義だけでなくワークショップスタイルの対話型授業で行う。

大人の学び方、自律的学びの確立を目指す

学び合い、リフレクションのルーティン化

到達目標

1. 単なる知識の伝授だけでなく、ことばを通して考えるプロセスを訓練する。
2. 身近なものの中に問いを立てるものの習慣化を目指す。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識
- 1 自己・自文化理解、客観的分析
- 1 情報収集・分析

内容

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。おすすめです。

- 第1回 インストラクション（授業の方法と評価の仕方）
- 第2回 言語学のイメージ、ことばについての思い込みを探る
- 第3回 言語学が重視しているものとは
- 第4回 言語学の考え方
- 第5回 言語は人間だけのもの？
- 第6回 言語の音声について
- 第7回 世界中の言語音を記述する方法
- 第8回 文法と意味
- 第9回 振り返りとリサーチの手法1
- 第10回 世界の言語はいくつあるのか
- 第11回 言語の歴史を考える
- 第12回 美しい言語、汚い言語
- 第13回 言語学は役に立つのか
- 第14回 リサーチの手法2
- 第15回 振り返りと意味づけ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1週間の中でことばやコミュニケーションについての疑問や発見をまとめておく。事前課題の確認。【事後学習】* 毎回授業後48時間以内にGoogleフォームに まとめ（何を学べたか）&感想（質問を含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」を提出。（事前事後ともに60分）

評価方法および評価の基準

Googleフォームでのリフレクションをポイント化（60%）、適宜行う課題の評価（30%）、最終テストの評価（10%）。振り返り…1~7ポイントポイント、まとめ&感想…1~3ポイント、Self-evaluation 1~3ポイント） 課題…3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で説明します。

【推薦図書】黒田龍之介『はじめての言語学』講談社現代新書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけとなると良いですね。

科目名	日本文学史 A		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGe217		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科「日本語・日本文学コース」の基幹科目 (選択必修) および教職課程の必修科目であり、「日本文学史 B」「日本文学史 C」と共に日本文学の歴史に関する基本的な知識を学修し、学科の学びの基盤を作るための科目である。

科目の概要

古代日本の歴史や文化の流れをたどりながら日本文学の始まりとその展開について学ぶ。古代文学の代表的な作品を時代順に取り上げ、それぞれの作品が生まれた必然性と文学史的な価値を知る。また、部分的に原文に触れ古典文学の醍醐味を味わう。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では講義による解説を中心とし、毎回の授業においてリアクションペーパーによるフィードバックを取り入れる。【リアクションペーパー】

到達目標

- (1) 日本の古代文学史についての基礎的知識を修得し、文章で説明できる。
- (2) 古代日本人の精神活動の歴史を理解し、現代と比較考察できる。
- (3) 古典文学に興味関心を持ち、主体的に作品を読んで授業に参加できる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3芸術・文化の特性と歴史に関する知識 -2自己・自己文化の理解、客観的分析 -3価値観創造

内容

この授業は講義を基本とし、リアクションペーパーを活用しながら学びを深めていく。

1	ガイダンス・文学のはじまり
2	上代文学の時代区分と歴史的背景【リアクションペーパー】
3	現存最古の書『古事記』【リアクションペーパー】
4	最初の和歌集『万葉集』【リアクションペーパー】
5	その他の上代文学【リアクションペーパー】
6	中古文学の時代区分と歴史的背景【リアクションペーパー】
7	勅撰和歌集の誕生～『古今集』を中心に【リアクションペーパー】
8	作り物語の世界～『竹取物語』を中心に【リアクションペーパー】

9	歌物語の世界～『伊勢物語』を中心に【リアクションペーパー】
10	日記文学の誕生～『土佐日記』と『蜻蛉日記』【リアクションペーパー】
11	女流日記文学の世界～『和泉式部日記』『紫式部日記』その他【リアクションペーパー】
12	後宮文化の隆盛～『枕草子』と『源氏物語』【リアクションペーパー】
13	歴史物語の誕生～『栄華物語』と『大鏡』【リアクションペーパー】
14	その他の中古文学・まとめ
15	学修内容の確認・復習

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 1回 【事前準備】LiveCampusに提示した事前課題を行う。〔60分〕
【事後学習】授業ノートを作成し、疑問点を解決しておく。〔60分〕
- 2～14回 【事前準備】各回で扱う作品についてテキストや関連図書を読み、語句を調べる。〔60分〕
【事後学習】授業中ノートを整理し、疑問箇所は辞書や参考書等で調べて解決する。〔60分〕
- 15回 【事前準備】古代文学全体について復習し授業ノートを整理する。〔60分〕
【事後学習】古代日本文学史の授業ノートを完成させる。〔60分〕

評価方法および評価の基準

筆記試験80%、平常点20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)筆記試験(60/80)、平常点(5/20)

到達目標(2)筆記試験(15/80)、平常点(10/20)

到達目標(3)筆記試験(5/80)、平常点(5/20)

【フィードバック】筆記試験の結果を返却し問題の解説をして、学習の振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】池内輝夫他監修『新総合図説国語 新訂版』東京書籍

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

やむをえない事情で試験を欠席した場合は追試を、平常点を満たした上で合格点に届かなかった場合は再試を一度だけ行います。

科目名	日本文学史 B		
担当教員名	東 聖子		
ナンバリング	KGe218		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

有。

実務経験および科目との関連性

高校の非常勤講師。大学の文学史のテキストの分担執筆。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格： [文芸文化学科ディプロマポリシーの 1・2]

日本文学を歴史的推移とともに、その概要を学ぶ基本的な内容である。日本文学の大きな流れの中で、中世・近世文学史の < 戦乱の世を背景とした無常観と幽玄の美意識 > < 泰平の世を背景とした浮世的享楽観と多様な美意識 > という時代風潮を、巨視的に学ぶ。歴史学・美学・日本学・芸道論・美術史その他の領域をふまえて学んでいこう。

科目の概要： 中世・近世文学のそれぞれを、序・韻文・散文・芸能の順で学んでゆく、そしてそれぞれ最後に実際の文学作品を楽しく読んでゆく。絵巻物や扇面図や大和絵・浮世絵などでビジュアルに味わい、能・歌舞伎などで芸能美を楽しみたい。

授業の方法 (ALを含む)： 毎回、< パワーポイント > で簡潔にまなび、< ビジュアルなテキスト > を眺めながら、各時代の特色・作家・作品を学ぶ。最後に < リアクション・ペーパー > を書いて、個性的で簡潔なまとめの文章化をマスターする。

到達目標： 第一に、< 中世文学史 > は鎌倉・南北朝・室町・安土桃山時代という戦乱の世であり、< 近世文学 > は江戸時代という泰平の世の文学史で対照的である。序において各文学史の特色をまとめ、そのあとで韻文・散文・その他という順序で学んでゆく。第二に、もっとも中世らしい文学、もっとも近世らしい文学を読みながら、その根底にある思想性と日本語の独自の美を楽しみたい。第三に、それぞれの時代背景の影響を色濃くうけて、さまざまな個性の作者が固有の文学を残している。時代精神と文学の関係を考えながら、「中世とは何か？近世とは何か？」というテーマを自分なりに、追いかけてみよう。また文学史を学ぶ意義もあわせて考えてゆきたい。最後にグローバルな視野で、日本文学・文化の独自の価値を認識したい。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1 - 世界の中の日本文学を知る。 - 1 中世・近世の日本文学の特質の分析。 - 3 芸術の多様性の理解と発信。

内容

【授業の方法】パワーポイントとテキストと折々に参考プリントや映像を利用しつつ、解説する。また 学生は毎回、リアクションペーパーを書いて提出し、そこには詩歌等の創作的作品も記述することがある。理性と感性を統合しつつ学ぶ。さらに、最後の授業では、全員で本質的なテーマについてディベートを行いたい。図書館でグループワークもしたい。

1	< 文学史とは >
2	< 中世文学史 > の序 - 時代区分・時代背景・特色
3	A 韻文 ・ 和歌

4	韻文 ・連歌、俳諧の連歌 ・歌謡
5	B 散文 ・擬古物語 ・歴史物語 ・軍記物語
6	散文 ・説話文学 ・日記、紀行、随筆 ・御伽草子
7	C その他 (能、狂言・法語、五山文学)
8	作品鑑賞(DVD等)
9	<近世文学史>の序 - 時代区分・時代背景・特色
10	A 韻文 ・和歌 ・狂歌
11	韻文 ・俳諧 ・川柳
12	B 散文 ・仮名草子 ・浮世草子 ・前期読本 ・洒落本
13	散文 ・草双子 ・後期読本 ・合巻 ・滑稽本 ・人情本
14	C その他 (浄瑠璃、歌舞伎・国学) 図書館でグループワーク
15	作品鑑賞(DVD等) / 全員でディベート<中世と近世>

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】日本の中世と近世に関する文学作品に親しみ、歴史にも興味を持ってテキストを自習する。また、テキストの漢字も予習しておく。

【事後学修】中世文学あるいは近世文学において興味ある作品を選んで、<文庫本>や<文学全集>で作品を読む醍醐味を学ぶ。さらに、図書館で事典類や、各種全集や、図録などで知識を深める。

(予習と復習、各30分 = 1時間)

評価方法および評価の基準

通常の授業態度(20点)、リアクションペーパーとレポート(80点)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業の時に指示する。毎回、プリントを配布する。

【推薦書】いずれも、開講時に指示する。テキストはよりビジュアルなものを選ぶ。

【参考図書】『中世文学史』『近世文学史』(至文堂)(学灯社)その他

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ご自分の好きな中世・近世の日本文学の作品と出会ってください。気になった作品は図書館で読んでみましょう。

科目名	日本文学史C		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGe219		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本文学史のうち近代文学 (明治~昭和) の歴史について学修する科目です。

科目の概要

明治から昭和までの小説を中心とする文学の歴史と、それに関する社会状況、出版状況などについて解説します。

授業の方法 (ALを含む)

教科書とパワーポイントを用いて講義を行い、学期末にミニテストをしながらふりかえりとまとめを行います。【ミニテスト】

到達目標

1. 日本近代文学史に関する基礎知識を身につける。
2. 日本における「小説」の捉え方について理解する。
3. 今まで読んでいなかった近代文学作品をよんでみる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2 「文学・芸術・文化に関する知識」
- 1 「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2 「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3 「比較文化的考察」
- 1 「情報収集・分析」
- 2 「課題発見・考察」

内容

1	開化期
2	新文学
3	浪漫主義

4	日清戦争後文学
5	新世代の登場
6	自然主義
7	日露戦争後文学
8	学閥
9	モダニズム
10	「ぼんやりした不安」の時代
11	危機をはらんだ時代
12	近代文学の再出発
13	安定化する戦後
14	ミニテスト（2回実施）とふりかえり
15	多様化する価値観

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書をよみ、自分なりにノートを作成する。（1.5時間程度）

【事後学修】授業で行った内容（プリント、ノート）を整理しなおす。（1.5時間程度）

評価方法および評価の基準

2回目のミニテスト（100%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

ミニテスト1回目を返却し、それについて授業内で解説とふりかえりを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『原色新日本文学史』（秋山虔・三好行雄編著、文英堂）

【推薦書】必要に応じて授業内で提示します。

【参考図書】特になし。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

やむを得ない事情でミニテストを受けられなかった場合のみ、該当者にたいして別日程で補講を実施します。

科目名	日本文学の名作		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGf220		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の基幹科目（選択必修）で、日本文学における名作を取り上げる。文学作品をとおして学科の学びの基盤となる基礎的な知識と洞察力を育成するための科目である。

科目の概要

日本文学の名作として『源氏物語』を読む。最初に『源氏物語』の全体構成を把握したうえで、物語の概要を辿り、部分的に原文を音読し原作の表現を味わいながら読み進めていく。漫画資料や映像などの現代メディアも大いに利用しつつ授業を展開していく。

授業の方法（ALを含む）

講義による解説を中心とし、毎回の授業においてリアクションペーパーによるフィードバックを取り入れる。また途中で、レポートによる自発的な物語読解も併用する。【リアクションペーパー】【レポート】

到達目標

- (1)文学作品理解のための基礎的知識を習得し、説明できる。
- (2)文学作品を読解し、主題について分析・評価したことを文章で表現できる。
- (3)日本文学に対する洞察力を身につけ、課題発見と考察に積極的に取り組める。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は文芸文化学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3芸術・文化の特性と歴史に関する知識 -2自己・自文化の理解 -2課題発見・考察

内容

使用するテキストは、物語中のいくつかの場面をピックアップしながら全体の概要がわかる形になっている。以下、物語の筋に沿って、各時間の授業のタイトルを書いておく。

1	ガイダンス
2	『源氏物語』の全体像【リアクションペーパー】
3	光源氏誕生（桐壺巻）【リアクションペーパー】
4	雨夜の品定め（帚木巻）【リアクションペーパー】
5	中流女性との恋（夕顔巻）【リアクションペーパー】
6	紫の君の発見（若紫巻）【リアクションペーパー】
7	不器用な姫君（末摘花巻）【リアクションペーパー】【レポート】

8	車争い（葵巻）【リアクションペーパー】
9	生霊出現（葵巻）【リアクションペーパー】
10	龍神の予言（須磨巻・明石巻）【リアクションペーパー】
11	六条院の栄華（初音巻）【リアクションペーパー】
12	女三宮降嫁（若菜巻）【リアクションペーパー】
13	若者の狂恋（柏木巻）【リアクションペーパー】
14	最愛の女性の死（御法・幻巻）【リアクションペーパー】
15	光源氏没後の世界（宇治十帖）【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回・2回 【事前準備】「源氏物語」についての文学史的知識や粗筋について調べる。〔60分〕

【事後学習】授業で紹介した参考文献をいくつか入手し、読んでみる。〔60分〕

3回～14回【事前準備】テキストや参考文献で各回の巻の概要や現代語訳を読み、粗筋や登場人物の人間関係についてまとめる。〔60分〕

【事後学習】授業で扱った巻の内容を自分で読み直し疑問点を調べる。また授業と並行して全訳本や参考文献を積極的に読む。〔60分〕

15回 【事前準備】これまでに読んだ作品の内容を復習し物語全体の流れを把握する〔60分〕。

【事後学習】作品全体の主題について自分の考えをまとめる。〔60分〕

評価方法および評価の基準

レポート60点、リアクションペーパーを含む平常点40%点で、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)レポート(20/60)、平常点(20/40)

到達目標(2)レポート(30/60)、平常点(10/40)

到達目標(3)レポート(10/60)、平常点(10/40)

【フィードバック】リアクションペーパーに書かれた質問事項等について、毎回の授業で回答し、内容理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】ビギナーズクラシックス日本の古典『源氏物語』角川書店編

【参考図書】『源氏物語』の参考文献は多数あるので、授業で適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

半期の授業で『源氏物語』全巻を読破することは難しいので、各自が現代語訳等で自主的に『源氏物語』を読むことを期待します。

科目名	海外文学の名作		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGf221		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は専門基幹科目の専門を学ぶための基礎科目であり「多様な文化に関する専門知識を身につけ読書に取り組む」、「多様な文化に関する専門知識を自ら収集する」、「多様な文化に関する専門知識を活用して考察を深める」ことが求められる。

科目の概要

イギリス文学の代表的作品を鑑賞し、その背景にある思想、文化に目を向けながら作品に表れている人生観、世界観を探っていく。特に「ユーモア」や「笑い」という観点から小説や演劇、映画を読み解くことで、イギリス文学・文化への理解を深め考察する。

授業の方法

本科目では、講義による解説を中心として、ディスカッションやペアワークを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

到達目標

- (1) 多種多様な文化を読み解き説明することができる
- (2) 自己・自文化を理解するとともに他者・多文化を受容し比較することができる
- (3) 文化や社会に対する新たな価値観や視点を見出し、課題を発見することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 2 文学・芸術・文化に関する知識
- 1他者・多文化の理解と受容
- 2 課題発見、考察

内容

1	ガイダンス
2	「ユーモア」の定義。【討議・討論】【リアクションペーパー】
3	英国の「ユーモア」と日本の「ユーモア」(1)【討議・討論】【リアクションペーパー】
4	英国の「ユーモア」と日本の「ユーモア」(2)【討議・討論】【リアクションペーパー】
5	紳士階級の「ユーモア」【討議・討論】【リアクションペーパー】
6	英国のコメディの「ユーモア」【討議・討論】【リアクションペーパー】
7	英文学作品における「ユーモア」の特徴(1)【討議・討論】【リアクションペーパー】
8	英文学作品における「ユーモア」の特徴(2)【討議・討論】【リアクションペーパー】

9	『ロミオとジュリエット』における「ユーモア」(1)【討議・討論】【リアクションペーパー】
10	『ロミオとジュリエット』における「ユーモア」(2)【討議・討論】【リアクションペーパー】
11	『ハムレット』における「ユーモア」(1)【討議・討論】【リアクションペーパー】
12	『ハムレット』における「ユーモア」(2)【討議・討論】【リアクションペーパー】
13	英国映画・ドラマにおける「ユーモア」【討議・討論】【リアクションペーパー】
14	総まとめ【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
15	理解度の確認【レポート(知識)】【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回

【事前準備】シラバスの内容を確認 [60分]

【事後学修】授業内で課題を提示 [60分]

2回～14回

【事前学修】各授業回で取り上げる作家や作品、キーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。 [60分]

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容をのみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点について調べまとめる。 [60分]

15回

【事前学修】すべての授業のふりかえりと復習。 [90分]

【事後学修】授業の総まとめの内容をA4用紙1-2枚にまとめる。 [90分]

評価方法および評価の基準

各授業回の指示する課題への取り組み (30%) とレポート課題 (70%) で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1. 各授業回の指示する課題への取り組み (10% / 30%)、レポート課題 (20% / 70%)

到達目標2. 各授業回の指示する課題への取り組み (10% / 30%)、レポート課題 (20% / 70%)

到達目標3. 各授業回の指示する課題への取り組み (10% / 30%)、レポート課題 (30% / 70%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し学習理解を深められるようにする。レポート課題は返却の上、解説をする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントアウトすること。

科目名	音声表現		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGf222		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

放送などでアナウンサーとして仕事をしてきた経験をいかし、音声表現の実践的な指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間生活学部 文芸文化学科 専門基幹科目 専門を学ぶための基礎科目 中の一科目である。

科目の概要

「声に出して読む」「聞く」「話す」などの音声表現について全般的に理論を学び、その技術を習得する。正しい発声発音とわかりやすい日本語で自分の想いを伝えることは、コミュニケーションの第一歩である。教育や介護の場では、さらに深い傾聴力も求められる。スピーチやプレゼンテーションの技術も実践的に学ぶ。絵本や昔話の「読み聞かせ」も行う。さらに、日本語の話し言葉の特徴について様々な角度から考察する。

授業の方法（ALを含む）

講義だけでなくグループワークやペアワークを取り入れる。毎回のリアクションペーパーで振り返る。

到達目標

音声表現の基礎を身につけることができる。

絵本や昔話などの「読み聞かせ」を通じて読む力を身につけることができる。

「話す」「聞く」というコミュニケーション能力を高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-4「芸術・文化に関する表現技法」

内容

1	日本語の音声表現について基礎を学ぶ
2	わかりやすく「話す」「伝える」
3	テーマを決めてスピーチを行う
4	わかりやすく「読む」
5	絵本や昔話の読み聞かせについて

6	子どものことばの発達についての考察
7	敬語とコミュニケーションについて
8	「聞く」「聴く」「訊く」それぞれの違いとポイント
9	医療・介護の場でのコミュニケーションについて
10	インタビューのポイント
11	インタビューの発表
12	プレゼンテーションについて
13	プレゼンテーションの実際
14	教育の場でのコミュニケーションについて
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業のテーマについて準備や予習をする。45分。

【事後学修】ほぼ毎回出される課題に取り組む。45分。

評価方法および評価の基準

課題作成から「読む」力が身についているかどうかを判断する(30%)

口頭発表や実習から、音声表現の基礎が身についているかどうかを評価する(50%)

クラスへの貢献度からコミュニケーション能力を高めることが出来たかどうかを評価する(20%)

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使わない。

【推薦書】授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

この授業は、講義だけではなく、実際に声を出して「話す」「読む」などの実習を行う。音声表現に興味にある学生の積極的な参加を希望する。

科目名	考える日本史		
担当教員名	三野 行徳		
ナンバリング	KGf223		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

図書館・博物館・文書館での歴史資料整理・調査。時代劇制作。

実務経験および科目との関連性

実際の歴史資料の読解を通じた歴史認識の獲得、時代劇等映像作品を通じた歴史認識の相対化という、本講義の課題において、博物館・文書館・図書館での資料取扱の実務や、時代劇制作の実務は有機的な連関を持つ。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

選択科目である。

文化文芸学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

科目の概要

人々は、過去のある時代の社会や人々、特定の人物や集団について、何らかのイメージを持つ（歴史認識・歴史イメージ）。歴史認識は、学校教科書などの歴史学の成果が反映されたものに加え、さまざまな歴史を題材にした作品や、自身の経験などが大きく影響しながら形成される。本講義では、人々の歴史認識がどのように形成されるかを常に踏まえつつ、歴史を考える学問である歴史学の仕組みを学ぶことを目的とする。そのさい、地域史の視点と、人々のライフコースを念頭に、現在の私たちを取り巻く社会と密接な関係を持つ近世以降の歴史を中心に講義する。

授業の方法（ALを含む）

講義形式を基本とするが、最初の2回はワークショップ形式で自身の歴史意識を確認する。残りの講義でも、毎回リアクションペーパーを用いて自身のこれまでの歴史意識と、講義を通じて獲得できた新たな歴史意識との応答を行う。【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート（表現）】

到達目標

史料をもとに歴史を描く「歴史学」の仕組みを理解し、自身の言葉で説明できる。

人々（自身）の歴史イメージがどのように作られるのかを理解し、文章で表現できる。

歴史的なものの見方を身に付け、具体的な作品に即して文章で表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

知識・理解・技能（技法）・表現

3. 日本の芸術文化の特性および歴史に関する知識を身につけている

思考・判断

2. 自己・自文化を理解することができる

関心・意欲・態度

1. 情報の収集を行い、的確に分析することができる

2. 自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる

3. 文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造することができる

内容

この授業は、毎回配布する資料や映像・画像を用いた講義を中心に、グループワークなども取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス 歴史を見る目 時代区分と地域史/通史
2	歴史作品から歴史イメージを考える(グループワーク)
3	地域の歴史のはじまり方 17世紀の新田開発
4	はじまった頃の江戸 図像資料から歴史を読む
5	江戸時代の正と邪 - キリシタン禁制と「沈黙」 -
6	価値観の転換 - 綱吉と「忠臣蔵」 -
7	江戸のまなび - 手習いの風景
8	江戸の女性のライフコース
9	江戸人の読書 - 浮世風呂と国芳 -
10	江戸城大奥を考える
11	武士のライフコース - 川路聖謨の出世と武士道 -
12	民衆の政治参加を考える - 新選組と多摩の地域史料 -
13	幕末政局と戦争
14	周縁から考える明治維新 - アイヌと北海道の誕生 -
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】初回講義時に、講義で取り上げる内容に関する歴史を題材とした作品の一覧を配布するので、事前にそれらの作品に目を通しておき、興味を持った点や疑問点などをまとめておく(60分)。

【事後学修】講義で取り上げられた作品を、講義内容を踏まえて確認し、物語上の論点と事実との関係をまとめる(60分)。

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー30%、中間レポート30%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回授業開始時に、前回のリアクションペーパーを活用して学習理解を深められるようにする。

史料をもとに歴史を描く「歴史学」の仕組みを理解し、自身の言葉で説明できる。

リアクションペーパー10% 中間レポート10% 筆記試験20%

人々(自身)の歴史イメージがどのように作られるのかを理解し、文章で表現できる。

リアクションペーパー10% 筆記試験20%

歴史的なものの見方を身に付け、具体的な作品に即して文章で表現できる。

リアクションペーパー 10% 中間レポート20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布する。

【推薦書】深谷克己『江戸時代』（岩波ジュニア新書、2000年）

【参考図書】高校日本史の教科書や図説

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

歴史を題材にした漫画や映画、小説など、さまざまな作品に親しんでおいて下さい。

グループワークの時間などを除き、講義と関係の無い私語は講義の妨げとなるため厳禁とします。

科目名	フィールドスタディ		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGf224		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

ワークショップ科目

座学だけではなく、他者・多文化理解、共感的分析、多様性の理解、協働の技法を体験を通して学ぶ。

科目の概要

多様性の理解、協働の必要性、自己・自文化理解を、留学生と一緒に学ぶことによって客観的分析、メタ認知能力をのばす。協働を通して、他者・多文化の理解、共感力の向上の機会を自分たちで創り出す。

授業の方法 (ALを含む)

参与観察や密度の高い聞きとりなど狭義のフィールドワークと、サーベイの実施や資料の分析などを加えた広義のフィールドワークを行う。国際学生 (留学生) と共にそれぞれの関心事に沿った調査・研究活動も行う。

到達目標

フィールドワークを通じた協働体験による気づきを中心とした学びを期待する。

相互承認の理解と、自己・自文化理解、他者・多文化理解を深めることを目標とする。

また、フィールドワークでの体験や実感に根ざしたアイデアを言語化しoutputできる能力向上も目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」。

内容

- 第1回 インストラクション(授業の進め方と評価について)
- 第2回 コミュニティーデザインとは
- 第3回 デザイン思考と問題発見解決
- 第4回 身の回りのワクワクを探す(課題発見)
- 第5回 リサーチの手法と調査票作成
- 第6回 インタビュー技法
- 第7回 統計的手法を学ぶ
- 第8回 データをどう読むか
- 第9回 写真、動画、音声の採り方
- 第10回 調査計画とチームビルディング
- 第12回 Outputを考える
- 第13回 修正からの学び
- 第14回 報告会
- 第15回 振り返り

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次の授業の前日までに事前課題を確認し指示に従うこと。

【事後学修】授業後48時間以内に指定のURLからリフレッシュシートにアクセスし登録すること。

(事前・事後ともに各回60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度：振り返りメールをポイント化(60%)、適宜行う課題の評価(30%)、最終テストの評価(10%)。以下、提出物等の評価は、振り返り・・・1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度課す)総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業中に紹介予定

【推薦書】授業中に紹介予定

【参考図書】授業中に紹介予定

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

この授業は、アクティブラーニング(学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」)による参加型授業です。教室での知識の伝授だけではなく授業を通して世の中の様々な事象を自分事として考え、調査をすることで明らかにすることを体験してもらいます。

科目名	生涯学習概論		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KGf225		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書 / 学芸員資格		

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針の3に該当する。司書、ならびに学芸員の必修科目として、生涯学習の理論と実際に関する基礎知識を学ぶ

科目の概要

生涯学習社会における社会教育の本質と意義、法と制度をはじめ、学校教育・社会教育・家庭教育の連携、社会教育施設の役割や運営と評価、市民活動と社会教育など、人々の多様な学習活動の諸相について幅広く概説し、市民の視座から生涯学習の全体像を考える。主体的に生涯学び続けることの意義と、多様な学習活動への支援の方法を考える。

授業の方法（ALを含む）

教材や課題はLive Campusで提示する。一部のテーマについてグループ討議を経て発表を行う【討議・討論】【グループワーク】【プレゼンテーション】

学修目標（=到達目標）

学校教育、社会教育、家庭教育ならびに地域コミュニティの連携に基づく、生涯学習社会の意義と役割について、法的制度的側面と地域活動等の実際の側面の双方から理解することができる。また地域における生涯学習の具体的なあり方について実態に基づき認識することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシー以下資質能力を育成することを目的とする。

-1他者・他文化の理解と受容 -3文化比較 -2課題発見、考察

内容

講義を中心として、グループワークやディスカッションを取り入れた授業を行う。

1	生涯学習とはなにか
2	生涯学習の理念と理論
3	生涯学習の内容
4	生涯学習の方法
5	学校教育と生涯学習
6	学校教育と地域連携
7	社会に開かれた教育課程を考える（グループワーク）
8	社会教育制度
9	社会教育施設の役割
10	社会教育を支える人材
11	生涯学習支援の動向と課題
12	まちづくりと生涯学習
13	新座市における生涯学習とコミュニティ
14	新座市民総合大学に関するワークショップ
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストについて、事前に示す授業の内容に該当する部分を読み、内容を理解する（1時間以上）

【事後学修】授業で行った課題の見直し（1時間以上）

評価方法および評価の基準

「学校教育、社会教育、家庭教育ならびに地域コミュニティの連携に基づく、生涯学習社会の意義と役割について、法的制度的側面と地域活動等の実際の側面の双方から理解することができる。」

毎時間の小レポート30% 最終課題70%

「地域における生涯学習の具体的なあり方について実態に基づき認識することができる。」

毎時間の小レポート30% 最終課題70%

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「テキスト生涯学習 学びがつむぐ新しい社会」田中雅文他（学文社）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	芸術と歴史		
担当教員名	東 聖子		
ナンバリング	KGd326		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：専門選択科目。日本近世文学（俳諧）を対象とするが、背景に和歌 中世連歌ー近世俳諧の流れや、中国文学・日本文学の影響がある。さらに、近年、国際俳句というグローバルな視点も必要である。＜松尾芭蕉の文学＞と＜四季の詞・歳時記＞について学際的かつ国際的視野で考究する。

科目の概要： 前半【松尾芭蕉の人生と文学】近世初期に蕉風俳諧を確立した芭蕉の生涯と作品（発句・連句・俳文・紀行文・芸術論など）と芸術観を探る。 後半【四季の詞（季語・季題）と歳時記】俳諧の季語には伝統的な題（縦題）と江戸時代になって新しく作られた題（横題）がある。江戸時代や現代の歳時記により、日本人の上代からの四季の美意識を考究する。 近年盛んな国際俳句を紹介し、また海外詩人との比較を行う。グローバル化の中で俳諧の存在意義を考えたい。

授業の方法：ビジュアルなプリントを配布したり、パワーポイントを使用することもある。(DVDも利用する。図書館でリサーチやグループ学習を行う。)本年度は、句会<俳句創作>も行う。プレゼンのレッスンとしてレポート発表会や、ディスカッションも行う。毎回、リアクションペーパーを書く。

到達目標 松尾芭蕉の作品や歳時記を理解する。グローバル化の中で、国際俳句の作品を鑑賞する。 作品を丁寧に読み、テーマをつかみ、参考文献により論文化するスキルを身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係:この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシー - 2：芸術・文化に関する知識・ - 3：芸術文化の特性と歴史に関する知識であり、各自の個性的な問題意識により、豊かに学んでほしい。

内容

【松尾芭蕉の文学と四季の詞ノワーズワースと芭蕉・国際俳句】

- 1 序 《芭蕉名義考》
- 2 A 【松尾芭蕉】 <芭蕉の生涯>
- 3 <芭蕉の発句> = 私のBEST3 =
- 4 芭蕉発句における<字余り>考
- 5 ワーズワースと芭蕉 = ディスカッション =

- 6 B 【日本文学における〈四季の詞〉】 歳時記とは何か
 7 「縦題」と「横題」
 8 C 『芭蕉全発句』 春
 9 『芭蕉全発句』 夏
 10 『芭蕉全発句』 秋
 11 『芭蕉全発句』 冬
 12 D レポート＝ガイダンス＝
 13 句会＝俳句の創作と披露
 14 レポート総評＝発表会＝
 15 国際俳句とは＝ディスカッション＝

*深川芭蕉記念館や江戸東京博物館なども紹介する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前・事後学習】参考文献 最初の時間に解説する。

佐藤勝明著『芭蕉全発句』（角川ソフィア文庫）授業の前後に、各自自習をする、計60分。

山本健吉著『基本季語五〇〇選』（講談社学術文庫）は適宜、季語の参照。

評価方法および評価の基準

評価は平常点（30点）、レポート（70点）で行い、総合成績60点以上を合格とする。尚、出席・リアクションペーパー・レポートの評価などにより、総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 雲英末雄・佐藤勝明編『芭蕉全発句』（2010・角川ソフィア文庫）

【推薦書】 井本農一著『芭蕉入門』（講談社学術文庫）

山本健吉編『基本季語五〇〇選』（講談社学術文庫）

東 聖子著『蕉風俳諧における〈季語・季題〉の研究』2003・明治書院

東 聖子・藤原マリ子共編『国際歳時記における比較研究』2012・笠間書院

【参考図書】『近世前期・歳時記十三種本文集成並びに。総合索引』1981・勉誠社

*** 主要な参考図書・論文などは、テーマごとに、授業で紹介する。***

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

各授業時間中に、参考文献を紹介しますので、大学図書館や地元の図書館で〈芭蕉関係の参考文献〉を借りたり、書店で文庫本を買ってください。多種多様にありますので、参考文献一覧のプリントを参照したり、質問にくること。（コロナ下、外出には十分に慎重にしましょう）

科目名	芸術と生活		
担当教員名	森 暁子		
ナンバリング	KGd327		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

芸術・芸能について社会人向けの講義の担当経験があり、ミュージアムツアーの補助も務めたことのある教員が、日本文学を軸に解説、指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の芸術文化領域に属する講義です。先人が生活の中で楽しみ育んできた芸術について、文学のまなざしから紐解いていきます。近世の事物を中心に上げます。また、「先行作品の享受から、新たに創造する」ことがテーマのプレゼンテーションおよびレポートを通じて、文化を継承することを意識してもらいます。他学科の方の受講も歓迎します。

科目の概要

芸術作品や芸能などについて、古典文学を通して理解を進めます。先人の豊かな遊びの中に見える文学の解釈、発想、連想、継承の様相を学んだ上で、創造性のあるプレゼンテーションとレポート作成に臨んでもらいます。

授業の方法 (ALを含む)

講義による解説を中心に随時グループワークやプレゼンテーション等を行い、主体的な理解を求めます。毎回リアクションペーパーを配布します。最終的にはレポートを提出してもらいます。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(表現)】【創作、制作】

到達目標

- (1) 芸術作品や文学の表現を自分なりに解釈し、説明することができる。
- (2) 先人の表現を模倣・応用して、新たに作品を構想することができる。
- (3) 当意即妙で、文芸を介してコミュニケーションをとることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 芸術・文化の特性と歴史に関する知識 -3 文化比較

内容

講義を軸に思考をめぐらし、プレゼンテーション等の形で他者に伝えることで、理解を深めていく。

1	はじめに 芸術と生活の中の美しさと遊び 美術館と展覧会の紹介【リアクションペーパー】
2	小袖の図案と文学(1) 『伊勢物語』、『源氏物語』etc....古典文学とデザイン【グループワーク】【リアクシ

	ヨンペーパー】
3	小袖の図案と文学(2) デザインの手法と連想【グループワーク】【リアクションペーパー】
4	プレゼンテーション「文学から小袖をデザインして発表する」(1)【創作、制作】【リアクションペーパー】
5	プレゼンテーション「文学から小袖をデザインして発表する」(2)【創作、制作】【リアクションペーパー】
6	銘(名付け)で広がる世界(1) 茶の湯の美意識と文学【グループワーク】【リアクションペーパー】
7	銘(名付け)で広がる世界(2) 刀と菓子【グループワーク】【リアクションペーパー】
8	プレゼンテーション「和菓子をデザインして名前を付けて発表する」【創作、制作】【リアクションペーパー】
9	一休み 怪談【リアクションペーパー】
10	レポートの書き方【レポート(表現)】【リアクションペーパー】
11	遊郭の文化と文学【グループワーク】【リアクションペーパー】
12	旅と名所図会【グループワーク】【リアクションペーパー】
13	プレゼンテーション「人物/土地の案内を発表する」【創作、制作】【リアクションペーパー】
14	連歌と俳諧(1) 連想とおふざけ、コミュニケーション【グループワーク】【リアクションペーパー】
15	連歌と俳諧(2) 現代の言葉で作ってみる 結び【創作、制作】【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 1、2、3、6、7、9、10、11、12、14、15回【事後学習】講義内容を見返し、疑問点を明らかにする。グループワークからは、自分になかった発想を意識する(60分)。
- 4、5、8、13回【事前準備】前回までの講義内容を応用して、プレゼンテーションの準備を行う(60分)。

評価方法および評価の基準

到達目標(1)、(2)についてプレゼンテーション30点、レポート50点、(1)~(3)について平常点20点で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】プレゼンテーションとレポートにはコメントを付け、授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】なし(講義資料を配布する)。

【推薦書】【参考図書】随時紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

一般になじみのない文学作品も取り上げる予定ですが、専門的な知識は要求しないので、いろいろな学科の方においでいただければ幸いです。活発な意見・交流を期待します。

科目名	芸術と人間		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング	KGd328		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

美術館で日本美術担当の学芸員として勤務経験を有する教員が、日本絵画史について講義する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

芸術・文化関連の専門知識を主体的に身につける科目の一つとして、日本美術史を概説する。彫刻・絵画を中心に多くの作例のスライドを取りあげて、造形芸術のスタイルを分析する方法を身につけ、美術史学の基礎を学修する。

科目の概要

日本に仏教が伝来した西暦538年より江戸時代末までの日本美術の変遷と展開を、流れとして学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

授業時間の前半で歴史的背景や美術史上の基礎的な概念を講義し、後半ではスライド投影した作品の造形的特徴を分析する。
また、適宜見学会も実施し、実際の美術作品を鑑賞することで学修を深める。

到達目標

歴史的知識と美術的知識をリンクさせて理解することができる。各時代の美術様式の特徴を把握する。美術様式の展開を史的に述べることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-2芸術文化に関する幅広い知識を身につけている。 -3日本の芸術文化の特性および歴史に関する知識を身につけている。

内容

この授業は講義を基本に、見学会、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めてゆく。

1	イントロダクション
2	飛鳥時代
3	奈良時代
4	平安時代
5	平安時代
6	平安時代

7	鎌倉・南北朝時代
8	室町時代
9	室町時代
10	室町時代
11	桃山時代
12	江戸時代
13	江戸時代
14	江戸時代
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の授業で扱う時代・テーマの作品を画集等で確認しておくほか、機会があれば美術館になるべく足を運んで実作品を鑑賞する（各授業に対して60分）

【事後学修】ノートを見返して、わからないことは調べておく。また、関心をもった事項については、書籍などで理解を深める（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、授業内レポート20%、筆記試験60%（歴史的知識と美術的知識をリンクさせて理解することができる20%、各時代の美術様式の特徴を把握する20%、美術様式の展開を史的に述べるができる20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の冒頭で、前回授業のリアクションペーパーの質疑やコメントを取りあげて全員で共有し、回答・詳説することで理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない

【推薦書】授業内で適宜指示する

【参考図書】『教養の日本美術史』ミネルヴァ書房、2019年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本の文化		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGd329		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

実務経験の有無

なし

実務経験および科目との関連性

なし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本の文化に関する専門選択科目の講義の一つです。

科目の概要

私たちは最先端の高度情報化社会を生きていますが、一方でお正月には餅を食べ、初詣でに行き、高層ビルを建てる際には地鎮祭をするなど、昔からやっているからと何気なく行っていることがたくさんあります。このように繰り返される伝統的な生活習慣や意識を探るのが 民俗学 といつてよいでしょう。したがって民俗学を学ぶことは私たち自身のありかたを見つめ直すことでもあります。この授業では、総論として日本民俗学の理論と方法のおおよそを学び、さらにその成立と展開について、日本民俗学の生みの親柳田国男の生涯と思想の問題と関連させながら考えて行きます。

授業の方法 (ALを含む)

講義形式で行います。

到達目標

民俗学の学問としての基礎として、その対象・方法・目的を理解することが学修目標です。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3芸術・文化の特性と歴史に関する知識

-2自己・自文化の理解

内容

- (1) 身近にある民俗・民俗学の魅力
- (2) 民俗学的発想について
- (3) 民俗 という語
- (4) 民俗 の中身・範囲
- (5) 常民 と 常民性
- (6) フィールドワークとデスクワーク
- (7) 重出立証法と方言圏論
- (8) 日本の祭りと神
- (9) 民俗と映像

- (10) 柳田国男と日本民俗学の生成
- (11) 民俗学以前（他界への願望と経世済民の志向）
- (12) 民俗学の胎動（異族としての山人）
- (13) 民俗学の確立（稲と常民のいる日本）
- (14) 折口信夫の学問
- (15) まとめ

講義の内容・順序は必要に応じて変更することがあります。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることがらを調べておいてください（各授業に対して60分）。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことがらを調べましょう（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

筆記試験7割、レポート・提出物など3割とし、総合評価60点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合、「再試験」を実施する予定です。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は開講時に指示します。読書レポートの対象はできるだけ購入して下さい。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。

参考文献：民俗学の概論書としては、柳田国男『郷土生活の研究法』（ちくま文庫『柳田国男全集』）、柳田国男・関敬吾『日本民俗学入門』（復刊・名著出版）、和歌森太郎『日本民俗学』（弘文堂）、上野和男他編『民俗研究ハンドブック』（吉川弘文館）、福田アジオ他編『日本民俗学概論』（吉川弘文館）など。そのほか参考文献は授業中随時紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文化と歴史		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	KGd330		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目をとると日本の服装の歴史や式たり、日本のファッションのことを理解できるようになります。

科目の概要

日本の服装の歴史と文化について学んでいきます。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

日本のファッション、服装の伝統文化と現在、社会、経済、産業との関係を理解することを目標にします。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

服装の原点、作り方から、今までの日本の着物の行方を考えます。着物ファッションと技法、着方の移り変わりを勉強します。着物を通じて日本の歴史を学びます。

1	Introduction, 着物の部分の名前
2	昔の着物、平安の美意識
3	着物の種類とTPO
4	江戸社会、政治、農業、出版とファッション
5	紙の着物を作ります
6	明治の着物、大正の着物、銘仙ブーム

7	織の着物、紬、木綿
8	染の着物、藍染め、木先染、紅型染め、江戸小紋、友禅染
9	浴衣を着て、帯を結ぶ
10	帯の種類、帯の結び方
11	浴衣を着る
12	着物と帯の合わせ方、洒落する方法
13	着物ケア 保存、たたみ方 クリーニング
14	着物の上と下
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】関係する着物の本を読む

【事後学修】自分でできるだけ着物を見に行く

評価方法および評価の基準

宿題50%、テスト50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】長崎巖、近藤富江、Sheila Kimono Style

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎週はプリント配ります。そこでノートを書いてください。

科目名	文化と生活		
担当教員名			
ナンバリング	KGd331		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針3に該当します。

専門選択科目の中の芸術文化領域に位置する科目です。

みなさんの生活に身近な情報機器のしくみを理解し幅広い知識を得ることをねらいとしています。

科目の概要

この講座では、日本経済の成長に伴い家庭内の省力化を目的に広がりを増した電子機器や、AIなど街中でみられる各種システムについてそれらの歴史的背景を含めて改めて学習し、科学技術の発展が人類の生活に与えた影響について、グローバルで幅広い知識を養います。その一方で、それらの普及により、人間本来の五感の衰退を招いた実態にも着目し、文化的生活を見直し人間が本来必要とする知恵について理解することを目指します。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

科学技術の発展により成長し続ける情報機器そのものの理解する。最近では、さまざまは情報が氾濫し、手軽に入手できるようになったあらゆる事柄の中から、正しい視点を観る力を養う。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は、講義を軸としますが、アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク）を取り入れ、問題に取り組む姿勢や、課題解決能力を養う形式で学修を深めます。

1	私たちを取り巻く生活の環境について
2	文化と生活について（身近な電子機器について）
3	情報機器の歴史と背景
4	情報機器の種類とコンピュータの仕組みについて
5	コンピュータを分解して理解する
6	ノートPCや携帯電話を分解し仕組みを知る
7	情報の流れのしくみと意味を学ぶ

8	情報が作られるまで（流れと仕組みを学ぶ）
9	情報が作られるまで（情報操作と情報の読み取り方）
10	日本の人工知能が世界に与えた影響
11	ロボットとヒトの五感
12	文化と生活について（世界の中の日本）
13	ネットワーク社会の危険性と回避策について
14	一般社会の流れ
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎回の授業ごとに通知する、次の授業内容を通知について調べてくる。（40分）

【事後学修】各授業内で理解した、または疑問に感じたことで、興味を持ったことを調べて次回までにまとめてくる。（60分）

評価方法および評価の基準

各回の講義終了時のリアクションペーパーの内容（60点）、レポートまたは試験（40点）。総合評価60点以上で合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業ごとに作成したパワーポイント教材を、各授業でプリントとして配布する。

【参考図書】米村貴裕『やさしいIT講座』 新星出版社『パソコンのしくみ』

山形浩生 監修『コンピュータ』 日経BP ソフトプレス『パソコンのしくみ』

山田宏尚 著『コンピュータのしくみ』 坂村健『ユビキタスでつくる情報社会基盤』

エクスメディア『パソコン用語集』 安部司『食品の裏側』など、必要に応じて授業中に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生活とデザイン		
担当教員名			
ナンバリング	KGd332		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	学芸員資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

<生活の中のデザイン>として暮らしの中で使う生活道具や近現代のデザインや民芸の思想を通して、生活文化や美意識を多角的に学ぶ。また手を動かしたワークショップや製作を通して暮らしと道具の関係について理解を深める。文芸文化学科のDP2・3

科目の概要

工業デザイナー柳宗理氏の仕事を中心に日用品のデザインを学ぶ。産地や生産現場の紹介、手を動かしたワークショップや製作を通し、多面的に<用の美>について考える。柳宗悦氏の民芸運動に触れることで日本の工芸文化を知る。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

生活道具の思想や美意識について考える。

暮らしを営む上で誰もが使う生活道具を中心に、どのように意図して作られているのか、また素材や技術や産地など背景を知ることで、モノと人や社会との繋がりについて多角的な視点を養い、民藝やデザインの思想に触れることで、暮らしの道具の基礎的な美意識への理解を深める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

講義（１）～（６）ではスライドを使用してモノ作りの現場の画像を見せたり、製品を持参し実物を見たり触ってもらう事で、本授業の意図する「生活とデザイン」の概念を知ってもらう。

演習（１）～（８）ではグループに分かれ、身近にある素材を実際に触り造形作業も含めて、模擬的な日用品デザインのプロセスを体験する。グループ毎に発案から製作から発表まで共同作業で行うことで、実社会でのシュミレーション的な体験し、暮らしの道具への理解を深める。

1	講義（１）ガイダンス、授業内容の概要と自己紹介。
2	講義（２）デザインとは／デザインの領域～日用品のデザイン
3	講義（３）モノ作りの現場／陶磁器編
4	講義（４）モノ作りの現場／金属加工編
5	講義（５）モノ作りの現場／木材編
6	演習（１）ワークショップ「そざい」と「ことば」で「かたち」をつくる
7	講義（６）アノニマスデザインと民芸
8	演習（２）「日用品をデザインする＜１＞」課題説明、／身近なモノを観察してみる
9	演習（３）「日用品をデザインする＜２＞」グループでのリサーチの整理と考察
10	演習（４）「日用品をデザインする＜３＞」グループでのリサーチ～ディスカッション
11	演習（５）「日用品をデザインする＜４＞」グループ製作
12	演習（６）「日用品をデザインする＜５＞」グループ製作
13	演習（７）「日用品をデザインする＜６＞」グループでプレゼンテーションの準備
14	演習（８）「日用品をデザインする＜７＞」グループでプレゼンテーション
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の「陶磁器」などのキーワードについて調べ、A4用紙１枚にまとめる。また推薦書についての疑問や感想、質問を考える。（各授業に対して４０分）

【事後学修】授業で取扱った事柄や、気になった点について、出所の確かな専門書などで調べ、まとめておく。（各授業に対して４０分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度４０％、演習での成果物３０％、レポート３０％とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】柳宗理・柳宗理エッセイ・平凡社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業の前半は座学が中心になりますが、実際の製品を見たり触れたりする体験を大切にしてください。その体験で感じて考えることが、後半の制作課題の内容につながる、そういう意識を持って授業に参加してください。

科目名	色彩とデザイン		
担当教員名			
ナンバリング	KGd333		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 3 に該当する。

専門選択科目の中の芸術文化領域に位置する科目です。

色彩を芸術的視点・心理的視点でとらえ、色の持つ現象的様相を分析し諸科学を理論的に学習する。

科目の概要

虹が七色に見える現象など、電磁波の中で人の目に見える限られた波長を可視光と呼びます。色は状況によって変化して見える現象で、また、色彩感覚やデザインには表情があります。それら色とデザインの性質を学び、最も効果の上がるような表現力を科学的に学びます。光があるから影があり、例えば顔にも凹凸があるので、色と光を上手に操ることができるようになれば、お化粧品や服装などにも役立てること出来るかもしれません。そのほか、インテリアやモノのデザインも題材に、発想力、創造力、コミュニケーション能力などに役立つ学修をします。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

光や色とデザインの本質を知り、色をよく感受しデザインを理解する力を養う。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は、講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、PBLを取り入れながら、学びを深めていく。

1	色彩科学のはじまり
2	電磁波と光
3	色覚論と目について
4	陰影の科学

5	透明感と面色
6	太陽の残像
7	色と音の共感覚減少について
8	デザイン全般
9	デザインの表し方・見せ方
10	デザイン実習 1
11	デザイン実習 2
12	色彩とデザイン
13	空間とデザイン
14	パーソナルデザインとパーソナルカラー
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業の最後に予告をする内容について調べる。(50分)

【事後学修】授業内容で興味を持ち、深く知りたい内容を次回までに調べてまとめてくる。それを次のリアクションペーパーに記す。(60分)

評価方法および評価の基準

全授業の中でほぼ毎回のリアクションペーパー(50%)、授業に取り組む姿勢と内容点(50%)の総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーに、必要に応じコメントを記載し翌々週以降の授業内で返却する。また、毎授業の最初に前回の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使用せず、その都度、プリントを配布。

【推薦書】授業内で紹介します。

【参考図書】「色彩の基礎」美術出版/川添泰宏
「配色基礎講座」 視覚デザイン研究所 など。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	舞台芸術A		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KGd334		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ミュージカル 出演

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針1,2,3に該当する。

アメリカ、イギリス、ヨーロッパなどと同じく、日本でもダンスによるパフォーマンスが盛んにメディアなどで取り上げられる機会が多くなり、ストレートプレイよりミュージカルに対する認知度が非常に高くなってきている。東京では劇場の数も、観劇人口も増え、外国の作品だけでなく、日本のオリジナル作品もたくさん上演されるようになってきている。本講座では、文学・音楽・舞踊・演劇・美術の総合芸術としてのミュージカルについて学ぶ。

科目の概要

オペラが起源といわれ、大衆娯楽文化から芸術文化になるまでの歴史を学ぶ。

特に音楽を中心に作品を研究し、それぞれの時代の特徴を考察することをねらいとする。

ミュージカルの作品の中で、原作のあるものを取り上げ、原作と台本、同じような題材との違いを比較研究する。

授業の方法

知識の定着・確認として、リアクションペーパー、レポート、グループワークを行う。

到達目標

ミュージカルという芸術分野に関する基本的知識・内容などを理解し知識を得て、教養を深める。

芸術文化に関する幅広い知識と人間として文化を楽しむ心を育てることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 芸術・文化に関する知識 -3 芸術文化の特性と歴史に関する知識

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら進めていく。

課外授業で、劇団四季の作品を観劇予定。

1	17Cのオペラから発展したミュージカルのはじまりについて
2	1930・40・50年代のミュージカル初期の作品について
3	1960～1980年代の作品について
4	1990年ごろの作品について
5	1995年以降の作品について

6	2000年頃の作品について
7	最近の作品について
8	日本のミュージカルの歴史
9	さまざまなミュージカルの形態について
10	台本・音楽・舞踊などからの作品分析
11	観劇作品の背景と分析
12	小説が原作のミュージカルについて
13	映画が原作のミュージカルについて
14	アニメが原作のミュージカルについて
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う予定の作品について事前に調べる。プレゼンの準備と発表資料を作成する。（各授業に対して45分）

【事後学修】授業で扱った作品に関する感想文などの作成および資料の整理。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

各授業回に指示する 課題とリアクションペーパー（50%）最終課題レポート提出（50%）とし総合評価を60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に、リアクションペーパーに記入された前回授業の質疑に解説を行い学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書・推薦図書・DVD・CDなどを授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	舞台芸術 B		
担当教員名	加藤 暁子		
ナンバリング	KGd335		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有り

実務経験および科目との関連性

教員歴 29 年。本学に於いて、2005 年 4 月より『宝塚研究』（現『舞台芸術 b』）を 15 年間開講。その他、放送大学
埼玉学習センタ に於いて、2018 年より 2 期同講座を開講。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (AL を含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 2 に該当します。専門選択科目です。

舞台芸術を通じて日本の伝統や文化を学びます。世界で唯一無二の女性だけの歌劇団の音楽表現や舞台装置、衣装など様々な角度から総合芸術の奥深さを追求していきます。

科目の概要

主に、世界に唯一の女性だけのエンターテイメントを繰り広げる劇団の宝塚歌劇を扱います。

100 年以上続く歌劇団の出発期から現在までの歴史的な流れを学び、その背景と共に作品を丁寧に分析していくことにより、舞台芸術の理解を深めます。

授業の方法 (AL を含む)

座学が中心にはなりますが、歴史的な映像資料やレビュー作品の映像を視聴することで総合芸術の世界を観察し、宝塚歌劇のシステムを学ぶことにより、空間の使い方や時間の進め方をデザインし、舞台上で起きる様々な事態に対する解決策 (ソリューション) が見えてくる能を自然と鍛えていくことができます。

到達目標

昨今、ミュージカルへの関心が高まりに応じ、質の高い作品に接する機会を増やします。

希望があれば生の舞台観劇をし、観劇の着目点などを知ることにより、今後の人生を豊かにし、様々な事柄に対して解決する力を養います。文藝・音楽・衣装・舞踊・演劇などのさまざまな特質を生かした表現を考察・分析し、作品の理解を深めます。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この講座は、講義形式を軸に PBL (課題解決型学修) で理解を深めていきます。

1	宝塚歌劇とは何か・宝塚創設 106 年の歴史について
---	----------------------------

2	宝塚が創設された大正時代の文化と歴史的背景
3	海外ミュージカル作品と宝塚歌劇
4	海外と日本の文学作品と宝塚歌劇
5	文化人と経営者としての小林一三
6	『フランス革命』と宝塚
7	『エリザベート』作品分析
8	日本の伝統芸能『歌舞伎とTAKARAZUKA』舞台比較
9	宝塚歌劇の衣装研究（和物）（洋物）
10	宝塚歌劇のオペラとオペレッタ作品
11	『TAKARAZUKAレビュー』について
12	女子教育の作法と宝塚の常識から学ぶ
13	舞台芸術と表現者
14	舞台の演出家という仕事について
15	まとめ。宝塚歌劇は舞台芸術と言えるのか

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎回の授業後に、次回のテーマを伝達するので内容を調べて予習してくる。（15分）

【事後学修】授業内で提示したパワーポイントの資料を整理し、興味を持った内容について深く調べ次回までにまとめる。（30分）

評価方法および評価の基準

全授業の中でほぼ毎回のリアクションペーパー（40%）、授業に取り組む姿勢と内容点（30%）、学期末の観劇レポートまたはテスト（30%）の総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーに、必要に応じコメントを記載し翌々週以降の授業内で返却する。また、毎授業の最初に前回の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】江藤茂博・植木朝子・加藤暁子・清水玲子・日向薫 著『宝塚歌劇団スタディーズ』（戎光祥出版）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	身体と表現		
担当教員名	清水 裕明		
ナンバリング	KGd336		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸学科の学位授与方針1,2,3に該当する。

この授業では主に、身体を動かしながら表現とは何か？を探求する授業です。

主な自己表現の手段には、「話す」と「動く」の二つがあります。

特に「動く」は言語が生まれる前から、何かを伝える手段としても使われてきました。

この行動が芸術 (ダンス、ミュージカルなど) へ繋がっている。

こうした非言語コミュニケーションの方法を体験し、物理的に自分を表現する方法を学ぶ授業です。

科目の概要

毎回、様々な動きなどの実技を体験してもらい、日常の何気ない行動の差異から

非言語の重要性、表現とは何か？を理解していく。

(実技が中心の授業なので【実技が嫌いな方】は参加をお控えください。実技70%講義30%程度)

授業の方法 (ALを含む)

実技 フィードバック 補足座学が中心となります。

到達目標

表現とは何か？そしてそれをどう活かしていくか？を理解して

のびのびと自分自身のコミュニケーション力を向上させていけるように

身体表現の基本知識と教養を深めることを目標とする。

1) 自分が思うようには表現できていないということを知る。(レポート20%)

2) 物理的に自分をどう動かせばいいかを知る。(レポート 20% 平常点20%)

3) 意識的に動きを変えて人と接することができるようになる。(レポート20% 実技20%)

以上を評価基準として60%以上を可とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は、講義の他に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを通して学びを深めていく授業になります。

1	オリエンテーション
2	身体表現の基礎1（非言語コミュニケーションとは？）
3	身体表現の基礎2（表現のための身体）
4	身体表現の基礎3（舞踏の発祥 表現とは）
5	舞踏の基礎1（古来の舞踏の役割）
6	現代の舞踏1（ディズニーダンス1）
7	現代の舞踏2（ディズニーダンス2）
8	伝統の舞踏1（日舞）
9	伝統の舞踏2（日舞）
10	人狼ゲームを使い言語の裏を読み解く
11	人狼ゲームを使い言語の裏を読み解く
12	ストレス発散としての身体表現（身体と感情の関係性）
13	実技準備日
14	実技発表日
15	授業を振り返って

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回の学習内容を想起し、備えてもらう。

【事後学修】授業後、学習内容の感想文を簡単にまとめて提出してもらう（毎授業）

評価方法および評価の基準

出席（60%）と授業中の発言（10%）と授業態度（10%）、実技発表（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバックは、授業のはじめに前回授業に対する質疑応答を行い、学びを深めるように促す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書はありません。

【参考図書】

適時に本、プリント、DVD、CDを紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	映像文化論		
担当教員名	江藤 茂博		
ナンバリング	KGd337		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針1.2に該当する。本科目は、映像芸術文化の成立と展開への深い理解をもとに、研究・批評的な観点による対象の洞察力を育てながら、現代の芸術文化への理解を確かな言葉で表現できることを目標とする科目である。

科目の概要

三部構成で、最初に映像文化史をジャンル別に資料を提示しながら講義する。次に、日本のアニメーション史の資料と話題を中心にした映像文化史を講義する。最後に、筒井康隆の小説「時をかける少女」の映像化作品を取り上げることで、研究・批評の方法を案内する。

授業の方法 講義及び関連する映像テキスト及び言語テキストを具体的に分析・提示する。

到達目標

- 学生が、映像表現の物語の歴史に関する基礎知識を習得し、説明できる。評価の手段/レポート20%・平常点20%
- 学生が、映像表現に関する研究・批評の方法を習得し、応用できる。評価の手段/レポート20%・平常点10%
- 学生が、映像文化の現状に関する基礎知識を習得し、説明できる。評価の手段/レポート20%・平常点10%

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は、講義を基本に、資料・作品紹介、授業内文章表現ワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	映像表現の歴史を知る
2	写真表現の文化史を知る
3	漫画とアニメーションの関係を考える
4	映画と文学の関係を考える
5	テレビ文化とゲーム文化を知る

6	アニメの映像文化1 出発期の日本アニメーション史
7	アニメの映像文化2 東映アニメーションの時代
8	アニメの映像文化3 テレビアニメーションの登場
9	アニメの映像文化4 アニメブーム第一期と第二期
10	アニメの映像文化5 ジブリのアニメ映画
11	アニメの映像文化6 漫画・ゲーム・ライトノベルとアニメ
12	映像と文芸1 時をかける少女とテレビドラマの歴史を知る
13	映像と文芸2 時をかける少女と映画の歴史を知る
14	映像と文芸3 時をかける少女とアニメの歴史を知る
15	まとめ 映像文化論の可能性

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指示された作品を読む・観ること

【事後学修】指示された作品を読む・観ること

評価方法および評価の基準

授業内テスト（20パーセント/直後の授業でコメント）や授業内レポート（40パーセント/直後の授業でコメント）と授業への関心・意欲（20パーセント）や授業内での参加度（20パーセント）を合計100点として、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません

【推薦書】江藤茂博（講義担当者）「読む流儀 小説・映画・アニメーション」言視舎

【参考図書】上記推薦書以外に、講義担当者の著作に映像文化関係のものが幾冊かあります

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	芸能の世界		
担当教員名	後藤 隆基		
ナンバリング	KGd338		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1.2.3 に該当します。

人々を魅了する演劇はどのように誕生し、継承されてきたのでしょうか。この問題を解明することは、日本の文化、風土、宗教観、国民性などを理解し、私たちのルーツを探ることにもなります。この授業では伝統芸能の現在への継承の実態や、時間・空間をこえてつながる日本文化のモチーフ、日本演劇の独自性について明らかにします。同時代の社会現象を反映した歌舞伎やその周辺芸能、明治以降に生まれた新興演劇等を取り上げ、鑑賞者が演劇に求めた意義について明らかにすることができると考えます。

科目の概要

能や人形浄瑠璃、歌舞伎、明治以降の演劇について、海外の演劇等との比較を交えながら、その本質を明らかにします。また宝塚歌劇、ミュージカル、現代の舞台芸術、映画なども取り上げ、エンターテインメントとしての演劇のあり方を検証します。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- (1) 日本の伝統芸能や演劇、世界の演劇についての基礎知識を学びます。文献調査などのレクチャーを経て、特に興味を持った演劇については各自が検証し、レポートとして提出します。
- (2) 絵画資料・写真資料等を通じて、芸能・演劇の実態を探ります。
- (3) 映像観賞を通じて役者の演技、演出、舞台装置等の細かな部分に関しても理解を深めます。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本として、映像や絵画資料を参考資料として扱いながら、学びを深めていきます。

1	イントロダクション：つくられる「伝統」
2	能と歌舞伎の超基礎的な歴史と構造
3	こんな歌舞伎もあるんだよ：三島由紀夫と野田秀樹
4	「忠臣蔵」の世界：史実と虚構のあいだ
5	変奏される「忠臣蔵」：スピンオフとしての「東海道四谷怪談」
6	海外に輸出／逆輸入される「忠臣蔵」：日本 イメージの形成

7	歌舞伎は旅する大使館：平成中村座ニューヨーク公演
8	明治時代のヘンテコ歌舞伎：たくさんの失敗を乗り越えて
9	自由民権運動と明治の芸能とユゴー：「レ・ミゼラブル」でつながる日本とフランス
10	新派というジャンル：明治時代の新しい演劇
11	小括とレポートの書き方
12	『源氏物語』と三島由紀夫とボーカロイド音楽
13	シェイクスピアと黒澤明と蜷川幸雄
14	宝塚歌劇と小林一三：「ベルサイユのばら」の作り方
15	まとめ：現代に生きるさまざまな芸能

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次の授業で取り上げる演劇や作品について予習をしておくこと。特に歌舞伎の演目は粗筋が複雑な場合もあるので、授業内で紹介する参考資料を確認すること。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業については復習することを必須とします。授業内容の不明な点は、次回の授業で質問するかコメント用紙に質問を記載して下さい。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

毎時間の授業に関するコメント提出と、学期末にレポート提出を課します。配点の比率は、授業時のコメント30%、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】毎授業の最初に、前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし

【推薦書】開講後に指示。授業時には毎回プリントを配布します。

【参考図書】必要に応じて適宜指示します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本文学論 A		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGe339		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「日本文学論 B」「日本文学論 C」と並立する科目で、古代後期の文学を中心に扱う。日本文化についての深い理解と洞察力を養うための科目である。

科目の概要

最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』を扱う。作品全体の概要を確認した後、和歌の技法について学びながら、『古今和歌集』で中心的な位置を占める四季と恋の歌を読んでいく。

授業の方法 (ALを含む)

講義と発表を組み合わせる毎回の授業を行う。発表では、授業で取り上げた巻の中から各自が気に入った歌について調べて紹介する。また、特別講師を招いて和歌創作にも挑戦してみる。【プレゼンテーション】【創作】

到達目標

- (1)和歌の文化的価値と役割について理解した上で、作品を鑑賞することができる。
- (2)和歌が描く季節感や作歌技法についての知識を修得し、評価することができる。
- (3)自分のイメージを和歌として言葉で表現したり、和歌を映像で表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3芸術・文化の特性に関する知識、 -自己・自分化の理解、2 -3価値観創造

内容

『古今集』の四季と恋の歌を、講義と受講生の発表を織り交ぜて読み進めていく。

また、その途中で外部講師を招き和歌創作の時間を設ける。

1	ガイダンス
2	『古今和歌集』について
3	巻1：春の前半の歌【プレゼンテーション】
4	巻2：春の後半の歌・和歌の技法（掛詞）【プレゼンテーション】
5	巻3：夏の歌・和歌の技法（縁語）【プレゼンテーション】
6	巻4：秋の前半の歌・和歌の技法（枕詞・序詞）【プレゼンテーション】
7	巻5：秋の後半の歌・和歌の技法（歌枕）【プレゼンテーション】
8	巻6：冬の歌・和歌の技法（本歌取り）【プレゼンテーション】

9	和歌創作ワークショップ:講師による体験講座【創作】
10	巻11:恋の歌1【プレゼンテーション】
11	巻12:恋の歌2【プレゼンテーション】・和歌の技法(折句)
12	巻13:恋の歌3【プレゼンテーション】・和歌の技法(その他)
13	巻14:恋の歌4【プレゼンテーション】・歌物語
14	巻15:恋の歌5【プレゼンテーション】
15	まとめ【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 1回・2回 【事前準備】『古今集』に関する基礎的知識を復習し、整理する。〔60分〕
【事後学習】『古今集』の参考図書を探して読んでみる。〔60分〕
- 3回～14回 【事前準備】授業で扱う範囲の歌を読み、疑問点は参考書で調べておく。発表担当者は資料を作成してプレゼンテーションの準備をする。〔発表者は120分以上〕〔担当者以外は60分〕
【事後学修】授業で扱った和歌技法や和歌の意味について復習し、疑問点は辞書や参考書で調べて解決する。〔60分〕
- 15回 【事前準備】『古今集』の四季と恋の歌について復習する。〔60分以上〕
【事後学習】『古今集』の四季と恋の歌以外の和歌も詠んでみる。〔60分〕

評価方法および評価の基準

プレゼンテーションと和歌創作50%、レポート50%で、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)プレゼンテーション(10/50)、レポート(30/50)

到達目標(2)プレゼンテーション(10/50)、レポート(20/50)

到達目標(3)プレゼンテーション(30/50)

【フィードバック】プレゼンテーションに対して授業内でコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】角川ソフィア文庫『古今和歌集』高田祐彦訳注(角川書店)

【参考図書】『古今和歌集全評釈』片桐洋一(講談社)など。その他、授業で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

プレゼンテーション、和歌創作など、自分で学ぶ要素の多い科目です。発表担当者は休まないように、提出物は遅れないようにしてください。

科目名	日本文学論B		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGe340		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本文学のうち近代文学について学びます。こちらの「日本文学論B」では小説作品を、後期の「日本文学研究B」では詩について学修します。

科目の概要

近代文学の代表的な作家の作品を対象として、それぞれの特質に沿った分析をしながら、専門的な「読み方」を学んでもらいます。ヨーロッパで発生した「近代文学」の理念が、どのようにして日本の近代文学に生かされているのか、ポイント的に解説し、実際に簡単な作品分析をしながら知識の確認をしていきます。

授業の方法（ALを含む）

具体的な分析方法に関する解説と実際の分析を講じます。うち2回のミニテストにおいて、受講者みずからも分析を実践しながら、学問的な読解を体験してもらいます。【ミニテスト】

到達目標

1. 近代文学に関する基礎知識を修得する。
2. 文学作品の分析方法を修得する。
3. 実際に文学作品を分析できるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」

中学校や高等学校の国語でもなじみのある作家の作品をとりあげながら、日本の近代小説を分析的によむ方法を学修していきます。

1	話法と語り
2	語りの分析：太宰治「葉桜と魔笛」1
3	語りの分析：太宰治「葉桜と魔笛」2
4	語りの分析：太宰治「葉桜と魔笛」3
5	ミニテストとふりかえり
6	物語の展開
7	展開の分析：芥川龍之介「トロッコ」1
8	展開の分析：芥川龍之介「トロッコ」2
9	展開の分析：芥川龍之介「トロッコ」3
10	展開と視点の分析：志賀直哉「小僧の神様」1
11	展開と視点の分析：志賀直哉「小僧の神様」2
12	展開と視点の分析：志賀直哉「小僧の神様」3
13	展開と視点の分析：志賀直哉「小僧の神様」4
14	ミニテストとふりかえり
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で扱う予定の作家について、インターネットや文学史事典などを使ってノートにまとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で扱った作品について、自分でも分析してノートにまとめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

通常講義時のリアクションペーパー（50%）+ミニテスト（50%）とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】

毎時のリアクションペーパーのいくつかにはコメントをかえします。ミニテストは実施後授業内に解説します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません。授業時にプリントを配布します。

【推薦書】特に指定しません。授業時に紹介することがあります。

【参考書】授業時に紹介することがあります。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本文学論C		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGe341		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

なし

実務経験および科目との関連性

なし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本文学・日本文化に関する専門選択科目の講義の一つです。

科目の概要

死んだあと、人はどこへ行くのでしょうか。近代科学の発達によって、来世・あの世という死後の世界は否定されたにも関わらず、多くの人たちは漠然と死後の世界を存在を認めています。死後の世界を認めていない人でも、地獄という存在やそのイメージを持っています。それほどインパクトのある世界はどうやって成立し、どのように展開したのでしょうか。

この授業では、古事記、万葉集、霊異記、往生要集などのテキストを読み解き、古代の人びとが自分たちの生と死をどのようにとらえていたのか、日本に仏教が入ってくることでそれまでの在来の信仰世界を生きた人々の精神世界がどのように変容したのかを探ります。

授業の方法 (ALを含む)

講義形式で行います。

到達目標

資料となるテキストの読解を通して、作品のテキストとしての特性や、古代人の精神世界の変容過程を理解することが科目の学修目標です。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3芸術・文化の特性と歴史に関する知識
- 2自己・自文化の理解
- 3価値観創造

内容

- (1) イントロダクション
- (2) 神話の中の生と死
- (3) 古事記の世界構造
- (4) ヤマトタケルの死と大御葬歌
- (5) 葬送儀礼と挽歌
- (6) 万葉集のなかの生と死
- (7) 万葉人と仏教

- (8) 神話的世界観と仏教的世界観
- (9) 靈異記の冥界訪問譚
- (10) 輪廻転生とよみがえり
- (11) 觸體報恩譚と死者の語り
- (12) 往生要集の「地獄」「極楽」
- (13) 王朝人の生と死
- (14) 絵解きと芸能
- (15) まとめ

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることがらを調べておいてください(各授業に対して60分)。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことがらを調べましょう(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

試験またはレポート70%，授業内での提出物・小レポートなど30%の割合です。総合評価六割以上を合格とします

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)内容の編集 教科書：特に指定しません。

推薦書：梅原猛『地獄の思想』中公文庫または中公新書。日本における仏教の影響、古代の地獄観念の成立から近代の文学や芸能への展開までをコンパクトにまとめていて参考になります。

参考文献は授業中に随時紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本文学研究A		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGe442		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「日本文学研究B」「日本文学研究C」と並立する選択科目で、古代後期の日本文学を扱う。日本文学についての幅広い知識を身につけ知見を養う科目である。

科目の概要

『枕草子』の日記的章段を取り上げて、その本文を記録類や歴史物語と比較対照しながら読み進め、作品に直接描かれない時代背景と作品生成の意図について考察する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は講義による解説を中心とし、レポートによる自発的な学習も取り入れる。【レポート (知識)】【リアクションペーパー】

到達目標

- (1) 文学作品と歴史背景についての基礎的知識を修得し、説明することができる。
- (2) 平安時代の社会や文化を理解し、女流作家の営為を評価することができる。
- (3) 文学作品の読解に付随する課題に取り組み、文化比較的に批評することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3芸術文化の特性と歴史に関する知識、
- 2自己・自文化の理解、
- 2課題発見、考察

内容

平安女流文学の1つである『枕草子』を取り上げ、『大鏡』や『栄花物語』を併用しつつ、作品の背後にある貴族社会の歴史を対照させながら読んでいく。

1	ガイダンス
2	清少納言について【リアクションペーパー】
3	『枕草子』という作品について
4	栄華期の章段 ~ 中宮定子との出会い
5	栄華期の章段 ~ 定子後宮の文化
6	中関白家の人々 ~ 『大鏡』から
7	長徳の変の周辺 ~ 歴史資料から【リアクションペーパー】
8	清少納言の長期里居

9	職御曹司時代の章段 ~ ホトトギスを尋ねて
10	職御曹司時代の章段 ~ 雪山の賭け
11	頭中将齊信と頭弁行成【レポート】
12	第一皇子の誕生 ~ 三条宮移御
13	一条天皇と定子 ~ 今内裏時代
14	定子の崩御 ~ 『栄花物語』から【リアクションペーパー】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 1回・2回 【事前準備】『枕草子』についての基本的知識を確認し、参考図書を探してみる。〔60分〕
 【事後学習】清少納言や『枕草子』について調べてまとめる〔60分〕
- 3回～14回 【事前準備】各回の授業範囲に相当するテキストに目を通し、疑問箇所は辞書や参考書等で調べておく〔60分〕。
 【事後学修】授業内容を復習しながら、『枕草子』『大鏡』『栄花物語』の現代語訳や参考書を並行して読んでいく。〔60分〕
- 15回 【事前準備】すべての回の学習内容について復習する〔2時間以上〕。
 【事後学習】『枕草子』について自分で参考図書を探して読む。〔2時間以上〕

評価方法および評価の基準

グループワークを含めた平常点を30%、レポートを70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)平常点(10/30)、レポート(20/70)

到達目標(2)平常点(10/30)、レポート(20/70)

到達目標(3)平常点(10/30)、レポート(30/70)

【フィードバック】グループワークで取り組んだ課題の結果に対してコメントし、内容理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『歴史読み枕草子 清少納言の挑戦状』赤間恵都子（三省堂）

【推薦書】開講後、授業の中で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内で十分に触れられなかった内容については、各自が教科書を読んで補ってください。『枕草子』と並行して『大鏡』『栄花物語』の現代語訳を読むのもいいと思います。

科目名	日本文学研究B		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGe443		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本文学のうち近代文学を対象とします。前期の「日本文学論B」は小説を、後期の「日本文学研究B」は詩を取り上げます。

科目の概要

詩の読み方を学修します。特に、難解とされがちな現代詩について、いくつかのバリエーションをまじえながら、実際の作品ごとにその特性を読み解き、言葉の芸術にじかに触れていきます。

授業の方法 (ALを含む)

作家についての概要を解説したあと、作品のよみかたについて討議しながら、解釈のしかたについて一緒に考えていきましょう。【討議】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 言葉について理解する。
2. さまざまな詩のパターンを知る。
3. 娯楽や知識習得以外の読書について知る。
4. 柔軟な発想を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2 「文学・芸術・文化に関する知識」
- 1 「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2 「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3 「比較文化的考察」
- 1 「情報収集・分析」
- 2 「課題発見・考察」

内容

思想や情念を表現する「近代詩」からはじまり、言葉の実験となる「現代詩」へのうつりかわりを知り、その現代詩のさまざまな実験について考えていきましょう。

1	詩とはなにか。
2	日本の「近代詩」について。
3	明晰さについて（茨木のり子 1）
4	明晰さについて（茨木のり子 2）
5	明晰さについて（茨木のり子 3）
6	イメージの精度（吉岡実 1）
7	イメージの精度（吉岡実 2）
8	イメージの精度（吉岡実 3）
9	イメージの精度（吉岡実 4）
10	ことばの運動（谷川俊太郎 1）
11	ことばの運動（谷川俊太郎 2）
12	ことばの運動（谷川俊太郎 3）
13	ことばの運動（谷川俊太郎 4）
14	詩と散文のあいだ（日本語の文章について）
15	まとめ。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で取り上げる予定範囲の文章に関して、分からない語彙について調べノートにまとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業時にまとめた文章を、もっと分かりやすいものにブラッシュアップする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

毎授業時の議論への取り組み50%、リアクションペーパー50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『新装版現代詩の鑑賞101』（大岡信編、新書館）

【推薦書】必要に応じて授業内で紹介します。

【参考図書】特にありません。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本文学研究C		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGe444		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

なし

実務経験および科目との関連性

なし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本文学に関する専門選択科目の講義の一つです。

科目の概要

みなさんは「幻想文学」と聞いてどのような文学作品を思い浮かべるでしょうか。荒涼とした古城に夜な夜なあらわれる亡霊、異世界からの来訪者、現実とは思えない幻想的なモノたちをめぐる物語…。もっとも「文学」を人間の観念による営みと考えれば、「文学」はなにがしかの幻想に基づいているということもできます。「幻想」とはどのようなものをさすのでしょうか。

この講義では、「幻想文学」とはどのような特徴を持つ文学なのか、を考えながら、幻想文学の作品を読み解きます。具体的には、西洋的な近代小説とはやや遠いところに位置づけられる、声や身体による伝承と深くつながりを持ち、民俗的な想像力を豊かな土壌として生み出されたと考えられる文学作品を扱います。

授業の方法 (ALを含む)

講義形式で行います。

到達目標

近代的な文学概念をふまえ、文学史的な幻想文学の位置づけを理解し、民俗的想像力と近代の文学の関係を把握することが学修目標です。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3芸術・文化の特性と歴史に関する知識
- 2自己・自文化の理解
- 2課題発見、考察

内容

- (1) 文学と民俗学と想像力
- (2) 幻想文学とは何か (その一)
- (3) 幻想文学とは何か (その二)
- (4) 日本の幻想文学の系譜 (その一)
- (5) 日本の幻想文学の系譜 (その二)
- (6) 泉鏡花『高野聖』 異界への誘い (その一)

- (7) 泉鏡花『高野聖』 異界への誘い(その二)
- (8) 小泉八雲『怪談』 精霊の住む国の物語(その一)
- (9) 小泉八雲『怪談』 精霊の住む国の物語(その二)
- (10) 宮沢賢治『なめとこ山の熊』 動物と人間の交歓(その一)
- (11) 宮沢賢治『なめとこ山の熊』 動物と人間の交歓(その二)
- (12) 深沢七郎『檜山節考』 棄老の伝説と真実
- (13) 深沢七郎『檜山節考』 棄老の伝説と真実
- (14) 近代文学と民俗的想像力
- (15) まとめ

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることがらを調べておいてください(各授業に対して60分)。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことがらを調べましょう(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

レポートまたは試験6割、授業時の小レポート・提出物など4割の配分とし、総合評価60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は指定しません。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。取り上げる予定の作品はできるだけ事前に読んでおいてください。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	児童文学		
担当教員名	東 聖子		
ナンバリング	KGe345		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 : 文芸文化学科ディプロマポリシー、 - 2、 - 2、 -2 と関連する。

社会教育の場としての児童図書館の歴史や、児童サービスの意義・方法論などを学ぶ。○公共図書館と学校図書館の連携や、国際子ども図書館の役割も知る。○さらに日本と世界の児童文学の芸術性を考究し、朗読や創作ワークショップを通して<読み聞かせ>のスキル・アップを目指す。

科目の概要: 遙かなたの子ども時代に、貴女は図書館や児童館等でおとぎ話や紙芝居を読んだらう。前半は日本の児童図書館の歴史や時代背景や運営等を学び、また、児童資料の種類や特性を知る。後半は児童文学の内容を研究し、日本独自のジャンルである紙芝居の歴史や、日本と世界の代表的児童文学の物語性を追究する。あわせて<読み聞かせ>のスキルを学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

見学会 (上野の国際子ども図書館)・ゲスト授業 (新座市立図書館の児童図書活動)。ゲスト授業 (OGによる朗読レッスンとアフレコ体験)・ストーリーテリング・毎回のリアクション・ペーパー等。ディスカッション・ディベート等。

到達目標 第一に児童 (乳幼児からヤングアダルトまで) サービスの成立過程と特性を学び、児童図書館や国際子ども図書館の役割を知る。第二に地域の公共図書館と学校図書館の連携を学ぶ。第三に日本の児童文学を、中世御伽草子から近代童話から紙芝居・アニメまで学ぶ。第四に世界の昔話や児童図書を学ぶ。第五に読み聞かせなどの朗読や創作の方法も習得する。

小澤俊夫氏は『昔話入門』のなかで、「人間存在の真相を示す昔話」とその本質を述べている。また、マックス・リュウティは、ヨーロッパの昔話について、「昔話はどんな材料でも簡潔にまとめ、純化してしまう様式形態をもった含世界性の冒険物語である」と語っている。児童文学の本質も学ぶ。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシー - 2 (主体性・多様性・協同性) にかかわる科目である。司書の資格科目でもある。一般学生が教養として取得してもよい。

1- 日本と世界の児童文学を知る。2- 他文化や他者との共生。3- 新しい価値観を持つ。

内容

日本と海外の童話との比較や現代的なメディアの役割などを、ディスカッションやディベートで考えたい。またグループで

ストーリーテリングをしたり、アフレコや朗読のワークショップを楽しみたい。

- 1 序 子どもと児童文学 美智子さま『橋をかける』
- 2 A 日本の児童図書館の歴史／児童サービスの意義
- 3 乳幼児・児童・ヤングアダルトのサービスの特色
- 4 B 「国際子ども図書館」の理念と活動
- 5 公共図書館と学校図書館の特色と連携活動
- 6 *上野：国際子ども図書館の見学
- 7 C 日本のおとぎばなし：中世の御伽草子から
- 8 日本独自のジャンル：紙芝居の歴史
- 9 紙芝居の実演 「稲むらの火」「アンパンマン」
- 10 D 世界の昔話 ドイツのグリム童話
- 11 昔話の文学性と構造理論
- 12 フィンランドのムーミン＜ストーリーテリングの方法＞
- 13 E <読み聞かせ>朗読レッスン：OGゲスト（声優）
- 14 日本点字図書館：プライユと本間一夫
- 15 結 これからの児童文学と図書館の可能性

学生は、多種多様（理論・実技・司書の方のプレゼン・図書館見学会・その他図書リサーチ等さまざまな授業を経験して、成長してほしい。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 本学図書館の児童文学コーナーを見学しておくこと。日頃から多くの児童文学に触れておくこと。（30分）

【事後学修】 授業で扱った児童文学の作品を、本や映像で全編を鑑賞してみる。（30分）

*例年は上野の国際子ども図書館を見学しているが本年度は未定である。

評価方法および評価の基準

評価は平常点（30点）、レポート（70点）で行い、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 授業中にプリントを、毎回配布する。図書館関連の資料は適宜紹介する。

【推薦書】 小澤俊夫編著『昔話入門』（1997年、ぎょうせい）

【参考文献】 ロジェ・カイヨワ著、多田・塚崎訳『遊びと人間』（1990年、講談社学術文庫）

市古貞次校注『御伽草子（上・下）』（1985・86年、岩波文庫）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本学図書館の児童図書コーナー／他の公共図書館の児童図書の活動／大きな書店の児童図書コーナー／最近上映のアニメーション映画など、児童文学の社会的現状を広い視野から、関心を持たれて生活されてください。

科目名	物語分析		
担当教員名	齋藤 秀昭		
ナンバリング	KGe346		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

文芸批評の一環として文庫の「解説」を執筆したりもしているため、本科目の中心課題たる小説や物語の分析において実践的かつ具体的な指導をおこなうことになる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

・文芸文化学科の選択科目として、小説を 読む ということは一体如何なることなのかを探究することによって、近代の文芸に関する基礎知識や、近代小説 (物語) の精緻な分析・読解の方法論を実践的に学修する。受講生各自が自分の力で小説の魅力を発見し、それを表現する訓練の場とすることで、大学4年間の学問の土台となる探究姿勢の獲得へとつながるはずである。

科目の概要

・日本の近代小説が成熟期を迎えた大正期の名短篇の数々を講読していくなかで、日本近代小説の物語の構造や特色、そしてその現代的な価値を明らかにしていきたい。また受講者同士の対話、つまり双方向的な授業環境を重視し、自己表現としての 読み の可能性も探っていく。

授業の方法

・本科目では、作家や作品の基本に関する講義をおこなうと共に、作品を熟読して来た受講者同士のディスカッションを取り入れた授業を展開する。【リアクションペーパー】【レポート (表現)】【討議・討論】

学修目標 (到達目標)

(1) 近代小説を物語の構造を意識しながら自ら解釈し表現することで、 読む 喜び・発見する喜びを身につけることができる。

(2) 日本の近代小説になぜ優れた短篇が多いのか、またその特質とは何か、実践的に学び理解することができる。

(3) 文学表現との邂逅を通して、近代に生きる私たち人間の内面に関する理解を深め、かつ近代社会の問題にも目を向けていくことができるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、文芸文化学科の以下の資質・能力を育成することになる。

-2 文学・芸術・文化に関する知識 -2 課題発見・考察

内容

この授業は、教員の講義や助言を挟みながら、参加者相互のディスカッション (話し合いや意見発表) を基本とすることで、作者と作品の理解を深めていくスタイルをとる。

1	ガイダンス、日本近代文学における大正期の小説について【リアクションペーパー】【討議・討論】
2	田村俊子「女作者」の読解と分析【リアクションペーパー】【討議・討論】

3	上司小剣「鱧の皮」の読解と分析【リアクションペーパー】【討議・討論】
4	里見淳「銀二郎の片腕」の読解と分析【リアクションペーパー】【討議・討論】
5	広津和郎「師崎行」の読解と分析【リアクションペーパー】【討議・討論】
6	有島武郎「小さき者へ」の読解と分析【リアクションペーパー】【討議・討論】
7	久米正雄「虎」の読解と分析【リアクションペーパー】【討議・討論】
8	芥川龍之介「奉教人の死」の読解と分析【リアクションペーパー】【討議・討論】
9	宇野浩二「屋根裏の法学士」の読解と分析【リアクションペーパー】【討議・討論】
10	岩野泡鳴「猫八」の読解と分析【リアクションペーパー】【討議・討論】
11	菊池寛「入れ札」の読解と分析【リアクションペーパー】【討議・討論】
12	川端康成「葬式の名入」の読解と分析【リアクションペーパー】【討議・討論】
13	葛西善蔵「椎の若葉」の読解と分析【リアクションペーパー】【討議・討論】
14	葉山嘉樹「淫売婦」の読解と分析【リアクションペーパー】【討議・討論】
15	まとめ、レポート提出【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】翌週に扱う予定の作品を必ず熟読してコメントシート（リアクションペーパー）を完成させると同時に、その作家について文学事典等を使って調べておく（各授業に対して60分）。

【事後学修】授業で扱われた問題点が何であったかを振り返り、自分の考えを返却されたコメントシート（リアクションペーパー）に整理しておく（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

・授業への参加度を含む毎回のコメントシート60%、レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題は全て添削・点検し、次回以降の授業で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】紅野敏郎ほか編『日本近代短篇小説選 大正篇』（2012年11月、岩波文庫、800円＋税）

【推薦書】特になし。

【参考図書】安藤宏『日本近代小説史』（2015年1月、中公選書、2000円＋税）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	漢詩・漢文に親しむ		
担当教員名	田中 正樹		
ナンバリング	KGe347		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本文学にも多大な影響を与えてきた中国古典、漢詩・漢文について、訓点（返り点・送り仮名）を付けて日本語に翻訳するという日本独特の伝統的読解システムを通じて学ぶ。

科目の概要

中国古典語としての漢文（漢詩）の読解に必要な基本的文法構造に留意しつつ、訓読法を学ぶ。短い物語（漢文）および漢詩をテキストとして使用、中国の文学の多様性に触れる。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

返り点、送り仮名を付す意味を理解し、正確な訓読ができるようにするとともに、漢詩の構造についての理解も深める。そして、漢詩・漢文が日本の物語や詩歌に与えた影響についての基礎知識を得る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容	
1	漢詩・漢文について：「中国文学と日本文学」序説
2	訓読という翻訳システム：返り点・送り仮名とは？
3	短い物語を読んでみよう：漢文の構造 「主語（主題）+ 動詞 + 目的語」
4	短い物語を読んでみよう：漢文の構造 「再読文字」の役割
5	短い物語を読んでみよう：漢文の構造 「助字」の役割
6	少し長い漢文を読んでみよう：訓読を手がかりに原文に訓点をつけるには

7	少し長い漢文を読んでみよう：返り点をつけるときの留意点
8	少し長い漢文を読んでみよう：送り仮名をつけるときの留意点
9	漢詩を読んでみよう：「漢詩」の歴史 「漢詩」の多様性（唐詩・宋詩）
10	漢詩を読んでみよう：「漢詩」の構造（今体詩の規則）
11	漢詩を読んでみよう：「漢詩」における「視覚」と「聴覚」
12	漢詩と日本文学：漢詩と和歌（『句題和歌』、『新撰万葉集』）
13	漢詩と日本文学：漢詩と俳句
14	漢詩と日本文学：日本の漢詩
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】配布するテキスト（漢文・漢詩）の語彙を調べ、意味を考える。

【事後学修】漢文の語法や、学んだ事項について参考文献等で調べ理解を深める。

評価方法および評価の基準

授業に対する意欲・関心・態度 20%、確認テスト 80%とし、総合評価 60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布。

【推薦書】漢和辞典：『漢辞海』（三省堂）等の漢和辞典を用意する。

【参考図書】

- ・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語学A		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGe348		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本語学の基本的な知識を身につける科目である。日本語の成立について通時的に観察し、ことばの変化とその要因を探る。また、現代語から切り離された過去の言語活動として、古い時代のことばを扱うのではなく、今の日本語への影響やその残存を意識しながら、日本語の成立を捉えていく。

科目の概要

授業は講義を基本とし、日本語の成立において重要とされる内容について、テキストを通読し理解する。また、各種資料の具体的な検討を通して、日本語学的な資料の扱い方にも触れる。

授業の方法 (ALを含む)

テキストを使用しながら、日本語の歴史を通時的に追っていく。日本語の変化とその要因について、グループで話したり、結論を導いたりする。授業中に実施するテストや課題は採点后に返却する。また、リアクションペーパーについて共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

学修目標 (到達目標)

- (1) 日本語の成り立ちについて関心を持つことができる。
- (2) 日本語の変化に関する知識やキーワードを修得し、説明することができる。
- (3) 日本語の歴史を通時的に理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

内容

古典語に苦手意識をもつ受講生も興味・関心が持てるよう、親しみやすくわかりやすい資料を用いながら授業を進める。現代語と古典語の相違や、現代語につながる表現について、それぞれの関心をグループで共有する。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
---	-----------------------

2	日本語の歴史を学ぶ意味【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	奈良時代の日本語 1 (万葉仮名の成立)【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	奈良時代の日本語 2 (奈良時代の発音)【リアクションペーパー】【グループワーク】
5	平安時代の日本語 1 (平安時代における文体の種類)【リアクションペーパー】【グループワーク】
6	平安時代の日本語 2 (文体を使い分ける)【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	鎌倉時代の日本語 (古典文法の変容)【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	室町時代の日本語 (係り結びの崩壊・武士のことば)【リアクションペーパー】【グループワーク】
9	江戸時代の日本語 1 (江戸時代の発音)【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	江戸時代の日本語 2 (江戸時代の語彙)【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	明治時代の日本語 1 (言文一致を求めて)【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	明治時代の日本語 2 (言文一致の難しさ)【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	近代語から現代語へ【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	現代語における古語の名残【リアクションペーパー】【グループワーク】【ミニテスト】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスに従い、教科書の該当部分を読む。わからない語句や重要な古典文学作品については、その概要を調べる。(各授業60分)

【事後学修】配布プリントを完成させ、教科書の該当部分を改めて読み、理解の定着を図る。関連する作品については、実際に読んでみる。(各授業60分)

評価方法および評価の基準

授業中に実施する小レポート(40%)

中間テスト・期末テスト(60%)

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】山口仲美(2006)『日本語の歴史』(岩波新書)岩波書店

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語学 B		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGe349		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本語に関する興味関心を深め、様々な問いを元に文献調査だけでなく、更に自ら調査研究へのステップを体験的に学ぶ。特に思考・判断、関心・意欲・態度の向上を目指す。

科目の概要

特に気づくこともなく使っている身の回りのことばやコミュニケーションを、何で? どうして? を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

授業の方法 (ALを含む)

1. 単なる知識の伝授だけでなく、ことばを通して考えるプロセスを訓練する。
2. 身近なものの中に問いを立てることルーティンとして習慣化できるようにする。
3. グループでの対話型のスタイル
4. 学びの場づくりを大切にする。

到達目標

ことばを通して考えるプロセスをマスターする。
日本語に関する不思議に気づき、文献探索ができるようになる。
問いと仮説を立てることが出来るようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識
- 1 自己・自文化理解、客観的分析
- 1 情報収集・分析

内容

1	第1回 インストラクション (授業の方法と評価の仕方)
---	-----------------------------

2	第2回	言語とは何？
3	第3回	日本語っていつからはじまったの？
4	第4回	言語とコミュニケーション
5	第5回	音声言語としての日本語（音声記号を書けるようにしよう！）
6	第6回	日本語音声の特徴
7	第7回	日本語方言の音声
8	第8回	音響分析と日本語
9	第9回	アクセントとイントネーション
10	第10回	方言とアクセント
11	第11回	文字の歴史
12	第12回	変体仮名を読む（古今集の恋の歌を読む）
13	第13回	表記のゆれと変化
14	第14回	日本語を考える
15		振り返り

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次の授業の前日までに事前課題を確認し指示に従うこと。

【事後学修】授業後48時間以内に指定のURLからリフレクションシートにアクセスし登録すること。

（事前・事後ともに各回60分）

評価方法および評価の基準

Googleフォームでのリフレクションをポイント化（60％）、適宜行う課題の評価（30％）、最終テストの評価（10％）。振り返り・・・1～7ポイントポイント、まとめ&感想...1～3ポイント、Self-evaluation 1～3ポイント） 課題・・・3～8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけとする。

科目名	日本語学研究A		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGe450		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本語学・日本語教育における文法の諸説をふまえて、日本語の特質や文法理論の問題点について考察する。身近な文法現象を文法的に捉え直すことで、普段、意識せずに使っている日本語が体系的な仕組みによって成り立っていることを知る。日本語学・日本語教育を専門的に学ぶうえで必要となる科目である。

科目の概要

講義では、テキストに掲載されている問題を解くことに加え、歌謡曲やドラマなどの身近な日本語を素材とした分析を行う。問題の解答にあたっては、グループワークを取り入れ、文法的な解説を相互に担当できるようにする。

授業の方法 (ALを含む)

テキストの問題を解き、その答え合わせをグループで行う。答え合わせの際には、正答である理由や不正解である理由を説明できるようにする。また、提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。さらに、リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

到達目標

- (1) 「文法的に考える」力を身につけ、文法的な事柄について説明することができる。
- (2) 日本語の仕組みや身近な言語現象に関心を持つことができる。
- (3) 修得した知識を日常生活に活かすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

内容

さまざまな文法現象を理解するためには、テキストの問題を繰り返し解くことが求められる。母語話者の直感を頼りにするのではなく、各形式の機能・用法について客観的に説明をすることを心掛けてほしい。

また、ペアワークやグループワークを取り入れながら、「なぜその表現なのか」「その表現では問題なのか」をわかりやすく

く説明できるようにする。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	日本語文の構造【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	主題化【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	自動詞と他動詞【リアクションペーパー】【グループワーク】
5	ヴォイス1（受身文）【リアクションペーパー】【グループワーク】
6	ヴォイス2（使役文）【リアクションペーパー】【グループワーク】【ミニテスト】
7	テンス1（絶対テンスと相対テンス）【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	テンス2（テンス以外のタ形）【リアクションペーパー】【グループワーク】
9	アスペクト1（「～ている」と「～である」）【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	アスペクト2（金田一の動詞分類）【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	ムード1（対事的ムードと対人的ムード）【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	ムード2（注意すべきムードの用法、その他のムードの用法）【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	複文の構造1（名詞修飾節・補足節）【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	複文の構造2（副詞節・並列節）【リアクションペーパー】【グループワーク】【ミニテスト】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスに従い、教科書の該当部分を読む。術語や専門用語については関連の事典を活用して事前に理解する（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書の該当部分を改めて読み、理解の定着を図る。留学生向けに書かれたテキストを調べてみて、既習の文法項目がどのように指導されているか調べてみる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

毎回の授業における貢献度（30%）

授業内課題への取り組み（30%）

期末テスト（40%）

を単位認定の基準とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】原沢伊都夫（2010）『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』スリーエーネットワーク

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語学研究 B		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGe451		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本語に関する興味関心を深め、様々な問いを元に文献調査だけでなく、更に自ら調査研究へのステップを体験的に学ぶ。特に思考・判断、関心・意欲・態度の向上を目指す。

科目の概要

日本語の面白さを知る！母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で？ どうして？ を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考える。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。特に日本語の方言について深く学びます。情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。

授業の方法 (ALを含む)

日本の地域言語を学ぶ中で、地域とは何か、日本とは何かを考えていく。母語として特に気づくこともなく使っている日本語を、言語研究で明らかになった成果を元に、考察していくことを目的とする。単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスの訓練も行う。特に、ことばと地域との関わりについて考えながら、アンケート調査とデータの分析の体験も併せて行う。情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えていく。

到達目標

1. 単なる言語学の知識の伝授だけでなく、ことばを通して考えるプロセスを訓練する。
2. 身近なものの中に問いを立てるものの習慣化を目指す。
3. 自らテーマ設定したものを調べ、調査、発表までのプロセスを体験する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識
- 1 自己・自文化理解、客観的分析
- 1 情報収集・分析

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。おすすめです。

1	ガイダンス・インストラクション（「日本語学研究B」での学びの構え、型を学ぶ）
2	第2回 流行語・ことばの変化
3	第3回 正しいことば・間違ったことば
4	第4回 日本の方言（九州）
5	第5回 日本の方言（中国・四国・山陰）
6	第6回 日本の方言（関西）
7	第7回 日本の方言（東海・甲信越）
8	第8回 日本の方言（江戸・東京・関東）
9	第9回 日本の方言（東北・北海道）
10	第10回 ことばのスタイル
11	第11回 ことばを調べる1
12	第12回 ことばを調べる2
13	第13回 ことばを調べる3
14	第14回 ワークセッション
15	振り返り

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各回の事前課題教材の学習。

【事後学修】振り返りとして48時間以内に学びの内容や各自の気づきをメールで提出。フォーマットはインストラクションで解説。

評価方法および評価の基準

Googleフォームでのリフレクションをポイント化（60%）、適宜行う課題の評価（30%）、最終テストの評価（10%）。振り返り…1~7ポイントポイント、まとめ&感想…1~3ポイント、Self-evaluation 1~3ポイント） 課題…3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

座学による知識の享受だけでなく、Step by Stepで自律的な学びの姿勢を身につけ、学生同士の学び合いの機会を活かしながら成長していきましょう。

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけとなると良いですね。

科目名	日本語音声学		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGe352		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本語の音声・音韻を中心とした専門領域に関する知識と思考・判断、関心・意欲・態度の向上を目指す。

科目の概要

教科書として使う『音とことばのふしぎな世界』が示すように、言語を理解する上で大切な要素である「音声」を素材として、学問を学ぶ上でも基礎的な理論と実証によるアプローチなど、様々な学問的枠組みを身につけてもらう。この授業では、身近な例を使って、これらの学問の特色と目的を考えていきます。また、実験的な作業もやりながら、学びを深めていきます。

授業の方法（ALを含む）

ワークショップスタイルの、協働による学び合いを大切に自律的学習者育成を目指す。
リフレクションのルーティン化を大切にする。

到達目標

1. 学びの基本を授業のルーティンを通して身につける。
2. 様々な言語事象に興味をもって観察する力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

内容

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。おすすめです。

1	オリエンテーション、「日本語音声学」での学びの構え、型を学ぶ
2	名前で見た目の魅力も変わってしまう？「音象徴」とは

3	「ひよこがぴよこ」で「母がパパ」？「調音点と調音法」
4	「五十音図」のなぞを探る
5	世界のすべての音を記録する国際音声記号「記述音声学」
6	『マイ・フェア・レディ』と音声学の意外なつながり
7	MRI で日本語の母音をチェック「調音音声学」
8	声帯の動きを首の外側から観察する
9	声紋分析官になりたい人の「音響音声学」
10	秋葉原のメイド声ってどんな声？
11	ないはずの音が聞こえる日本人「知覚音声学」
12	赤ちゃんは言語習得の天才
13	世の中の役に立つ音声学「福祉音声学」
14	音声学の広がり
15	振り返り

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次の授業の前日までに事前課題を確認し指示に従うこと。

【事後学修】授業後48時間以内に指定のURLからリフレッシュシートにアクセスし登録すること。

(事前・事後ともに各回60分)

評価方法および評価の基準

Googleフォームでのリフレクションをポイント化(60%)、適宜行う課題の評価(30%)、最終テストの評価(10%)。振り返り…1~7ポイントポイント、まとめ&感想…1~3ポイント、Self-evaluation(1~3ポイント) 課題…3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業で説明します。

【推薦図書】『音とことばのふしぎな世界』, 川原 繁人(著), 岩波科学ライブラリー ¥1,296

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

座学による知識の享受だけでなく、Step by Stepで自律的な学びの姿勢を身につけ、学生同士の学び合いの機会を活かしながら成長していきましょう。

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけとなると良いですね。

科目名	硬筆書道		
担当教員名	三田 広美		
ナンバリング	KGg253		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

本科目は、書写の理論を学び、硬筆による手書き文字を美しく整えて書く技能と、手書き文字による作品を制作します。

科目の概要

活字と手書き文字の違いを正しく理解し、手書き文字を整えて、読みやすく書けるようにする。

楷書、行書、草書の知識や技能を身につけて、実生活で役立つ「書く力」と創作力を養います。

教職課程として中学校書写の指導法を理解する。（小学校書写の内容にも触れ理解する。）

授業の方法（ALを含む）

講義を聞いて、ポイントを理解して手書き練習をする。添削あり。 題材を探し創作する。

到達目標

1 . 筆記用具の持ち方や執筆の仕方を理解した上で、点画の書き表し方や筆順、部首を理解し、字形を整えて読みやすい文字を書けるようにする。

2 . 実用書や芸術的作品を目的に適した書体、文字の大きさ、配置で、体裁よく書けるようにする。

3 . 文部科学省後援「硬筆書写技能検定」準2級、2級、準1級程度の理論を学び検定資格をとる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 4

芸術・文化に関する表現能力

内容

1	活字と手書き文字の違い・最新の筆記用具事情	1 6 回 . 前期の復習・芳名帳に名前を書く
2	字母から学ぶ平仮名・間違えやすい筆順と部首	1 7 回 . 漢字かな交じり文 1
3	ひらがな、漢字を外形にあてはめて学ぶ	1 8 回 . 漢字かな交じり文 2
4	楷書の基本 1 点画の書き方とカタカナ・数字	1 9 回 . 創作（黒い用紙に白ペン）

5	楷書の基本2（偏と傍の書き方と部首）	20回・俳句の散らし書き
6	楷書の基本3（部首かるたを用いて部首を理解する）	21回・散らし書き1（短冊）
7	横書きの書き方（掲示物など）	22回・散らし書き（短冊）
8	履歴書の書き方を理解する	23回・散らし書き2（色紙）
9	履歴書を清書する	24回・散らし書き3（色紙）
10	行書の書き方と画の続け方	25回・散らし書き4（扇面）
11	行書に合うひらがなを書く	26回・古文・散文作品作り
12	ひらがなの連綿	27回・年賀状、寒中見舞い
13	縦書き作品	28回・自由作品制作の草稿づくり
14	実用書（一筆箋、手紙の書き方を理解する）	29回・作品制作と理論のまとめ
15	はがき（暑中見舞）	30回・作品制作仕上げと理論のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスに従い書きたい題材をノートにメモしてくる。（各授業に対し30分）

【事後学修】学んだ理論を復習し、テキストの課題をすすめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、毎授業時の提出物（リアクションペーパー、提出課題、小テスト）60%、作品制作20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】前回授業の提出物を返却返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する。

まる得マガジンMOOK「クセ字が直る美文字レッスン帳」

適宜プリントを配布する。

【推薦書】「ペン字精習」上・下（狩田巻山・日本習字普及協会）

【参考図書】常用漢字書きかた字典（宮澤正明編・二玄社）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

筆記用具やテキストを忘れず持参すること。

理論を覚えたり復習して、実践にいかすことで力がつきます。

科目名	毛筆書道		
担当教員名	鈴木 慈子		
ナンバリング	KGg254		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格・・・<墨の香り>ただよう教室で、紙に向かい一心に筆を運ぶ。実技中心の科目です。

中学校教諭免許状「国語」取得に必要な科目でもあります。また希望者には「毛筆書写技能検定」の指導も行います。

科目の概要・・・書道を学ぶ上での基礎体力作りは、古典の名品の「臨書」です。漢字は、前期は「中国唐時代の楷書」や王羲之の行書「蘭亭序」などを手本とします。

後期は草書、隷書、篆書など幅広い書体の勉強、日本独自の仮名の学習も行います。

それと並行して現在中学校で使われている書写の教科書から課題を選び、制作する時間を設けます。

授業の方法（ALを含む）・・・課題に対する解説後は、指導教員が実際に教壇で筆を持ち書いて見せます。その後、各自の書道経験に応じて個別に添削を行い、清書完成に導きます。

到達目標・・・筆の扱いに慣れ、いろいろな書体を正しく美しく書くことが出来るようにします。

臨書で培った力で自分が選んだ言葉を書く 「創作作品」の制作が出来るようにします。

また、季節に合わせた短冊、うちわ、年賀状、書き初めの制作や写経を通じ、社会人となって必ず役に立つ筆文字の美しさを習得します。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 芸術・文化に関する表現能力

内容

<前期>

1. 前期授業の進め方について 書道用品（文房四宝）について
各自の書道歴の聞き取りをする。芳名帳に筆で記名する。
2. 好きな漢字を選び 「一字書」の制作
3. ~ 5. 「楷書の臨書 初唐の三大家」 楷書で名前を書く。漢字の歴史について解説。
6. ~ 7. 「楷書創作作品」の制作をする。
8. ~ 9. 「行書の臨書 蘭亭序」 行書で名前を書く。

10. ~ 11. 「漢字とひらがな」が融合した作品制作をする。
 12. 「七夕短冊作品」の制作 七夕にちなんだ和歌、俳句を書く。
 13. ~ 14. 「般若心経」を写経する。 写経の由来について学ぶ。
 15. 「うちわ作品」の制作 前期のまとめ
- <後期>
1. ~ 2 後期授業の進め方について 「行書の臨書 空海」
 3. ~ 4. 「草書の臨書」 草書で名前を書く。書体の変遷について解説。
 5. 現行の「中学校毛筆書写」教科書の課題を書く。
 6. 掲示物など「実用書」を書く。
 7. ~ 8. かな文字の基礎を学ぶ。変体仮名を読めるようにしよう。
 9. 「和歌一種」を書く。
 10. 「年賀状」を筆で書く。 顔彩を使い絵も描こう。 干支について学ぶ。
 11. 隷書と篆書について
 12. 一年間の集大成となるような「創作作品」を考える。
 13. 「創作作品（漢字・かな・漢字かな交じり すべて自由）」を制作する。
 14. 「書き初め」を書く。 実際に中学校で使われている課題から言葉を選ぶ。
 15. 一年間のまとめ 全作品を綴じる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】書道用品が揃っているか確認しておく。

【事後学修】授業で書いた課題について、配布プリントで歴史的背景などを読み理解を深める。

評価方法および評価の基準

各課題の清書作品による評価70%、平常点30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

課題プリントを毎回配布

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	創作ワークショップ A		
担当教員名			
ナンバリング	KGg355		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

目標を決めて、自ら創作・表現する。

科目の概要

描画、編集ソフトを使用して、絵本を作成する。

絵本を元にして、ウェブブック、または簡単なアニメーションを作成する。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

オリジナル絵本・アニメを作成する。描画・編集ソフトを自由に使いこなす。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

前期：

アドビ・イラストレータ、フォトショップの使用方法を学ぶ。

図書館などの絵本を参考にして、オリジナル絵本の構想を練る。

造本の方法を学ぶ。

A5の絵本を作成する。

講評

後期：

アニメーション制作のためのソフトを学習する。

前期で作成した絵本を元にして、アドビ・フラッシュを使用し、ウェブブック、またはアニメーションを作成する。

講評

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】本屋さんや図書館でいろいろな絵本を見、また、ウェブサイト上の作品を見て、自分が作りたい作品のイメージを温めておくこと。

【事後学修】作業が遅れている場合は、自由時間に進めておくこと。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、提出物70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず。資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	創作ワークショップ B		
担当教員名	齋藤 秀昭		
ナンバリング	KGg356		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

日本近代文学のアンソロジーをたびたび編集する仕事もしているため、創作のあり方や創作集の編集方法等について実践的な指導をおこなうことになる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

・文芸文化学科の選択科目として、小説の読解や創作理論の学修を踏まえつつ自ら短篇小説を創作することで、現代社会における文学の小説的価値について実践的に学修することができる。また創作という行為は自己表現の難しさを克服する過程にもなるので、社会人に必須なアウトプット能力の涵養にも繋がるはずだ。

科目の概要

・短篇小説を実作し、全員の作品を一冊の創作集にするわけだが、その過程において各自の創作をもとにした相互批評 (合評会) を行う。優れた作品の中から小説の技術や方法を学び、レポート等を提出してもらう。また、小説の理論等についても学修すると同時に、卓越した日本近現代文学の作品を読解・分析する試みも行う。

授業の方法

・本科目では、創作方法や小説の理論についての講義も行うが、基本的に課題をこなしてきた受講者同士のディスカッションが中心となる。【リアクションペーパー】【レポート (表現)】【討議・討論】

学修目標 (到達目標)

- (1) 小説の実践的な創作実習や作品の合評を通じて、受講者各自の表現能力を養うことができる。
- (2) 全員が創作集に載せる作品を創作することで、読者を魅了する創作の技法を向上させることができる。
- (3) 優れた現代文学の読解・分析を通して小説とは何かについて考えを深め、現代における小説の存在意義について考察することができるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、文芸文化学科の以下の資質・能力を育成することになる。

-4 芸術・文化に関する表現能力

内容

・受講者相互のプレゼンやディスカッション、教師による添削及び講評を通じて、各自の創作モチーフやテーマを優れた作品として具体化できるようにする。

・優れた 小説の書き方 を論じた著作・論考を授業で取り挙げ、その技法や理論を各自が自作に反映出来るような試みを実践する。

・自分自身で実際に小説を創作することで、文学作品に対する読解の深化を図る。さらにそれが自身の創作に再び反映するというような、相乗効果的文学理解が得られるようにする。

- ・小説の執筆に必要なテーマの設定・取材・プロット構想・ストーリー構成・語り（文体）の選択等の基礎作業を踏まえた上で、実作における各自の表現技術を向上させる。
- ・プロの作家が創作した優れた小説の読解と分析を行うことで、小説に対する客観的な批評尺度を身につける。
- ・創作集の作成というグループワークを通して、他者との協同作業の喜びやその意義を実体験として学び取っていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】小説の設定・取材・プロット・ストーリー・文体等をまとめた構想作りに励んでもらう。課題が示された時には、コメントシート（リアクションペーパー）を事前に完成させておく。夏期休暇においては、創作の下書きも行ってもらおう（各授業に対して60分）。

【事後学修】合評を踏まえた上で小説の改稿を行なっていくので、その場その場で改稿の時間が必要。自己の満足度によってその時間は大きく変わって来るだろう。またコメントシート（リアクションペーパー）の返却を受け、自らの修正箇所を吟味し、授業全体の内容を復習しておく。（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

- ・実際に創作した作品を提出してもらおう。また合評会での相互評価の成果もレポートしてもらおう。
- ・文学作品を読解する際には、該当作品についてコメントシート（リアクションペーパー）を基にした報告をしてもらおう。
- ・創作物の提出60%、授業への参加度を含む提出物その他40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題は全て添削・点検し、次回以降の授業で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

村上春樹『職業としての小説家』（2016・10、新潮文庫、630円＋税）

山田詠美『ぼくは勉強ができない』（1996・3、新潮文庫、400円＋税）

森絵都『カラフル』（2007・9、文春文庫、505円＋税）

【推薦書】

清水良典『2週間で小説を書く！』（2006・11、幻冬舎新書、740円＋税）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	創作ワークショップ C		
担当教員名	石黒 教子		
ナンバリング	KGg357		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

コンピュータを使って、ソフトウェアを自分の目的に合わせて使用する。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

創作技術の修得に向けて訓練する

科目の概要

描画、編集ソフトを使用して、絵本を作成する。

絵本を元にして、ウェブブック、または簡単なアニメーションを作成する。

授業の方法 (ALを含む)

パソコンを使用した実習

到達目標

自分のイメージを具体化するために、描画・編集ソフトを自由に使いこなすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

3 . 幅広い知識とその知見を生かし、さまざまな分野に貢献できる。

内容

前期：

アドビ・フォトショップ、イラストレータの使用方法を学ぶ。

図書館などの絵本を参考にして、オリジナル絵本の構想を練る。

造本の方法を学ぶ。

A5の絵本を作成する。

講評

後期：

前期で作成した絵本を元にして、アドビ・フラッシュを使用し、ウェブブック、またはアニメーションを作成する。

講評

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】参考になる資料や情報を集め、作品制作の参考にする。

ラフスケッチ、絵コンテを作っておく。

【事後学修】提出期限を守れるように、遅れを取り戻しておく。

評価方法および評価の基準

授業への参加度10%、提出物90%とし、総合評価60点以上を合格とする。

前期は「絵本」を製本して提出する。

後期は1～2分のアニメーションを提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず。資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

最初の数回は、ソフトウェアの使用方法を習得するためのチュートリアルになるが、自分がどの程度の技術で何ができるかを確認しておこう。絵コンテを作るなど、作品制作は無理のない計画をして、完成させよう。

科目名	創作ワークショップ D		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	KGg358		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 この科目をとると浴衣、半幅帯、普段着、名古屋帯、袋帯の着用できるようになりますし、社会の中の着物活動も参加できます。

科目の概要 着付けを習い、人に着せる練習、学校内、外の活動を進めます。また自分の一つの研究テーマを決めてレポートを書きます。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標いろんな体験をしながら日本のファッション文化着物、を親しみ理解する事が目的です。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容	
1	1 - 2 着物の必要な小物をそろえて、名前、使い方を覚える。
2	3 - 4 足袋のはき方、着物の下着と長じゅばんの着方を習う。研究テーマ決める。
3	5 - 6 浴衣の着方、幅帯の結び方を習う。
4	7 - 8 人にの浴衣の着せ方、半幅帯の結び方を習う。
5	9 - 10 ウールの普段着の着方を習う。
6	11 - 12 ウールのふだん着の着方と名古屋の結び方を習う。

7	13 - 14 名古屋帯の結び方を習う。研究の発表1します。
8	15 - 16 研研究発表1をします。
9	17 - 18 小紋の着方を習う。
10	19 - 20 合わせ小紋の着方、名古屋帯の結び方を習う。
11	21 - 22 礼装用名着物と袋帯の結び方を習う。
12	23 - 24 礼装用着物と袋帯の結び方を習う。
13	25 - 26 着物の染物と織物を習う。
14	28 研究発表2します。
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】着物の雑誌を見る事

【事後学修】着物の歴史、技法を調べる

評価方法および評価の基準

30% 研究発表、30% 着付けのテスト、40% 年間の動力、総合評価

60% 以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】シーラ クリフ Sheila Kimono Style 東海教育研究場、長崎巖 小袖、Pie Books

近藤富江 大正の着物、民族衣装文化普及協会 装いの女心、講談社

丸山文彦 江戸の着物と衣生活 小学館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	創作ワークショップ E		
担当教員名	水島 ゆめ		
ナンバリング	KGg359		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが本授業のねらいである。

科目の概要

この授業は「人間にとって造形性は必要である」ということに視点をおき、形や色彩に関わる概念を再認識し、自らが造形することの喜びを体感することもねらいのひとつともいえる。既成概念からの離脱を図り、新たな造形性を発揮し造形的思考力を高められることを望む。

授業の方法 (ALを含む)

様々な技法や素材の新たな扱い方を実技を通して学ぶ。そのなかで一つの画材や素材には何通りもの扱い方があることを知り、さらにそれぞれの表現技法を組み合わせることにより、自分の表現したいものを追求し創造性を高めていく。制作した作品はノートにまとめ、関連する作家等のリサーチも合わせて行う。また、お互いの作品を鑑賞し合うことで他者と自分の相互の理解を深める。

【実技、レポート (知識)、レポート (表現)、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】
【ICT】

到達目標

- (1) 素材や画材の特性や扱い方を理解し、自らが思い描くように扱うことができる。
- (2) 新しい表現を摸索し、意欲的に工夫することで多角的な創造性を養うことができる。
- (3) 創作を通じて表現し、他者と感動を共有しお互いの表現を認め合うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-4 芸術・文化に関する表現能力

内容

アート・ワークショップを体験的に学ぶ。

造形表現は物的な材料を媒体として実現するものである。

様々なアート（デジタル・メディア表現を含む）を織り交ぜながら、演習を通して行う（年間）。

1. 前期ガイダンス
2. 見立ての物語：色画用紙の切れ端の色や形から想像し創造する【実技、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】
3. 日常の中の見立て：普段の生活の中での見立てを発見する【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】
4. ランドアート、ものの捉え方：周りにあるものや自然物の配置を変えて作品化する【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】
5. 風景をなぞる：ガラス窓にフィルムを貼りクレヨンで描画する【実技、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】
6. ライトドロ잉：光の軌跡で空間に描く【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】
7. 影絵：身近なものを組み合わせ、影による表現を追求する【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】
8. 感覚横断：目に見えないものを色や形で表す【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】
9. 凸版画の追求・コラグラフ版画：身近なもので版を制作する【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、討議・討論、PBL、創作・制作】
10. 凸版画の追求・コラグラフ版画：版を刷る【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】
11. 凹版画の追求・ステンシル：ステンシル手法を用いて型を制作する【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、PBL、創作・制作】
12. 凹版画の追求・ステンシル：型を組み合わせ、スポンジを使い転写していく【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、討議・討論、PBL、創作・制作】
13. 細密画：下書き、パターンの配置をデザインする【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】
14. 細密画：パターンの組み合わせで画面を構築する【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】
15. 前期まとめスケッチブック提出
16. 後期ガイダンス
17. トラス構造を使った立体制作：棒状の新聞紙を利用して【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】
18. トラス構造を使った立体制作：バランスを見て組み合わせ考察【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】
19. コンテとクレヨンによる描画：粉状のコンテで描画する【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、討議・討論、PBL、創作・制作】
20. 風船張り子：紙による張り子を制作する【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、討議・討論、PBL、創作・制作】

21. 風船張り子 : 糸や異素材の組み合わせ制作する【実技、レポート(知識)、レポート(表現)、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】
22. 布によるコラージュ : 新聞紙で心材を制作する【実技、レポート(知識)、レポート(表現)、討議・討論、PBL、創作・制作】
23. 布によるコラージュ : 不要なハギレ等を用いて立体を制作する【実技、レポート(知識)、レポート(表現)、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】
24. キネティックアート : モビール等の動く立体造形、イメージデッサン【実技、レポート(知識)、レポート(表現)、討議・討論、PBL、創作・制作】
25. キネティックアート : モビール等の動く立体造形、制作【実技、レポート(知識)、レポート(表現)、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】
26. エアアート : 空気で膨らむ立体造形、イメージデッサン【実技、レポート(知識)、レポート(表現)、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】
27. エアアート : 空気で膨らむ立体造形、制作【実技、レポート(知識)、レポート(表現)、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】
28. 砂絵 : ライトボックスで砂で絵を描き、撮影する【実技、レポート(知識)、レポート(表現)、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】【ICT】
29. 砂絵 : 画像をデジタル保存、編集し発表する【実技、レポート(知識)、レポート(表現)、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】
30. 後期まとめスケッチブック提出

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回授業の関連作家のリサーチ、必要な画材等の準備をおこなうこと。(45分)

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみる。制作過程をスケッチブックにまとめる。(60分)

評価方法および評価の基準

主に講義内容の理解度により判断する。挑戦している演習態度も考慮に入れる。(意欲的取り組み40%、スケッチブックの内容60%) 総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。

推薦書については時に応じて適宜授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的に創造する楽しさを味わい、失敗を恐れず新しい表現にチャレンジしてみてください。

実技が中心となるので、作業しやすい服装を心がけてください。

基本的な用具等は、各自で調達・用意をお願いします。

友人との共同の活動や後片付けなど? の環境設定等に気を配りながら活動しましょう。

科目名	図書の文化		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング	KGf260		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

司書としての実務経験のある者が、近年の図書館活動や出版流通の傾向を踏まえながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：本科目は文芸文化学科専門選択科目と同時に、図書館司書課程選択科目でもあるため、全学科の学生（2年生以上）に開放されている。本科目では図書をはじめとする多様なメディアの形態、生産（印刷）、普及、流通の特徴について、現在との比較を通して、歴史的視点から理解する。さらに、メディアを活用した人々（読者）の目的や文化、メディアが所蔵（所有）される意味を検討しながら、国内外における図書館の歴史的発展を考える。

科目の概要：社会的記憶装置である図書館、著作者の思想や情報が表現された図書（書物）の歴史を概説する。具体的には、図書（書物）を中心とするメディアの生産（印刷）、普及、流通、利用の歴史を踏まえながら、国内外を含む図書館の歴史的発展と社会的役割について考える。とりわけ、図書（書物）を活用する場が形成されることにより、人々が集まる場が形成され、新たな活動へと展開した。図書（書物）と人との関わりを辿ることにより、図書（書物）と図書館の本質を考え、現代社会における図書の意義を探究する。なお本科目では、講義以外に、受講者同士のミニワークショップや、実習・制作を予定している。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、講義による解説を中心にしつつも、受講生同士のグループワークや制作、制作物の発表（共有）などを通して、図書の文化の理解を深める。【リアクションペーパー】【創作・制作】【グループワーク】

到達目標

- ・ 図書、メディアのと図書館の歴史について、読者の視点から歴史的連続性を説明することができる。
- ・ 社会的装置である「図書館」の成立と社会的背景について、説明することができる。
- ・ 身近な地域の図書館の歴史、記録メディアの創作とその価値を説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 他者・多文化の理解と受容、 - 3 文化比較、 - 3 価値観創造

内容

本科目は講義とともに、学生同士のミニグループワークや教員との双方向の質問などを取り入れ、学びを深める。特に課題を重視し、授業時に作品を共有し、自身の作品とを相対化する。

基本的に毎回の授業にてリアクションペーパーを使用する。

1	オリエンテーション：図書と図書館を歴史的視点から学ぶ意義
2	記録メディアの歴史（1）：現在の記録メディアから過去をみる
3	記録メディアの歴史（2）：紙以前の記録メディア、図書館の形態史

4	記録メディアの歴史（3）：大量印刷の時代，新聞・雑誌の歴史
5	記録メディアの歴史（4）：近代のマスメディア，メディアの多様化【グループワーク】
6	図書館の源流：古代・中世の図書館と文化
7	公共図書館の成立：近世・近代の図書館
8	日本図書館史（1）：前近代の図書館，近代図書館の誕生
9	日本図書館史（2）：戦時体制下・占領期の図書館
10	読書・読者史（1）：読書普及運動，PTA母親文庫【グループワーク】
11	読書・読者史（2）：『市民の図書館』と地域・家庭文庫運動
12	「記録」と「記憶」：記録をつくる意義・「現場」を視る【グループワーク】
13	地域の図書館史・読書運動史の調査【グループワーク】
14	創作・演習：文化をつくる「図書づくり」へ【創作・制作】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】推薦書や図書館所蔵図書から，図書・図書館の歴史の流れ（年表）を確認すること。（各授業に対して60分）

【事後学修】配布資料を再確認すること。同時に歴史に関する事典等から用語の意味を確認し，社会背景を理解すること。

図書や図書館の用語辞典を参照すること。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業中後の課題（40%），授業への参画・発表（10%），試験（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回，コメントペーパーを配布する。気づきや学んだことを整理すること。提出した課題は授業中にグループワーク等で活用する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。毎回授業でプリントを配布する。

【推薦書】下記以外は，授業中に提示する。

- ・奥泉和久『近代日本公共図書館年表』日本図書館協会，2009
- ・水越伸『21世紀メディア論』改訂版，放送大学教育振興会，2014
- ・石井桃子『新編子どもの図書館』岩波書店，2015
- ・和田敦彦『読書の歴史を問う：書物と読者の近代』笠間書院，2014
- ・樺山紘一『図説本の歴史』河出書房新社，2011

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

課題が多いのでしっかりと取り組むこと！ 作成した課題は，受講生のみなさんと共有します。

科目名	くらしと日本語		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGf261		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

アナウンサーとして放送番組の制作に携わってきた経験をいかし、放送制作の実態を伝えるとともに、メディアと個人がどのように関わればよいのか、メディアと社会生活の中でどのように日本語を使い、コミュニケーションをとっていくべきか、などについて考察していく。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間生活学部 文芸文化学科 専門選択科目 総合文化領域 選択科目の一科目である。

科目の概要

私たちはマスメディアによって世の中の情報を入手している。一方インターネットを活用することで、個人が情報発信者として世の中の動きに参加できる時代になっている。暮らしの中の日本語、とくに情報メディアで使われていることばに着目する。放送の仕事の内容や歴史、メディアを取り巻く環境の変化を学び、一人ひとりがどのようにメディアとか関われば良いのかを考えていく。

授業の方法 (ALを含む)

講義を行うだけでなく、グループ学習で学生同士が議論し学び合う。毎回のリアクションペーパーで振り返りを行う。

到達目標

自分の判断で放送やインターネットを上手に利用し情報社会と関わっていく姿勢が身につく。

放送などのメディアで使われていることばや内容を正しく評価できる。

暮らしの中の日本語に関心を持ち、場面や状況に応じて正しく運用できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、文芸文化学科の以下の資質・能力を育成することになる。

- 1 「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 3 「価値観創造」

内容

1	ガイダンス 情報メディアとことば
---	------------------

2	メディア・リテラシーについて
3	放送の歴史と放送博物館
4	放送は何を伝えてきたか～ドキュメンタリーを分析する
5	放送は何を伝えてきたか～テレビドラマを分析する
6	放送は何を伝えてきたか～生活情報番組を分析する
7	ディレクターの仕事とことば（ゲスト講師）
8	アナウンサーの仕事と日本語
9	放送関連の文化イベントについて
10	アーカイブス事業と戦争証言
11	インターネットのことば～情報発信者として
12	プレゼンテーションについて
13	プレゼンテーション
14	生活の中のことばとコミュニケーション
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】資料を読む。指定された番組を視聴して疑問点などをまとめる。所要時間は45分以上。

【事後学修】授業を振り返る。日ごろからメディアの日本語に興味を持って調べる。課題に取り組むなどで、約1時間。

評価方法および評価の基準

メディアと賢く関わる姿勢が身についているか、また番組などメディアに対して評価する能力が身についているか、社会人としてさまざまな状況の中で日本語を正しく運用できるか、日頃の授業への取り組み(30%)レポート(30%)期末レポート(40%)などから、総合的に判断する。総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【参考図書】授業で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

放送の番組もさまざまなプレゼンテーションも、人に何かを伝えるという意味で共通性がある。自分でじっくり考えて情報を取捨選択し、発信する姿勢を身につけることが大切である。そのために、授業中も受け身ではなく積極的に議論に参加する姿勢が望まれる。

課外授業や外部の講師を招く可能性もあるので、特に熱心な学生の参加を希望する。

科目名	データコレクション入門		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGf262		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

ワークショップ科目

ビジネススキルにもなる「プレゼンテーション技法」とマーケティングや様々な統計的分析をするための基本的な知識と、世の中のもの、ことを分析的に観るための基礎的な手法を学ぶ。

科目の概要

受講者各自の関心事をもとに収集、データ化、分析のステップを踏みながら、目に見えない法則や関係性を明らかにする方法を身につける。

授業の方法（ALを含む）

参与観察や密度の高い聞きとりなど狭義のフィールドワークと、サーベイの実施や資料の分析などを加え対話型の授業スタイルでおこなう。

到達目標

1. 問題解決のために統計的手法を用い、導き出したものを分かりやすくプレゼンテーションできるようになることを目標とする。
2. 統計パッケージSPSSを使ったことのない初心者レベルの習得も目標とする。
3. 学ぶための手法を身につける。
4. 自ら問いを立て、問題解決の手法の基礎を知る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 自己・自文化理解、客観的分析
- 1 情報収集・分析

内容

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。おすすめです。

1	オリエンテーション、「データコレクション」での学びの構え、型を学ぶ
2	見えないものが見えてくるとは

3	世の中の流行を可視化する
4	質問から導き出す
5	統計パッケージSPSSの使い方
6	データ分析の基礎
7	プレゼンテーションスキル1
8	プレゼンテーションスキル2
9	プレゼンテーションスキル3
10	関心事をプロジェクトに
11	調査票作成
12	データ分析の実際1
13	データ分析の実際2
14	プレゼン
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次の授業の前日までに事前課題を確認し指示に従うこと。

【事後学修】授業後48時間以内に指定のURLからリフレッシュシートにアクセスし登録すること。

(事前・事後ともに各回60分)

評価方法および評価の基準

Googleフォームでのリフレクションをポイント化(60%)、適宜行う課題の評価(30%)、最終テストの評価(10%)。振り返り...1~7ポイントポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation(1~3ポイント) 課題...3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しない、授業時に関連の本や資料を紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

座学による知識の享受だけでなく、Step by Stepで自律的な学びの姿勢を身につけ、学生同士の学び合いの機会を活かしながら成長していきましょう。

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけとなると良いですね。

科目名	比較文化論		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGf363		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は文芸文化学科の「専門選択科目」の「総合文化領域」の科目のひとつである。「学際的な基礎知識を主体的に身につける」、「学際的な専門知識を主体的に身につける」、「多様な文化を総合的に捉える」ことが求められる。また、本科目は中学校、高等学校教諭一種免許状（英語）の「教科に関する科目」の「異文化理解」の区分に属する科目でもある。

科目の概要

グローバル社会においては異なる文化をもつ人々への理解と尊重が必要となってきた。英語圏の文化の思考や様式に関する知識を身につけるとともに、英語による表現力への理解を深めていく。また、多文化社会の現状と課題にも触れながら自文化の持つ非常識・常識の概念を見つめなおし多様な文化を複眼的にとらえる力も養う。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、グループによる調査やディスカッションを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

到達目標

- （１）多文化社会における異文化コミュニケーションの現状、課題、問題点について理解し説明することができる
- （２）文化の多様性、異文化交流の意義について理解し述べるることができる
- （３）英語圏の歴史、文化、社会についての理解を深め表現することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 芸術・文化に関する知識
- 1 他者・他文化の理解と受容
- 2 自己・自文化の理解

内容

異文化（英語圏）の日常的な文化事象を取り上げながら、日本文化における類似の事象や日本人のとらえかたについて理解するとともに、その背景にある事情について考察していく。講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら学びを深める。

1	ガイダンス（授業の進め方、自己紹介など）
2	文化とは何か、比較文化とは何か【リアクションペーパー】
3	英語圏文化の特色【リアクションペーパー】
4	日本文化の特色【リアクションペーパー】
5	言語に表れる文化の差異（英語圏）【リアクションペーパー】

6	言語に表れる文化の差異（日本語）【リアクションペーパー】
7	異文化コミュニケーションにおける問題と課題【リアクションペーパー】
8	教育システムの比較【リアクションペーパー】
9	社会生活とマナーについての比較【リアクションペーパー】
10	宗教と年中行事【リアクションペーパー】
11	娯楽の比較（演劇、映画、伝統芸能）【リアクションペーパー】
12	芸術文化（日本ブーム、日本で人気の英文学作品）【リアクションペーパー】
13	世界から見た日本【リアクションペーパー】【討議・討論】
14	まとめ【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】
15	発表【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回

【事前準備】シラバスの内容を確認 [60分]

【事後学修】授業内で課題を提示 [60分]

2回～13回

【事前学修】各授業回で取り上げる作家や作品、キーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。 [60分]

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容をのみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点について調べまとめる。 [60分]

14回

【事前学修】すべての授業のふりかえりと復習。 [90分]

【事後学修】授業の総まとめの内容をA4用紙1-2枚にまとめる。 [90分]

15回

【事前学修】発表の準備。 [90分]

【事後学修】発表のふりかえりと今後の課題についてまとめる。 [90分]

評価方法および評価の基準

レポート課題40%、毎回のコメント20%とし、発表内容40%で総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．毎回のコメント（10% / 20%）、レポート課題（20% / 40%）

到達目標2．毎回のコメント（10% / 20%）、レポート課題（20% / 40%）

到達目標3．発表（40%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントすること。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業の3分の2以上の出席が必要となります。授業資料は各授業が終了した後で、授業の共有ファイルに格納しますので、欠席した場合は自分でプリントアウトして活用してください。

科目名	外国文化論 A		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGf364		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は「専門選択科目」の「総合文化領域」の科目のひとつである。「学際的な基礎知識を主体的に身につける」、「学際的な専門知識を主体的に身につける」、「多様な文化を総合的に捉える」ことが求められる。他文化に対する理解を深める『外国文化論B』、『比較文化論』、『比較文化研究』とも関連性がある。

科目の概要

欧米の文化が生み出し、育んだ思想や文化は世界経済・政治、日常生活における習慣、娯楽、芸術などに大きな影響を与えてきた。欧米諸国の歴史、民族、社会、教育、文化、習慣などに対して深く理解するとともに、その背景を学問的に探求し、グローバル化時代における地域文化のあり方について考察する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、グループによるディスカッションやペアワークなどを取り入れた授業を行う。
【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】【レポート(知識)】【レポート(表現)】

到達目標

- (1) 他者・他文化を理解し受け入れ自己・自文化と比較することができる
- (2) 多種多様な文化を読み解き説明することができる
- (3) 文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造し表現することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 芸術・文化に関する知識
- 1 他者・他文化の理解と受容
- 3 文化比較

内容

1	ガイダンス
2	宗教(神の存在)【リアクションペーパー】
3	宗教(悪の存在と大罪)【リアクションペーパー】
4	宗教(カトリック、プロテスタント、ユダヤ教など)【リアクションペーパー】【討議・討論】【グループワーク】
5	歴史(古代ローマ)【リアクションペーパー】

6	歴史（エリザベス女王）【リアクションペーパー】
7	歴史（教育、家庭教師）【リアクションペーパー】
8	歴史（コダヤ人狩り）【リアクションペーパー】
9	歴史（コスチューム）【リアクションペーパー】【討議・討論】【グループワーク】
10	社会（パブリックスクール、階級、人種差別）【リアクションペーパー】
11	社会（ドラッグや犯罪）【リアクションペーパー】
12	習慣（欧米人のしぐさ、儀式、行事、迷信）【リアクションペーパー】
13	理解度の確認【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
14	発表【プレゼンテーション】
15	総まとめ【レポート（知識）】【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回

【事前準備】シラバスの内容を確認 [60分]

【事後学修】授業内で課題を提示 [60分]

2回～14回

【事前学修】各授業回で取り上げるトピックや授業内で提示した課題について事前に調べA41枚にまとめる。 [60分]

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容をのみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点について調べまとめる。 [60分]

15回

【事前学修】すべての授業のふりかえりと復習。 [90分]

【事後学修】授業の総まとめの内容をA4用紙1-2枚にまとめる。 [90分]

評価方法および評価の基準

授業への参加度15%、毎回のリアクションペーパー15%、確認レポート30%、発表40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．確認レポート（15% / 30%）、発表（20% / 40%）

到達目標2．授業への参加度（15%）、毎回のリアクションペーパー（15%）

到達目標3．確認レポート（15% / 30%）、発表（20% / 40%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントすること。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	外国文化論 B		
担当教員名	福岡 賢昌		
ナンバリング	KGf365		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

海外ビジネス経験

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科選択科目の一つ。学位授与方針1.2.3に該当する。

科目の概要

様々な分野においてグローバル化が加速している。日本は今後、アジアの国々とどのような関係性を構築していくべきだろうか。アジアと言ってもそれぞれの特徴は大きく異なるため一括りにすべきではない。そこで、本講義では特に東南アジア諸国 (10 か国) を取り上げ、各国の文化、歴史等について確認する。また、東南アジア諸国連合 (ASEAN) 経済共同体 (AEC) が設立した今、日本は彼らとどのような関係を築いていったら良いのかについて深く考え、探求していく。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は、講義による解説を中心として、ディスカッションも取り入れた授業を行う。

【リアクションペーパー】 【討議・討論】 【ケースメソッド】

到達目標

- ・ ASEAN各国の歴史から文化的、社会的背景、課題等を理解し説明できること。
- ・ これまでの日本とASEANとの関係について理解し今後の展望を考察することができること。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

思考力・判断力・表現力における「 -1:他者・多文化の理解と受容」及び「 -3:文化比較」。

内容

講義とディスカッションを通して、東南アジア諸国についてグローバルな視点から理解する。

1	講義概要の説明
2	ASEANとは【リアクションペーパー】 【討議・討論】 【ケースメソッド】
3	インドネシア【リアクションペーパー】 【討議・討論】 【ケースメソッド】
4	カンボジア【リアクションペーパー】 【討議・討論】 【ケースメソッド】

5	シンガポール【リアクションペーパー】【討議・討論】【ケースメソッド】
6	タイ【リアクションペーパー】【討議・討論】【ケースメソッド】
7	フィリピン【リアクションペーパー】【討議・討論】【ケースメソッド】
8	講義前半の小括
9	ブルネイ【リアクションペーパー】【討議・討論】【ケースメソッド】
10	ベトナム【リアクションペーパー】【討議・討論】【ケースメソッド】
11	マレーシア【リアクションペーパー】【討議・討論】【ケースメソッド】
12	ミャンマー【リアクションペーパー】【討議・討論】【ケースメソッド】
13	ラオス【リアクションペーパー】【討議・討論】【ケースメソッド】
14	講義後半の小括
15	総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】翌週に扱うテーマについて、関連図書、インターネット等を確認し、自分なりに整理し、意見を考えること（各授業に対して60分）

【事後学修】講義内容の復習やアサインメント等によって各自で内容理解に努めること（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（発言等による貢献等）<20%>、リアクションペーパー<30%>、期末試験<50%>とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初にリアクションペーパー等に基づき前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教員が提示するハンドアウト

【推薦書】各教員より授業内で指示

【参考図書】各教員より授業内で指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

東南アジアの歴史等にふれながら、世界を大局的に見る視点を養って欲しい。

科目名	文化財研究		
担当教員名	新嶋 良恵		
ナンバリング	KGf466		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：文芸文化学科のDP2・3

人々の文化的な活動を通して文化財は創出されている。すなわち、文化財は保存し単に存在する文化的所産ではなく、文化財の存在は市民社会形成に寄与し、地域コミュニティにも貢献している。こうした視点を踏まえながら、文化財行政、文化財施策、文化財の定義、現状を理解し、文化財の意義を理解する。加えて、図書館、博物館・美術館、公文書館等の公共的役割とともに、文化財を共有し公共知とする意義をめぐる議論を把握し、事例を通して文化財の未来を考える。

科目の概要：

数多くのヒト・モノ・情報が集積された都市に焦点を当て、国の文化政策を踏まえながら、文化財と文化施設の公共的意義について考える。特に、保存という限られた視点ではなく、美術館や博物館、図書館、地域文化施設などによる文化財や貴重書等の利活用を通じた市民参画やコミュニティ創生の観点から、文化財を活かして都市文化を創り、地域社会の「広場」（文化財に基づく広場）を形成する事例を中心に概説し、都市と現代社会のあり方を考察する。

授業の方法（ALを含む）

基本的には講義形式だが、グループディスカッションなども行う。

到達目標

- ・文化財について、文化政策やアーツマネジメントの視点から理解できる。
- ・文化財の活用方法について具体的に提案することができる。
- ・歴史や知識保存の視角から、文化財を通して市民が創造するコミュニティの可能性を提案することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2、 - 1、 - 3

内容

講義を基本に、発表を含むアクティブな学習、ディスカッションをしながら進めていきます。

1	オリエンテーション：文化財と社会
2	文化財とは何か？：文化財の形成と主体、有形，無形，文化的景観，伝統的建造物群等
3	文化の継承と創造の場：既存メディアとニューメディア
4	文化と経済：文化資本
5	文化による地域再生：文化観光

6	文化施設（１）：博物館・美術館・図書館と知識
7	文化施設（２）：劇場と市民社会
8	文化と記憶：場の記憶にこだわるアート
9	文化の現場：興業としてのアート
10	文化政策の展開：文化行政と文化施策
11	日本のコンテンツ産業：クールジャパンとは何か？
12	海外のコンテンツ産業：韓国の文化政策
13	文化の多様性（１）：文化のグローバリズム
14	文化の多様性（２）：ナショナリズムとの対立
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のキーワードについて調べ、配布の用紙にまとめる。（60分）

【事後学修】配布したプリントの内容を再確認するとともに、推薦図書のうち該当箇所を参考に自分の考えや意見を整理すること。（60分）

評価方法および評価の基準

授業中後の課題（30%）、レポート課題（20%）、試験（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。到達目標3点について、課題では文章から、試験では設問を通して到達度を評価する。

【フィードバック】コメントペーパーと発表ピアレビュー表を配布する。気づきや学んだことを整理すること。提出した課題は授業中にグループワーク等で活用する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。

【推薦書】下記以外は授業中に提示する。

- ・野田邦弘『文化政策の展開：アーツ・マネジメントと創造都市』学芸出版社，2014
- ・平田オリザ『新しい広場をつくる：市民芸術概論綱要』岩波書店，2013
- ・なだいなだ『民族という名の宗教 人をまとめる原理・排除する原理』岩波新書，1992

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本文化研究		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGf467		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

なし

実務経験および科目との関連性

なし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本の文化・思想に関する専門選択科目の講義の一つです。

科目の概要

現在、「モノノケ」という言葉は、妖怪全般をさすものとしてよく使われていますが、日本の古代においては、神霊や精霊、妖怪、魔物などはひっくるめて「モノ」と呼ばれていました。万葉集では

「鬼」という漢字を「モノ」と訓じてもいます。こうした超自然的存在はときに「タタリ」というかたちで、人間に災厄をもたらしたり、霊異を体験させたりしました。古代の人々はそれを畏怖し、占いや祭祀などのさまざまな手段で交渉してきたのです。この授業では古代の神話・説話・史書などのなかにあられたそうした交渉を読み解き、「モノ」たちとともに生きた人々の精神構造をさぐります。

授業の方法 (ALを含む)

講義形式で行います。

到達目標

日本の古代における「もの」「もののけ」の諸相を把握し、それらを生み出した人々の精神構造を理解することが学修の目標です。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2芸術・文化に関する知識
- 3芸術・文化の特性と歴史に関する知識
- 2自己・自文化の理解

内容

- (1) もののけをめぐる文化現象
- (2) 神と妖怪
- (3) 古代の神霊観 タマ・カミ・モノ
- (4) ト占・託宣・夢 神霊世界との交信
- (5) オオモノヌシ 神婚幻想と巫女
- (6) 崇りなすアマテラス
- (7) 病気と鬼の気

- (8) 死者の霊と語り
- (9) 亀卜と怪異
- (10) 自然開発と祟り
- (11) 王権・神祇官・陰陽寮
- (12) 『今昔物語集』の霊鬼たち
- (13) 鬼に化す女たち
- (14) いざなぎ流 民俗社会の占いと祈祷
- (15) まとめ

講義の内容・順序は必要に応じて変更することがあります。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることがらを調べておいてください（各授業に対して60分）。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことがらを調べましょう（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

筆記試験(またはレポート) 7割、レポート・提出物など3割とし、総合評価60点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合、「再試験」を実施する予定です。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は指定しません。

参考文献：小松和彦『憑霊信仰論』（講談社学術文庫）、馬場あき子『鬼の研究』（ちくま文庫）、西郷信綱『古代人と夢』（平凡社ライブラリー）、斎藤英喜『いざなぎ流 祭文と儀礼』（法蔵館）、岡部隆志ほか『シャーマニズムの文化学』（森話社）など。その他参考文献は授業中随時紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	比較文化研究		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGf468		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

比較文化を学問として行うにあたりつきあたる問題について考えていく科目です。比較文化の方法ではなく、「比較文化」の原理や前提について批判的に学んでいきます。

科目の概要

歴史作家の司馬遼太郎と日本文学者ドナルド・キーンによる「日本人のモラル」に関する対談記事を精読しながら、日本人と日本文化の特色を考察していきます。

テキストの内容を共同で要約することを通して、知識だけでなく、思考力と文章作成力をあわせて磨いていきます。

授業の方法（ALを含む）

テキストの内容について、受講生自らが語彙調べと要約作業を行ったうえで、問題とするべきことがらをさがしていきます。
【課題発見】【討議】

到達目標

1. 多文化共生社会の思考について知る。
2. 複数の異なる価値観のせめぎあいに触れて、それを受け入れられるようになる。
3. 自らの文化について自覚的になる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

内容

1	司馬遼太郎とドナルド・キーンについて
2	「日本人の合理主義」考察
3	「日本人の合理主義」まとめ作成
4	「日本人と儒教」読解、考察
5	「日本人と儒教」まとめ作成
6	「『恥』ということ」読解、考察
7	「『恥』ということ」まとめ作成
8	「他力本願」読解、考察
9	「他力本願」まとめ作成
10	「風流ということ」読解、考察
11	「風流ということ」まとめ作成
12	「英雄のいない国」読解、考察
13	「英雄のいない国」まとめ作成
14	「再び日本の儒教について」～「原初的な神道」読解
15	「再び日本の儒教について」～「原初的な神道」考察

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【授業前】授業で取り上げる予定範囲の文章につき、分からない語彙をノートに抜き出して調べておく。（各授業に対して60分）

【授業後】授業で取りあげられた事項につき、特に関心をもったものを1つ選び、インターネットなどを利用しながら、ノートにまとめておく。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

毎時のリアクションペーパー（50%）と課題への取り組み（50%）。合計60%以上を合格とします。

【フィードバック】

リアクションペーパーのいくつかについては、次の授業時にコメントする。課題については授業内でコメント及びサジェスチョンする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】司馬遼太郎『日本文明のかたち（司馬遼太郎対話選集5）』文春文庫、ISBN4-16-766325-2

【推薦書】木村凌二『教養としての「世界史」の読み方』PHP、ISBN978-4-569-83194-7

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	テーマで触れる芸術		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング	KGf369		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

美術館で日本美術担当の学芸員として勤務経験を有する教員が、日本美術について講義する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本美術作品を中心に、素材・技法やジャンルといった個別のテーマからアプローチする。美術作品をかたち（造形）の美しさという観点からのみではなく、美術と文学など隣接する芸術諸分野との関連から掘り下げ、広い視野に立って芸術を批評する美的感性を養う。

科目の概要

毎時間一つのテーマを設定して、そのテーマに沿った作品を比較検討する。また、授業時に開催中で実際に見学可能な展示会のテーマに関する情報も適宜取りあげ、見学会を実施する場合もある。

授業の方法 (ALを含む)

授業時間の前半で取りあげたテーマに関する美術史学上の意義や研究史を講義し、後半ではスライド投影した作品を分析して批評的に読み解く。

また、適宜見学会も実施し、実際の美術作品を鑑賞することで学修を深める。

到達目標

各技法やジャンルの中に時代を超えて共通する要素があることを理解できる。学生自身が自分なりの切り口のある問題意識を持って芸術を分析できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-2芸術文化に関する幅広い知識を身につけている。 -3日本の芸術文化の特性および歴史に関する知識を身につけている。 -4芸術文化に関する基礎的な表現能力を身につけている。

内容

この授業は講義を基本に、見学会、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めてゆく。

1	イントロダクション
2	仏像
3	蒔絵
4	書

5	茶道美術
6	学外見学会
7	物語絵
8	縁起絵
9	肖像画
10	風俗画
11	学外見学会
12	花鳥画
13	山水画
14	文人画
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の授業で扱うトピックの作品を画集等で確認しておくほか、機会があれば美術館になるべく足を運んで実作品を鑑賞する（各授業に対して60分）。

【事後学修】ノートを見返して、わからないことは調べておく。また、関心をもった事項については、書籍などで理解を深める（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、授業内レポート20%、筆記試験60%（各技法やジャンルの中に時代を超えて共通する要素があることを理解できる20%、学生自身が自分なりの切り口のある問題意識を持って芸術を分析できる40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の冒頭で、前回授業のリアクションペーパーの質疑やコメントを取りあげて全員で共有し、回答・詳説することで理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない

【推薦書】授業内で指示する

【参考図書】『教養の日本美術史』ミネルヴァ書房、2019年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	テーマで読む文学		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGf370		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は「専門選択科目」の「総合文化領域」の科目のひとつである。「学際的な基礎知識を主体的に身につける」、「学際的な専門知識を主体的に身につける」、「多様な文化を総合的に捉える」ことが求められる。海外文学作品を通して、芸術や文化を多角的な視点からとらえる力を養う『海外文学の名作』、『ディズニー研究』とも関連性がある。

科目の概要

ファンタジー的要素の濃い文学作品を習慣、風俗、伝統、歴史、宗教、思想、言語、民族意識などの観点から多角的に概観し、ファンタジー文学の特質を深く理解するとともに、人間とは何か、自己とは何か、生きるとは何かという時代を超えた人生のテーマが描かれた「ファンタジー文学」の品質を見極める視点を養う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、グループによるディスカッションやペアワークを取り入れた授業を行います。

【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】【レポート (表現)】【レポート (知識)】

到達目標

- (1) ファンタジー作品の鑑賞、批評する方法を身につけ説明することができる
- (2) 新たな時代の創生を描く「ファンタジー文学」の効用について自分の考えを述べることができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 芸術・文化に関する知識
- 4 芸術・文化に関する表現能力
- 3 文化比較

内容

1	ガイダンス
2	ファンタジー作品の定義、意義—なぜファンタジーなのか【リアクションペーパー】
3	ファンタジーの歴史と伝統—ファンタジーの前提となっているもの【リアクションペーパー】
4	ファンタジー作品の特徴—子どもの本の動物たち【リアクションペーパー】
5	児童文学とファンタジーについて【リアクションペーパー】
6	現代のファンタジーの特徴【リアクションペーパー】
7	ファンタジーとアニメーション【リアクションペーパー】
8	作品鑑賞とディスカッション『ハリー・ポッター (1)』【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討

	論】
9	作品鑑賞とディスカッション『ハリー・ポッター（2）』【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
10	作品鑑賞とディスカッション『ハリー・ポッター（3）』【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
11	作品鑑賞とディスカッション『指輪物語（1）』【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
12	作品鑑賞とディスカッション『指輪物語（2）』【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
13	作品鑑賞とディスカッション『指輪物語（3）』【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
14	総まとめ【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
15	理解度の確認【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回

【事前準備】シラバスの内容を確認 [60分]

【事後学修】授業内で課題を提示 [60分]

2回～14回

【事前学修】各授業回で取り上げる作家や作品、キーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。 [60分]

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容をのみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点について調べまとめる。 [60分]

15回

【事前学修】すべての授業のふりかえりと復習。 [90分]

【事後学修】授業の総まとめの内容をA4用紙1-2枚にまとめる。 [90分]

評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、毎回のリアクションペーパー20%、確認レポート60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．授業への参加度（10% / 20%）、リアクションペーパー（10% / 20%）、確認レポート（30% / 60%）

到達目標2．授業への参加度（10% / 20%）、リアクションペーパー（10% / 20%）、確認レポート（30% / 60%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントすること。

科目名	神話・伝承学		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGf371		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

なし

実務経験および科目との関連性

なし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本文学・日本文化に関する専門選択科目の講義の一つです。

科目の概要

神話・伝承って、どんなイメージでしょうか？ 面白い、でも荒唐無稽で、実際にはあり得ないお話？ モノガタリする存在である人間は、神話や伝承によって、世界と自分たちの関係を理解し、調整しながら生きてきたのです。『古事記』『風土記』などの神話やさまざまな伝説・昔話、寺社縁起などを読み、その独自の表現や想像力の働き方を理解し、神話や伝承を生み出した人々の精神世界を探求します。

授業の方法（ALを含む）

講義形式で行います。

到達目標

神話や伝承の表現の特性や、それを生み出した人々の精神世界を理解できるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3芸術・文化の特性と歴史に関する知識
- 1他者・多文化の理解と受容
- 3文化比較

内容

- (1) 神話・伝承学とは何か
- (2) 神話・伝説・昔話
- (3) 環境と怪異の語り
- (4) 神話と対称性
- (5) 異類婚姻譚について
- (6) 世界のはじまりの物語
- (7) 死の起源譚について
- (8) 食物起源譚について
- (9) 異界訪問譚について
- (10) 英雄と怪物について

- (1 1) 貴種流離譚について
- (1 2) 神仏習合と神話
- (1 3) ファンタジーと神話
- (1 4) 映画・アニメと神話
- (1 5) まとめと確認

講義の内容や順序は必要に応じて変更することがあります。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることがらを調べておいてください（各授業に対して60分）。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことがらを調べましょう（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

試験またはレポート70%，授業内での提出物・小レポートなど30%の割合です。総合評価60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】斎藤英喜編『神話・伝承学への招待』思文閣出版

【参考書】斎藤英喜・武田比呂男・猪股ときわ編『躍動する日本神話』森話社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	笑いの文化		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGf272		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は「専門選択科目」の「総合文化領域」の科目のひとつである。「学際的な基礎知識を主体的に身につける」、「学際的な専門知識を主体的に身につける」、「多様な文化を総合的に捉える」ことが求められる。多様な芸術や文化をあらゆる視点から理解、考察できるようになるための『外国文化論B』、『比較文化論』、『比較文化研究』とも関連性がある。

科目の概要

現在、社会人としてユーモアの感性を身につけ笑いを生み出せる人間は、潤滑な人間関係を築けるとして、非常に重要視されている。様々なジャンル、地域、文化の笑い・ユーモアに触れ、その構造、特徴、社会的役割について分析し、笑い・ユーモアを通して文化や言語の差異からくる異文化理解の難しさについて考察する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、グループによるディスカッションやペアワークを織り交ぜながら授業を進めていきます。【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【レポート(表現)】

到達目標

- (1) ユーモアや笑いを軸に、自文化と異文化を相対的にとらえられる知識を身につけ説明することができる
- (2) 芸術や文化における笑いやユーモアのセンスについて文章で表現することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 芸術・文化に関する知識
- 4 芸術・文化に関する表現能力
- 3 文化比較

内容

1	ガイダンス
2	笑いとうーモアの違い 【リアクションペーパー】
3	笑いの社会的役割(1) 【リアクションペーパー】
4	笑いの社会的役割(2) 【リアクションペーパー】
5	作る笑い「パラドックス」：イギリスのパラドックス劇、諺【リアクションペーパー】
6	作る笑い「ファラシー」：ごまかしの含んだ落語、ハンプティダンプティ【リアクションペーパー】
7	作る笑い「詭弁」：ジョーク、冗談【リアクションペーパー】
8	作る笑い「ナンセンス」：『不思議の国のアリス』のことば遊びと歪んだ論理【リアクションペーパー】【討議・討

	論】【グループワーク】
9	人を攻撃する??笑い「ウィットと諷刺」：名言や名句【リアクションペーパー】
10	人を攻撃する??笑い「ウィット」：『ヴェニス商人』におけるウィット【リアクションペーパー】
11	人を傷つける??笑い「諷刺」：日常対話、古典文学の中から【リアクションペーパー】
12	人を和ませる笑い：日常生活、SNS、イギリス現代TVドラマ【リアクションペーパー】
13	笑いを受け取り手との関係【リアクションペーパー】
14	総まとめ【リアクションペーパー】【討議・討論】【グループワーク】
15	理解度の確認【レポート（知識）】【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回

【事前準備】シラバスの内容を確認 [60分]

【事後学修】授業内で課題を提示 [60分]

2回～14回

【事前学修】各授業回で取り上げるトピックやキーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。 [60分]

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容をのみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点について調べまとめる。 [60分]

15回

【事前学修】すべての授業のふりかえりと復習。 [90分]

【事後学修】授業の総まとめの内容をA4用紙1-2枚にまとめる。 [90分]

評価方法および評価の基準

授業への参加度15%、毎回のリアクションペーパー15%、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．授業への参加度（15%）、レポート（35%/70%）

到達目標2．リアクションペーパー（15%）、レポート（35%/70%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントすること。

科目名	マンガ・アニメ文化論		
担当教員名			
ナンバリング	KGf273		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は学科ディプロマポリシー 1、2、3 に該当する。マンガ、アニメ、映画に関心のある学生向けの内容である。手塚治虫を軸とした国内外の文脈について研究を行う

科目の概要

手塚治虫を軸としたマンガ、アニメ等の国内外の文脈について研究を行う

授業の方法 (ALを含む) 毎回のリアクションペーパー。最終課題にてプレゼンテーションを行う。

到達目標

- ・ 授業の内容を、自分の言葉で、まとめる事ができる。
- ・ テーマに沿った、リサーチをする事ができる。
- ・ 最終発表会で研究発表を行う事ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1-2, 1-3, 2-3 芸術文化に関する知識、芸術文化の特性と歴史に関する知識、文化比較

内容

1	ガイダンス
2	世界の短編アニメーション
3	日本の短編アニメーション
4	ディズニーアニメーション 1
5	ディズニーアニメーション 2

6	ディズニーアニメーション3
7	ピクサーアニメーション トイストーリー モンスターズインク カーズ 他
8	日本アニメ・マンガ史1 手塚治虫 他
9	日本アニメ・マンガ史2 赤塚不二夫 他
10	日本アニメ・マンガ史3 スポ根マンガ 魔法少女 他
11	日本アニメ・マンガ史4 現代のアニメとマンガ
12	最終研究発表会
13	最終研究発表会
14	最終研究発表会
15	最終研究発表会 総評

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業のテーマに対して、リサーチを行い予習を行う。90分

【事後学修】授業の内容に対して、リサーチを行い自分の言葉でまとめる。90分

評価方法および評価の基準

平常点(最大30点)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

最終課題(最大50点)：理解度・完成度を評価する。

コメントシート(最大20点)：課題の意図をしっかりと理解しているかを評価する。

フィードバック・課題に対して、全体にコメントします・最終課題に対して、個別にコメントします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【推薦書】授業内で提示

【参考図書】授業内で提示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ディズニー研究		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	KGf274		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

なし

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間生活学部、文芸文化学科の専門選択科目 (総合文化領域) です。

科目の概要

ディズニーの映画作品と原作を比較し、その違いを探ります。また、それぞれの作品に取り上げられたヒロインの特徴を捉え、それが作られた時代の背景とどのようにつながっているのかを探ります。研究の手法を学んだあと、履修生には研究発表を行ってもらうため、積極的に学び、調べ、研究活動に取り組む姿勢が求められます。

授業の方法 (ALを含む)

授業の回により活動の内容が異なるので、詳しくは各回の内容を参照。コースの前半では、各回の授業前半で、資料の読み方、鑑賞の仕方のポイントについて解説を受けた後、実際に資料を読み、あらすじやアウトラインをまとめる作業に入る。授業内で終わることは不可能なため、大部分は次回までの課題となる。次の授業の冒頭に課題でまとめた資料の内容のディスカッションを行う。コース後半は、学生による担当作品についてのリサーチの進捗状況報告、プレゼンテーションを行う。発表を聞いている学生は評価シートに記入し、発表後にコメントを述べる。【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

1. ディズニー映画とその原作の違い、その意図を知る
2. 作品が作られた時代背景と映画のヒロイン像のつながりを理解する
3. 文化研究の方法を学び自ら実践できるようになる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 芸術・文化に関する知識
- 3 文化比較
- 3 価値観創造

内容

(注意) この科目は研究発表を行うため、履修希望者の数によっては履修制限をかける可能性があります。

ディズニー映画とその原作を比較し、変更の意図を探る。また、作品が生まれた時代背景との関連について考える。最初の数回の講義で研究の方法を紹介後、履修生自身が、リサーチ・研究発表を行う。(履修人数によっては、グループでの研究、発表となる可能性があります。)

1	ガイダンス・ Disney研究とは
2	論文の読み方
3	『シンデレラ』 - 原作を読む
4	『シンデレラ』 - 映画と原作

5	文献の探し方
6	研究発表準備 グループ分け・テーマ選択・分担決め
7	研究発表準備 グループ活動及び進捗報告
8	研究発表準備 グループ活動及び進捗報告
9	研究発表準備 グループ活動及び進捗報告
10	研究発表準備 グループ活動及び進捗報告
11	研究発表 『アラジン』（仮）
12	研究発表 『ポカホンタス』（仮）
13	研究発表 『塔の上のラプンツェル』（仮）
14	レポート報告会
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 テーマとなる映画作品を事前に見ておくこと（2時間） 担当する発表の準備（受講期間中計30時間程度）

【事後学修】 講義、発表のポイントをノートにまとめる（1時間程度） 論文のアウトライン作成、物語作品あらすじのまとめ（受講期間中数回 1課題につき4時間程度）

評価方法および評価の基準

発表30点 レポート30点 その他の課題20点 平常点20点とし、総合評価60点以上を合格とする。到達目標1～3（下記）について、～を下記のように配分する。

1. ディズニー映画とその原作の違い、その意図を知る。（発表10%・レポート10%・平常点5点）
2. 作品が作成された背景と映画のヒロイン像のつながりを理解する。（発表10%・レポート10%・平常点5点）
3. 文化研究の方法を学び自ら実践できるようになる。（発表10%・レポート10%・その他課題20%・平常点10点）

提出課題は、評価、コメントをつけ返却する。学生の各発表については、教員、受講者ともに授業中にコメントする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指示する

【推薦書】授業内で紹介

【参考図書】授業内で紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

「ディズニーが好き」は活動を行う上での大きなモチベーションにはなるとは思いますが、大学の科目としての研究では、作品を鑑賞するほかにも、論文、書籍などを使用しての学習が不可欠です。履修期間中は、課題として論文のアウトライン、原作のあらすじのまとめなどが課題として出されるほか、研究発表やレポートのために多くの学習時間が必要となりますが、やり遂げれば達成感も大きいでしょう。

科目名	多元文化論		
担当教員名	新嶋 良恵		
ナンバリング	KGf375		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

異文化理解分野の専門選択科目

科目の概要

「移民国家」と呼ばれるアメリカにおいて文化の多元性や多文化性は根幹をなしている。本講義では、移民を受け入れ国民統合しようとする力と、排斥しようとする力のせめぎ合いをその歴史から読み解いていく。歴史、移民、公民権運動、日系アメリカ人、教育、司法制度など、多岐に渡るトピックから影響を受けた映像資料を使い、様々な背景を持つ人々が暮らす米国の歴史と現状を理解していく。

授業の方法 (ALを含む)

授業は講義が中心ですが、映像資料も交えて進めます。資料を読んだり、グループ・ディスカッションをしたりする時間も設けます。

到達目標

1. 現在のアメリカを形成する人々の姿を歴史的経緯のなかで振り返ることができる。
2. アメリカ社会の現状を理解すること目的とする。
3. 歴史を踏まえてうえで今後について分析をすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1、 - 2、 - 3

内容

北米、特にアメリカ合衆国は、現在の日本にとっては最も関わりの深い国と言えます。この講義では、この国の歴史、そこに住む人々、社会、文化、習慣など様々な側面について、日本との関係にも目を向けながら理解を深めたいと思います。

1	講義概要の説明
2	自由民権運動
3	移民
4	日系アメリカ人の歴史
5	アメリカの宗教
6	アメリカの保守
7	アメリカのリベラル

8	公民権運動 1 反戦運動
9	公民権運動 2 人種差別
10	公民権運動 3 アファーマティブ・アクション
11	ジェンダー 1 理想的な家族像
12	ジェンダー 2 ゲイバッシング
13	ウーマン・リヴ
14	アメリカの福祉政策
15	総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】翌週に扱うテーマについて、関連図書、インターネット等を確認し、自分なりに整理し、意見を考えること（各授業に対して60分）

【事後学修】講義内容の復習やアサインメント等によって各自で内容理解に努めること（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

小テストを含む授業内課題（40点）、期末レポート（60点）で、総合評価60点以上を合格とします。

到達目標3点について、課題では文章から、試験では設問を通して到達度を評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教員が提示するハンドアウト。

【推薦書】各教員より授業内で指示。

【参考図書】各教員より授業内で指示。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	外国語としての日本語入門		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	KGf376		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、文芸文化学科の専門選択科目です。

多文化共生、異文化間コミュニケーションに関する基礎的な内容を学びます。

異なる文化的背景を持つ人々とお互いに認め合いながら理解し合う方法について考えることを通じて、自己・自文化を見つめ直し、他者・他文化を深く理解する視点を身に付けます。

科目の概要

近年、日本に住む外国人の数は増加し、コンビニや飲食店の店員として、学校のクラスメイトとして、地域の隣人として、文化的背景が異なる人とともに暮らしていくことが日常になりました。異なる文化的背景を持つ人々がお互いを理解し、尊重しあいながらともによりよい社会を作り上げていくにはどうすればいいのでしょうか。

本科目では、「外国語としての日本語」という視点から、日本語による相互理解のためのコミュニケーションについて考えます。

まず、日本における多文化共生の現状と、取り組みを紹介し、それを踏まえて自分の考えをまとめたり、グループで課題への解決法をディスカッションしたりします。また、異なる文化的背景を持つ人とのコミュニケーションについて、事例を挙げながら、どのようにすれば互いに理解し合い、伝え合うことができるのかをグループで考えます。

授業の方法 (ALを含む)

講義による事例紹介をもとに、グループでのディスカッションなどを行う。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】

到達目標

1. 多文化共生についての知識を深め、日本社会の現状と課題を理解し、解決策について自分の考えを持つ。
2. 自分と異なる文化的背景を持つ人とお互いに理解しあい、意思疎通するための方法についての知識を深め、身近なところから実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1日本語運用力・語彙力・文字知識、 -3比較文化的考察

内容

1	オリエンテーション
2	多文化共生社会とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	多文化共生社会への取り組み【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
4	異なりを考える1 「人」ってだれのこと？【リアクションペーパー】【グループワーク】
5	異なりを考える1 郷に入っては郷に従え？ 【リアクションペーパー】【グループワーク】
6	異文化摩擦が起きるとき【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	異文化理解とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	コミュニケーションスタイルを決めるもの【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(表現)】
9	言語コミュニケーション1 褒める・謝る【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	言語コミュニケーション2 断る・自己紹介【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	非言語コミュニケーション1 表情・アイコンタクト【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	非言語コミュニケーション2 ジェスチャー・しぐさ【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	異文化コミュニケーションスキル【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	言語の平等性【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
15	まとめ【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書や授業使用パワーポイントデータ、配布した資料に目を通し、そこで出たキーワードについて調べ、A4 1枚以内にまとめる。(各授業に対して45分程度)

【事後学修】授業内容について振り返り、気づいたことや疑問に思ったことをまとめる。授業に関連する事柄を新聞や参考図書などで調べ、まとめる。あわせてA4 1枚程度。(各授業に対して45分程度)

評価方法および評価の基準

授業への参加度、取り組み：10%、毎回のリアクションペーパー：30%、適宜課す課題：60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題は、コメントを記載し、翌週以降の授業で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】八代京子・世良時子「日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル」(三修社)2,200円+税
その他、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするか、ノートパソコンやタブレットを持参すること。

【推薦書】授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	多文化共生ワークショップ		
担当教員名	松永 修一、新嶋 良恵、山下 悠貴乃		
ナンバリング	KGf277		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

ワークショップ科目

座学だけではなく、他者・多文化理解、共感的分析、多様性の理解、協働の技法を体験を通して学ぶ。

科目の概要

多様性の理解、協働の必要性、自己・自文化理解を、留学生と一緒に学ぶことによって客観的分析、メタ認知能力をのぼす。協働を通して、他者・多文化の理解、共感力の向上の機会を自分たちで創りだす。

授業の方法（ALを含む）

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。おすすめです。

国際学生（留学生）と共にそれぞれの関心事に沿った調査・研究活動を行うものである。

参与観察や密度の高い聞きとりなど狭義のフィールドワークと、サーベイの実施や資料の分析などを加えた広義のフィールドワークを行う。

到達目標

フィールドワークを通じた協働体験による気づきを中心とした学びを期待する。

相互承認の理解と、自己・自文化理解、他者・多文化理解を深めることを目標とする。

また、フィールドワークでの体験や実感に根ざしたアイデアを言語化しoutputできる能力向上も目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

内容

1	ガイダンス インストラクション 学びの型を学ぶ
2	アイスブレイク お互いを知る
3	身の回りの多文化・異文化を考える 異文化間能力とは
4	Finding Common Ground プロジェクト1
5	Finding Common Ground プロジェクト2
6	Finding Common Ground プレゼン&フォードバック
7	Finding Common Ground プロジェクト3
8	中間リフレクション
9	多文化協働プロジェクト 企画立案
10	多文化協働プロジェクト プラン発表準備
11	多文化協働プロジェクト 発表
12	自由について考える
13	自由の相互承認とは
14	これからのアクションを考える
15	総リフレクション

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次の授業の前日までに事前課題を確認し指示に従うこと。

【事後学修】授業後48時間以内に指定のURLからリフレクションシートにアクセスし登録すること。

(事前・事後ともに各回60分)

評価方法および評価の基準

Googleフォームでのリフレクションをポイント化(60%)、適宜行う課題の評価(30%)、最終テストの評価(10%)。振り返り...1~7ポイントポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation 1~3ポイント) 課題...3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業中に紹介予定

【推薦書】坂本利子編 (2017)『多文化間共修』 学文社

【参考図書】授業中に紹介予定

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

座学による知識の享受だけでなく、Step by Stepで自律的な学びの姿勢を身につけ、学生同士の学び合いの機会を活かしながら成長していきましょう。

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけとなると良いですね。

科目名	日本語教育概論		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	KGf178		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

国内の日本語教育機関で海外の日本語教師に対する日本語教師研修に携わった経験を持つ教員が担当し、日本語を外国語としての視点から考える様々なワークを取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、日本語教員養成課程の必修科目である。本課程において入門的な役割を果たし、日本語教育の対象者や教師の役割、教える内容など、日本語教育に関する幅広い基礎知識を確実にするための科目として位置づけられる。

科目の概要

本科目では、国内外の日本語教育について、どのような場でどのような学習者が何を目的に日本語を学んでいるのか(日本語教育の現状)や、だれがだれに対して、何をどのように教えるのか(日本語教育の方法)に関する基礎的な知識と、日本語教育の実践的な力の基礎を養う。

授業の方法（ALを含む）

講義と、その内容を踏まえたグループワークなどを行う。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】

到達目標

1. 日本語教育に関する基礎的な内容を理解する。
2. 各テーマについて、自身の体験と照らし合わせながら自分で考え、自分なりの考えを出すことができる。
3. 他者と協働して課題を解決することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

内容

1	オリエンテーション
2	だれのための日本語教育？（1）国内における日本語教育 【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	だれのための日本語教育？（2）海外における日本語教育 【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	外国語を学ぶことの意味 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
5	日本語教育と国語教育の接点 【リアクションペーパー】【グループワーク】

6	第二言語習得論 【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	日本語教育文法（１）日本語教育文法と学校文法 【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	日本語教育文法（２）文法の内容、配列 【リアクションペーパー】【グループワーク】
9	日本語を外から見る（１）文字・表記 【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	日本語を外から見る（２）語彙・意味 【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	日本語を外から見る（３）談話 【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	日本語教師の役割・資質 【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	コミュニケーションのための日本語学習活動 【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	日本語教育スタンダード 【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	まとめ 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業使用パワーポイントデータや配布した資料に目を通し、そこで出たキーワードについて調べ、A41枚以内にまとめる。（各授業に対して45分程度）

【事後学修】授業内容について振り返り、気づいたことや疑問に思ったことをまとめる。授業に関連する事柄を新聞や参考図書などで調べ、まとめる。あわせてA41枚程度。（各授業に対して45分程度）

評価方法および評価の基準

到達目標1

授業への参加度、取り組み：0/10%、毎回のリアクションペーパー：10/30%、適宜課す課題：20/60%

到達目標2

授業への参加度、取り組み：5/10%、毎回のリアクションペーパー：10/30%、適宜課す課題：20/60%

到達目標3

授業への参加度、取り組み：5/10%、毎回のリアクションペーパー：10/30%、適宜課す課題：20/60%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題は、コメントを記載し、翌週以降の授業で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするか、ノートパソコンやタブレットを持参すること。

【推薦書】授業中に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進め、卒業論文を完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、各自がそれぞれの研究テーマの課題解決に取り組み、卒業論文を執筆、完成させる。その過程において、ゼミグループ内でのディスカッションを行い、完成した卒業研究のプレゼンテーションを実施する。【PBL】【討議・討論】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1)研究課題に対する目的と方法を定め、調査・考察した内容を説明することができる。
- (2)論理的思考に基づいて研究対象を批判・評価し、自分の意見を述べることができる。
- (3)自らの研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3文化比較、 -2課題発見・考察、 -3価値観創造

内容

本科目の授業は、グループ指導と個別指導によって実施するが、授業時間以外における各自の主体的な研究活動が重要である。

研究課題に対する取り組みの過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- (1)先行研究の課題を追究し、自分の研究課題を決定する。【PBL】
- (2)研究課題に対する目的と研究方法を定める。【PBL】
- (3)研究課題に応じた資料収集や実地調査を行う。【PBL】【実地調査】
- (4)研究文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。【PBL】

- (5)研究結果とそれに至る経緯を論理的にまとめる。【PBL】
- (6)以上を文章化し、卒業論文を執筆する。【論文】
- (7)研究成果をプレゼンテーションする。【プレゼンテーション】

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定している。

7月末に中間報告、1月末に卒業研究発表会を開催予定である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

本科目は、論文完成に向けて、数カ月単位で学習時間を確保していく必要があるため、各授業に対する学習時間の設定は難しい。

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。課題解決に至る考察を進める。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表、最終発表等を目指して継続的に各自で学習を進める）

【事後学習】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文執筆を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学習を進める）

評価方法および評価の基準

論文70%（提出された論文の審査結果）、平常点30%（論文作成過程における取り組み状況、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表）をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標(1)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(2)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(3)論文(30/70)、平常点(10/30)

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別指導時に質疑応答を行う。また、執筆中の論文に対して、適宜コメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は、担当教員ごとに個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

文芸文化学科の学びの総まとめです。自分のオリジナルな研究を完成させましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進め、卒業論文を完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、各自がそれぞれの研究テーマの課題解決に取り組み、卒業論文を執筆、完成させる。その過程において、ゼミグループ内でのディスカッションを行い、完成した卒業研究のプレゼンテーションを実施する。【PBL】【討議・討論】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1)研究課題に対する目的と方法を定め、調査・考察した内容を説明することができる。
- (2)論理的思考に基づいて研究対象を批判・評価し、自分の意見を述べるすることができる。
- (3)自らの研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3文化比較、 -2課題発見・考察、 -3価値観創造

内容

本科目の授業は、グループ指導と個別指導によって実施するが、授業時間以外における各自の主体的な研究活動が重要である。

研究課題に対する取り組みの過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- (1)先行研究の課題を追究し、自分の研究課題を決定する。【PBL】
- (2)研究課題に対する目的と研究方法を定める。【PBL】
- (3)研究課題に応じた資料収集や実地調査を行う。【PBL】【実地調査】
- (4)研究文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。【PBL】

- (5)研究結果とそれに至る経緯を論理的にまとめる。【PBL】
- (6)以上を文章化し、卒業論文を執筆する。【論文】
- (7)研究成果をプレゼンテーションする。【プレゼンテーション】

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定している。

7月末に中間報告、1月末に卒業研究発表会を開催予定である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

本科目は、論文完成に向けて、数カ月単位で学習時間を確保していく必要があるため、各授業に対する学習時間の設定は難しい。

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。課題解決に至る考察を進める。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表、最終発表等を目指して継続的に各自で学習を進める）

【事後学習】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文執筆を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学習を進める）

評価方法および評価の基準

論文70%（提出された論文の審査結果）、平常点30%（論文作成過程における取り組み状況、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表）をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標(1)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(2)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(3)論文(30/70)、平常点(10/30)

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別指導時に質疑応答を行う。また、執筆中の論文に対して、適宜コメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は、担当教員ごとに個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

文芸文化学科の学びの総まとめです。自分のオリジナルな研究を完成させましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進め、卒業論文を完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、各自がそれぞれの研究テーマの課題解決に取り組み、卒業論文を執筆、完成させる。その過程において、ゼミグループ内でのディスカッションを行い、完成した卒業研究のプレゼンテーションを実施する。【PBL】【討議・討論】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1)研究課題に対する目的と方法を定め、調査・考察した内容を説明することができる。
- (2)論理的思考に基づいて研究対象を批判・評価し、自分の意見を述べることができる。
- (3)自らの研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3文化比較、 -2課題発見・考察、 -3価値観創造

内容

本科目の授業は、グループ指導と個別指導によって実施するが、授業時間以外における各自の主体的な研究活動が重要である。

研究課題に対する取り組みの過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- (1)先行研究の課題を追究し、自分の研究課題を決定する。【PBL】
- (2)研究課題に対する目的と研究方法を定める。【PBL】
- (3)研究課題に応じた資料収集や実地調査を行う。【PBL】【実地調査】
- (4)研究文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。【PBL】

- (5)研究結果とそれに至る経緯を論理的にまとめる。【PBL】
- (6)以上を文章化し、卒業論文を執筆する。【論文】
- (7)研究成果をプレゼンテーションする。【プレゼンテーション】

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定している。

7月末に中間報告、1月末に卒業研究発表会を開催予定である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

本科目は、論文完成に向けて、数カ月単位で学習時間を確保していく必要があるため、各授業に対する学習時間の設定は難しい。

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。課題解決に至る考察を進める。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表、最終発表等を目指して継続的に各自で学習を進める）

【事後学習】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文執筆を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学習を進める）

評価方法および評価の基準

論文70%（提出された論文の審査結果）、平常点30%（論文作成過程における取り組み状況、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表）をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標(1)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(2)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(3)論文(30/70)、平常点(10/30)

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別指導時に質疑応答を行う。また、執筆中の論文に対して、適宜コメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は、担当教員ごとに個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

文芸文化学科の学びの総まとめです。自分のオリジナルな研究を完成させましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進め、卒業論文を完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、各自がそれぞれの研究テーマの課題解決に取り組み、卒業論文を執筆、完成させる。その過程において、ゼミグループ内でのディスカッションを行い、完成した卒業研究のプレゼンテーションを実施する。【PBL】【討議・討論】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1)研究課題に対する目的と方法を定め、調査・考察した内容を説明することができる。
- (2)論理的思考に基づいて研究対象を批判・評価し、自分の意見を述べることができる。
- (3)自らの研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3文化比較、 -2課題発見・考察、 -3価値観創造

内容

本科目の授業は、グループ指導と個別指導によって実施するが、授業時間以外における各自の主体的な研究活動が重要である。

研究課題に対する取り組みの過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- (1)先行研究の課題を追究し、自分の研究課題を決定する。【PBL】
- (2)研究課題に対する目的と研究方法を定める。【PBL】
- (3)研究課題に応じた資料収集や実地調査を行う。【PBL】【実地調査】
- (4)研究文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。【PBL】

- (5)研究結果とそれに至る経緯を論理的にまとめる。【PBL】
- (6)以上を文章化し、卒業論文を執筆する。【論文】
- (7)研究成果をプレゼンテーションする。【プレゼンテーション】

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定している。

7月末に中間報告、1月末に卒業研究発表会を開催予定である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

本科目は、論文完成に向けて、数カ月単位で学習時間を確保していく必要があるため、各授業に対する学習時間の設定は難しい。

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。課題解決に至る考察を進める。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表、最終発表等を目指して継続的に各自で学習を進める）

【事後学習】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文執筆を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学習を進める）

評価方法および評価の基準

論文70%（提出された論文の審査結果）、平常点30%（論文作成過程における取り組み状況、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表）をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標(1)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(2)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(3)論文(30/70)、平常点(10/30)

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別指導時に質疑応答を行う。また、執筆中の論文に対して、適宜コメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は、担当教員ごとに個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

文芸文化学科の学びの総まとめです。自分のオリジナルな研究を完成させましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進め、卒業論文を完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、各自がそれぞれの研究テーマの課題解決に取り組み、卒業論文を執筆、完成させる。その過程において、ゼミグループ内でのディスカッションを行い、完成した卒業研究のプレゼンテーションを実施する。【PBL】【討議・討論】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1)研究課題に対する目的と方法を定め、調査・考察した内容を説明することができる。
- (2)論理的思考に基づいて研究対象を批判・評価し、自分の意見を述べることができる。
- (3)自らの研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3文化比較、 -2課題発見・考察、 -3価値観創造

内容

本科目の授業は、グループ指導と個別指導によって実施するが、授業時間以外における各自の主体的な研究活動が重要である。

研究課題に対する取り組みの過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- (1)先行研究の課題を追究し、自分の研究課題を決定する。【PBL】
- (2)研究課題に対する目的と研究方法を定める。【PBL】
- (3)研究課題に応じた資料収集や実地調査を行う。【PBL】【実地調査】
- (4)研究文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。【PBL】

- (5)研究結果とそれに至る経緯を論理的にまとめる。【PBL】
- (6)以上を文章化し、卒業論文を執筆する。【論文】
- (7)研究成果をプレゼンテーションする。【プレゼンテーション】

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定している。

7月末に中間報告、1月末に卒業研究発表会を開催予定である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

本科目は、論文完成に向けて、数カ月単位で学習時間を確保していく必要があるため、各授業に対する学習時間の設定は難しい。

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。課題解決に至る考察を進める。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表、最終発表等を目指して継続的に各自で学習を進める）

【事後学習】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文執筆を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学習を進める）

評価方法および評価の基準

論文70%（提出された論文の審査結果）、平常点30%（論文作成過程における取り組み状況、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表）をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標(1)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(2)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(3)論文(30/70)、平常点(10/30)

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別指導時に質疑応答を行う。また、執筆中の論文に対して、適宜コメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は、担当教員ごとに個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

文芸文化学科の学びの総まとめです。自分のオリジナルな研究を完成させましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進め、卒業論文を完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、各自がそれぞれの研究テーマの課題解決に取り組み、卒業論文を執筆、完成させる。その過程において、ゼミグループ内でのディスカッションを行い、完成した卒業研究のプレゼンテーションを実施する。【PBL】【討議・討論】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1)研究課題に対する目的と方法を定め、調査・考察した内容を説明することができる。
- (2)論理的思考に基づいて研究対象を批判・評価し、自分の意見を述べることができる。
- (3)自らの研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3文化比較、
- 2課題発見・考察、
- 3価値観創造

内容

本科目の授業は、グループ指導と個別指導によって実施するが、授業時間以外における各自の主体的な研究活動が重要である。

研究課題に対する取り組みの過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- (1)先行研究の課題を追究し、自分の研究課題を決定する。【PBL】
- (2)研究課題に対する目的と研究方法を定める。【PBL】
- (3)研究課題に応じた資料収集や実地調査を行う。【PBL】【実地調査】
- (4)研究文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。【PBL】

- (5)研究結果とそれに至る経緯を論理的にまとめる。【PBL】
- (6)以上を文章化し、卒業論文を執筆する。【論文】
- (7)研究成果をプレゼンテーションする。【プレゼンテーション】

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定している。

7月末に中間報告、1月末に卒業研究発表会を開催予定である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

本科目は、論文完成に向けて、数カ月単位で学習時間を確保していく必要があるため、各授業に対する学習時間の設定は難しい。

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。課題解決に至る考察を進める。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表、最終発表等を目指して継続的に各自で学習を進める）

【事後学習】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文執筆を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学習を進める）

評価方法および評価の基準

論文70%（提出された論文の審査結果）、平常点30%（論文作成過程における取り組み状況、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表）をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標(1)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(2)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(3)論文(30/70)、平常点(10/30)

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別指導時に質疑応答を行う。また、執筆中の論文に対して、適宜コメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は、担当教員ごとに個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

文芸文化学科の学びの総まとめです。自分のオリジナルな研究を完成させましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進め、卒業論文を完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、各自がそれぞれの研究テーマの課題解決に取り組み、卒業論文を執筆、完成させる。その過程において、ゼミグループ内でのディスカッションを行い、完成した卒業研究のプレゼンテーションを実施する。【PBL】【討議・討論】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1)研究課題に対する目的と方法を定め、調査・考察した内容を説明することができる。
- (2)論理的思考に基づいて研究対象を批判・評価し、自分の意見を述べることができる。
- (3)自らの研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3文化比較、 -2課題発見・考察、 -3価値観創造

内容

本科目の授業は、グループ指導と個別指導によって実施するが、授業時間以外における各自の主体的な研究活動が重要である。

研究課題に対する取り組みの過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- (1)先行研究の課題を追究し、自分の研究課題を決定する。【PBL】
- (2)研究課題に対する目的と研究方法を定める。【PBL】
- (3)研究課題に応じた資料収集や実地調査を行う。【PBL】【実地調査】
- (4)研究文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。【PBL】

- (5)研究結果とそれに至る経緯を論理的にまとめる。【PBL】
- (6)以上を文章化し、卒業論文を執筆する。【論文】
- (7)研究成果をプレゼンテーションする。【プレゼンテーション】

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定している。

7月末に中間報告、1月末に卒業研究発表会を開催予定である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

本科目は、論文完成に向けて、数カ月単位で学習時間を確保していく必要があるため、各授業に対する学習時間の設定は難しい。

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。課題解決に至る考察を進める。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表、最終発表等を目指して継続的に各自で学習を進める）

【事後学習】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文執筆を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学習を進める）

評価方法および評価の基準

論文70%（提出された論文の審査結果）、平常点30%（論文作成過程における取り組み状況、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表）をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標(1)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(2)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(3)論文(30/70)、平常点(10/30)

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別指導時に質疑応答を行う。また、執筆中の論文に対して、適宜コメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は、担当教員ごとに個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

文芸文化学科の学びの総まとめです。自分のオリジナルな研究を完成させましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進め、卒業論文を完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、各自がそれぞれの研究テーマの課題解決に取り組み、卒業論文を執筆、完成させる。その過程において、ゼミグループ内でのディスカッションを行い、完成した卒業研究のプレゼンテーションを実施する。【PBL】【討議・討論】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1)研究課題に対する目的と方法を定め、調査・考察した内容を説明することができる。
- (2)論理的思考に基づいて研究対象を批判・評価し、自分の意見を述べることができる。
- (3)自らの研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3文化比較、 -2課題発見・考察、 -3価値観創造

内容

本科目の授業は、グループ指導と個別指導によって実施するが、授業時間以外における各自の主体的な研究活動が重要である。

研究課題に対する取り組みの過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- (1)先行研究の課題を追究し、自分の研究課題を決定する。【PBL】
- (2)研究課題に対する目的と研究方法を定める。【PBL】
- (3)研究課題に応じた資料収集や実地調査を行う。【PBL】【実地調査】
- (4)研究文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。【PBL】

- (5)研究結果とそれに至る経緯を論理的にまとめる。【PBL】
- (6)以上を文章化し、卒業論文を執筆する。【論文】
- (7)研究成果をプレゼンテーションする。【プレゼンテーション】

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定している。

7月末に中間報告、1月末に卒業研究発表会を開催予定である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

本科目は、論文完成に向けて、数カ月単位で学習時間を確保していく必要があるため、各授業に対する学習時間の設定は難しい。

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。課題解決に至る考察を進める。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表、最終発表等を目指して継続的に各自で学習を進める）

【事後学習】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文執筆を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学習を進める）

評価方法および評価の基準

論文70%（提出された論文の審査結果）、平常点30%（論文作成過程における取り組み状況、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表）をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標(1)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(2)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(3)論文(30/70)、平常点(10/30)

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別指導時に質疑応答を行う。また、執筆中の論文に対して、適宜コメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は、担当教員ごとに個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

文芸文化学科の学びの総まとめです。自分のオリジナルな研究を完成させましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文芸文化学科の4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進め、卒業論文を完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、各自がそれぞれの研究テーマの課題解決に取り組み、卒業論文を執筆、完成させる。その過程において、ゼミグループ内でのディスカッションを行い、完成した卒業研究のプレゼンテーションを実施する。【PBL】【討議・討論】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1)研究課題に対する目的と方法を定め、調査・考察した内容を説明することができる。
- (2)論理的思考に基づいて研究対象を批判・評価し、自分の意見を述べることができる。
- (3)自らの研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3文化比較、 -2課題発見・考察、 -3価値観創造

内容

本科目の授業は、グループ指導と個別指導によって実施するが、授業時間以外における各自の主体的な研究活動が重要である。

研究課題に対する取り組みの過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- (1)先行研究の課題を追究し、自分の研究課題を決定する。【PBL】
- (2)研究課題に対する目的と研究方法を定める。【PBL】
- (3)研究課題に応じた資料収集や実地調査を行う。【PBL】【実地調査】
- (4)研究文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。【PBL】

- (5)研究結果とそれに至る経緯を論理的にまとめる。【PBL】
- (6)以上を文章化し、卒業論文を執筆する。【論文】
- (7)研究成果をプレゼンテーションする。【プレゼンテーション】

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定している。

7月末に中間報告、1月末に卒業研究発表会を開催予定である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

本科目は、論文完成に向けて、数カ月単位で学習時間を確保していく必要があるため、各授業に対する学習時間の設定は難しい。

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。課題解決に至る考察を進める。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表、最終発表等を目指して継続的に各自で学習を進める）

【事後学習】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文執筆を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学習を進める）

評価方法および評価の基準

論文70%（提出された論文の審査結果）、平常点30%（論文作成過程における取り組み状況、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表）をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標(1)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(2)論文(20/70)、平常点(10/30)

到達目標(3)論文(30/70)、平常点(10/30)

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別指導時に質疑応答を行う。また、執筆中の論文に対して、適宜コメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は、担当教員ごとに個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

文芸文化学科の学びの総まとめです。自分のオリジナルな研究を完成させましょう。